

科目名	☆教職概論（1機ナ建宇情微生美デ）				開講学年	1	講義コード	1810201	区分	選択	
英文表記	Introduction to the teaching Profession				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	金田健司										
研究室	本館306						オフィス アワー 金曜5限				
メールアドレス	k-kaneda @ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	教職の意味と意義 専門職としての「教師」の誕生(教員養成の歴史) 教育公務員に関わる法律 教員の職務とそれに関わる法律 「チーム学校」の意味、意義、運営										
授業概要	教職の意味と意義、教員養成(教師教育)の歴史、教育公務員としての教員の法的位置づけ、学校の組織体制における教員の職務及び役割等について、アクティブラーニングを取り入れた学修活動を展開する。また、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育施行令、学校教育法施行規則、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、地方公務員法、教育公務員特例法等の目的と内容について学修し、教育に関連する様々な事項の法的根拠についての理解を深めることを目的とする。							関連科目			
								連携科目:教育原論、教育制度論 発展科目:教育課程論、教育方法論、道徳教育指導論、教科教育法、事前・事後指導、教育実習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・教育の基礎的理解に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a, b	①	今日の学校教育や教職の社会的意義を理解することができる。									
a, b	②	今日の教員に求められる役割や資質・能力を理解することができる。									
a, d	③	教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解することができる。									
a, f, i	④	今日の複雑化・多様化している社会状況を踏まえ、学校(教師)が保護者や地域社会と連携し、「チーム学校」として組織的に迅速に諸課題・諸問題に対応することの重要性を理解することができる。									
a, b, d	⑤	学校教育に携わる者としての使命感や責任感、総合的な人間力、学校という組織の一員としての役割の重要性について認識を深め、教職への愛情と愛着、誇りを持つことができる。									
g	⑥	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	40	40	0	0	10	0	10	0	100		
教科書	教育の本質と教師の学び 学文社 高橋浩・金田健司 978-4-7620-2852-6										
参考書											

予備知識	I.小学校、中学校、高等学校の学校制度 II.小学校、中学校、高等学校の教員の職務内容(校務分掌を含む) III.熊本県教育委員会が出している「くまもとの教職員像」をパソコンで検索し、精読しておくこと。(なお、講義でも配布する予定である。)
DPとの関連	教職の意味と意義や、社会から求められる教師像を通して、教育者としての使命感、教育的愛情、広汎にして人間味豊かな教養、実践的指導力等の、教員として必要な資質・能力について理解し、身につけていくことは、「人間関係形成能力」、「社会形成能力」、将来の教職のための「キャリアプランニング能力」と深く関連するものである。
実務経験のある教員	
評価明細基準	I.定期試験40% II.中間試験40% 講義内容及び図書館の教育関連図書に関する内容の試験を予定している。 III.成果発表10% 講義内容に関するワークシートの発表 IV.学修到達度ポートフォリオ10%(16回目に提出のこと) なお、成果発表、中間試験の内容、期日等については、講義にて詳しく説明する。(定期試験については15回目に行う。) 成果発表、中間試験、定期試験の模範解答、それに至る考え方のフィードバックは、各試験(成果発表を含む)の実施後初回の講義にて行う。

I.教職を目指すものとして、意欲的・積極的に講義に参加すること。II.遅刻出席は20分までとし、20分を超えた場合には、原則として欠席扱いとする。III.成果発表等における Copy & Paste（剽窃行為）は、不正行為として厳重に処罰する。IV.講義室内においては水・お茶に限り飲用を認める。（むろん、服薬は認める。）V.教科書『教育の本質と教師の学び』は、毎回持参すること。VI.配布物はなくさぬよう、整理しておくこと。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	教育とは何か 同じ啓蒙主義の思想家ではあるものの、時代も国も異なるルソーとカントの教育思想を対照させ、「教育とは何か」にあえて迷い、教育についての解釈が広汎で膨大なことを考察する。	講義	【復習】ノートをよく読み返しておくこと。	40
2回	テーマ 内容	教職に在る者の呼称や教職についての考え方を班別に話し合い、意見や感想を全体に発表する。	講義 演習	【復習】ノートをよく読み返しておくこと。	40
3回	テーマ 内容	教育関係法規について 学校コンプライアンスの観点から、その重要性が指摘されている教育法規の概要について学ぶ。 資料を配布する。	講義	【予習】教科書の指定された箇所を精読してくる。【復習】教科書、配布資料で扱った範囲をよく復習しておくこと。	各60
4回	テーマ 内容	教育基本法改正の目的と内容 教育基本法改正の目的と改正箇所の内容／教育基本法改正と他の教育関係法規の改正との関連性について学ぶ。 資料を配布する。	講義	【予習】教科書の指定された箇所を精読してくる。【復習】教科書、配布資料を参照しながらノートをよく読んでおくこと。	各60
5回	テーマ 内容	教職の意義と求められる教師像 教職員の定義を理解したうえで、教師に求められている資質や能力について班別に話し合い、意見や感想を出し合い、全体に発表する。まとめとして、本県の「くまもとの教職員像」を提示し、求められる教師像について考え、発表する。なお、「くまもとの教職員像」についてはプリントし、配布する。	講義 演習	【復習】ノートの読み返し。	40
6回	テーマ 内容	教員養成の歴史 明治時代から戦後の教員養成改革に至るまでの流れを学ぶと同時に、わが国の学校制度の変遷についても学ぶ。 資料を配布する。	講義	【予習】教科書の指定された箇所を精読してくる。【復習】ノート、配布資料、教科書の読み返し。	各60
7回	テーマ 内容	教育職員免許法について 教育職員免許法と、その改正の経緯を学ぶとともに、教員免許更新制の内容について学ぶ。 資料を配布する。	講義	【予習】教科書の指定された箇所を精読してくる。【復習】ノートの読み返し。	各60
8回	テーマ 内容	教育公務員の身分、任用資格、服務 公立学校の教員について、教育公務員としての教員の「身分」と「任用資格」及び「服務」等について、教育関係法規をもとに話し合い、意見や感想を出し合い、全体のなかで発表する。 資料を配布する。	講義 演習	【予習】教科書と配布資料の指定された箇所を精読してくる。【復習】ノートの読み返し。	各60
9回	テーマ 内容	教育公務員の身分保障、勤務条件等 公立学校の教員について、教育公務員としての「身分保障」と「勤務条件」について、教育関係法規をもとに話し合い、意見や感想を出し合い、全体のなかで発表する。 資料を配布する。	講義 演習	【予習】教科書と配布資料の指定された箇所を精読してくる。【復習】ノートの読み返し。	各60
10回	テーマ 内容	教員の職務内容 教員の職務内容について、法的な役割を学び、教員の実際の職務内容について、意見や感想を出し合い、全体のなかで発表する。 資料を配布する。	講義 演習	【予習】学校の校務分掌について調べておくこと。	90

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学校組織と校務分掌	講義 演習	【予習】教員にとって、なぜ研修が重要なのかを考えること。【復習】校務分掌の各名称と内容を理解する。	各60
	内容	学校組織と校務分掌の内容について、高校での経験をもとに意見や既有的知識を出し合い、まとめ、全体のなかで発表する。			
12回	テーマ	教員の資質向上と研修	講義	【予習】教育実習での留意点をまとめておくこと。【復習】教員にとっての研修の重要性を理解する。	各60
	内容	職員研修の意義と研修制度の形態や種類について学ぶ。資料を配布する。			
13回	テーマ	教育実習の意義	講義	【予習】各県の採用試験の内容について調べる。【復習】教育実習での留意点をまとめておくこと。	各90
	内容	教育実習の概要および内容・方法例について学び、教育実習の意義について考える。資料を配布する。			
14回	テーマ	チーム学校の意味と意義	講義 演習	【予習】「チーム学校」という考え方の重要性を考えること。【復習】図書館などにある教育関連図書（雑誌を含む）を利用し、教員採用選考の各県の状況を調査する。	各120
	内容	複雑化・多様化が進む社会のなかで、学校が「チーム学校」として、保護者や地域社会と連携し、組織的に諸課題・諸問題に対応することの重要性について意見や感想を出し合い、全体のなかで発表する。資料を配布する。定期試験を行う。			
15回	テーマ	総括的評価とまとめ	講義 演習	【予習】「学修到達度ポートフォリオ」の作成とプリントアウトを完了させておくこと。	90
	内容	「学修到達度ポートフォリオ」の提出、定期試験のフィードバックを行う。総括的評価を行う。			

科目名	☆工業教育概論（1機建字情）				開講学年	1	講義コード	1810401	区分	選択		
英文表記					開講期	前期	開講形態		単位数	2		
担当教員	山本康詞 山路隆文 三品博昭 北田良二 橋本毅 里永憲昭 中牟田侑昌 白石和彦 東康二 村田泰孝 秋元一秀 上野賢仁											
研究室	各担当教員より指示						オフィス アワー 各担当教員より指示					
メールアドレス	@までの文字を入力@@以降を入力											
キーワード	工業倫理 環境エネルギー問題 高度情報通信技術 エレクトロニクス化											
授業概要	工業教育概論は、ものづくりを担うスペシャリストを育成する目的で行われる工業教育に必要な、各専門分野(機械・材料・電気電子・制御・情報・メカトロニクス・建築・構造・計画・環境等)を総合的・包括的に学び、工業高校の教師に求められる知識・能力を身に付けるための科目である。日本では、教育職員免許法に基づいて、学校教育法の第1条に定める学校の、教諭・助教諭・養護教諭・養護助教諭・栄養教諭・講師の職に就いている者は、各種の免許状の授与を受けている者でなければならないとされている。その中で教科「工業」の教員免許は、「産業としての工業の各分野に関する知識と技術を習得させることなどを目的とする」とある。これは、自身の専門分野だけでなく、工業のすべての分野についても知識を有していることが求められている。実際の学校においても自身の専門教科の他に「工業に関する学科」における共通科目として「工業技術基礎」「課題研究」「実習」「製図」「工業数理基礎」「情報技術基礎」等の科目を担当しなければならない。このことを踏まえて、本講座ではオムニバス形態で各専門学科の基礎的・基本的な内容を講義し、工業教育に必要な基礎的な汎用能力を高め、専門性の進化を図る。1 自身の専門分野外の内容もあるが、自身が指導することを想定して、積極的に受講すること。2 オムニバス形態であるが、講義ごとに完結するものではないことを理解しておくこと。3 課題やレポートは期限を厳守すること。								関連科目			
									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(高等学校 工業)【各科目に含めることが必要な事項】・・・工業の関係科目								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
①	工業教育は生涯にわたって学び続ける意欲と態度を有する、将来のスペシャリストを育成するという役割が期待されている。その意味で工業科目の基礎的・基本的な知識・技術を理解し、工業高校の教師に求められる知識・能力について、自身の考え方をまとめグループ討議や発表をすることができる。											
②	ものづくりに関する基礎的・基本的な基盤技術や、安全性を優先した工業製品の生産や社会基盤整備などの在り方を理解し、工業倫理及び環境やエネルギー問題について考察し、レポートを作成するなど文章で説明することができる。											
③	マルチメディアや高度情報通信技術の方向性について理解し、工業技術のエレクトロニクス化や製造技術のシステム化における工業教育の本質を理解し、自分の考えを整理して発表することができる。											
④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。											
⑤												
⑥												
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	90	0	0	10	0	100			
教科書												
参考書	基礎から学ぶ 電気電子・情報通信工学 講談社 田口俊弘、堀内利一、鹿間信介 Short History of Circuits and Systems River Publishers Franco Maloberti, Anthony C. DaviesA 土木教程選書 土木工学概論 鹿島出版会 石井一郎											

予備知識	
DPとの関連	工業教育概論は、工業高校の教師に求められる知識・能力を身に付けることを目的で行われる科目であり、工業高校の教師に求められる資質・能力として、基礎的・汎用的能力（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）を身に付け、それらを実践できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.レポート（1）オムニバス 6点×15回＝90点 2.ポートフォリオ 10点 ・到達目標を達成できたかを評価する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	【オリエンテーション】	講義 演習	各担当教員より指示	30
	内容	工業教育の役割、教育職員免許状取得資格(工業)、教科(工業)の内容、キャリア教育に関する基礎的な事項を講義し、工業高校の教師に求められる専門性について考察する。(担当:山本康詞)			
2回	テーマ	情報システムの階層構造	講義 演習	各担当教員より指示	60
	内容	通信ネットワークやコンピュータなどの情報通信システムはソフトウェア、ハードウェア共に階層構造を採用している。階層構造が開発者、設計者の分業を可能とし、一人の人間では全体を把握することが困難なほどに複雑な技術発展を可能にしたことを解説する。(担当:山路隆文)			
3回	テーマ	工業を支えるソフトウェア	講義 演習	各担当教員より指示	60
	内容	設計支援ソフトウェアの事例として半導体集積回路設計のソフトウェアについて紹介する。デジタル回路設計ではCMOS論理回路やブール代数も必要であるが現実的にはハードウェア記述言語による設計が行われていてソフトウェア開発に近いことを解説する。(担当:山路隆文)			
4回	テーマ	電気電子通信技術の歴史	講義 演習	各担当教員より指示	60
	内容	デジベア、オーム、ギルヒホッフなど回路の基礎理論を導いた人達、マックスウェル、マルコニなど電波のパイオニア、事業家としてのエジソンの業績等を紹介する。(担当:山路隆文)			
5回	テーマ	エネルギーの変換と制御	講義 演習	各担当教員より指示	60
	内容	発電、配電のしくみ、共振型磁気結合による無線電力伝送、直流電源のための回路技術を概説する。(担当:山路隆文)			
6回	テーマ	輸送機械分野	講義 演習	各担当教員より指示	60
	内容	航空機、ロケット、船並びに自動車等の輸送機械について、その運動の原理について解説する(担当:三品博昭)			
7回	テーマ	精密機械加工の基礎と役割	講義 演習	各担当教員より指示	60
	内容	精密機械加工の種類と特徴、基本原理、市場と製品事例、今後の展望(担当:北田良二)			
8回	テーマ	メカトロニクス分野	講義 演習	各担当教員より指示	60
	内容	メカトロニクスに必要な要素技術、設計に関する基礎知識、メカトロニクスの応用事例(担当:橋本毅)			
9回	テーマ	生産技術の概念と生産方法	講義 演習	各担当教員より指示	60
	内容	生産とは、生産技術システムとその分類、生産方式と生産管理(担当:里永憲昭)			
10回	テーマ	金属材料学概論	講義 演習	各担当教員より指示	60
	内容	鉄鋼材料および非鉄金属材料の諸性質や用途について(担当:中牟田侑昌)			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ 内容	非金属材料分野 セラミックスやCFRPなど非金属材料の種類や特徴について(担当:白石和彦)	講義 演習	各担当教員より指示	60
12回	テーマ 内容	構造分野 巨大地震にも耐える建築をめざして、耐震・免震・制振について説明する。(担当:東康二)	講義 演習	各担当教員より指示	60
13回	テーマ 内容	設備分野 建築環境工学、建築設備の受け持つ内容とその役割について説明する。(担当:村田泰孝)	講義 演習	各担当教員より指示	60
14回	テーマ 内容	計画分野 建築計画の位置づけを行った後、具体的な住宅を取上げ、住み手をイメージし、その空間から規模、寸法、動線について考察する。(担当:秋元一秀)	講義 演習	各担当教員より指示	60
15回	テーマ 内容	土木環境分野 土木の歴史、都市の歴史、土木行政、土木事業、土木技術の基礎分野(構造工学、水理学、土質工学、計画学)と応用分野(地盤、材料、交通、構造物、橋梁、河川、港湾、上下水道、廃棄物、環境、防災)について概説する。(担当:上野賢仁)	講義 演習	各担当教員より指示	60

科目名	☆総合的な学習の時間の指導法（2機ナ建字情微生美デ）			開講学年	2	講義コード	1810501	区分	選択	
英文表記	Teaching Method for Comprehensive Learning period			開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	木村 勝美									
研究室	本館付属棟 3 1 1					オフィス 昼休みの時間（本館付属棟 3 1 1 アワー）				
メールアドレス	kimura77@ed.sojo-u.ac.jp									
キーワード	総合的な学習の時間の趣旨 探究的な学習活動 四つの探究課題 多角的・多面的な評価									
授業概要	総合的な学習の時間の改訂の趣旨や目標・内容並びに全体計画・年間指導計画・単元計画の作成方法及び総合的な学習の時間の評価方法等についての講義を行う。また、探究的な見方や考え方を培う横断的・総合的な学習活動を展開するための単元計画や関連教材を作成させるとともに、学習活動内容を評価し改善させるなどの演習を行う。これらの横断的・総合的な学習活動や指導計画作成等を通して、課題対応能力や課題解決能力並びに人間関係形成能力や社会形成能力を培う。						関連科目			
							・関連科目：教科教育法、教育課程・特別活動論・発展科目：教育実習、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・・・総合的な学習の時間の指導法						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標									
d	①	総合的な学習の時間の意義及び目標・内容並びに各学校の目標・内容の設定方法等について理解することができる。								
d	②	総合的な学習の時間の全体計画、年間指導計画等の作成方法について理解し、知識や技能を身に付けることができる。								
h	③	探究的な学習活動の基本的な考え方や学習過程を理解し、単元計画としての学習指導案を作成することができる。								
h,i	④	総合的な学習の時間の評価の基本的な考え方や多角的・多面的な評価方法について理解するとともに、単元計画に係る学習指導案に評価の観点及び評価方法を位置づけすることができる。								
h,i	⑤	学習指導案に基づき学習活動を発表するとともに、その活動内容を評価し改善することができる。								
g	⑥	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。								
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	20	20	0	30	20	0	10	0	100	
教科書	総合的な学習の時間に関する自作教材 中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編 東山書房 文部科学省 高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編 学校図書 文部科学省									
参考書	中学校学習指導要領 東山書房 文部科学省 高等学校学習指導要領 東山書房 文部科学省 今、求められる力を高める総合的な学習時間の展開「中学校編」 教育図書 文部科学省 今、求められる力を高める総合的な学習時間の展開「高等学校編」 教育出版 文部科学省									

予備知識	<p>・小学校・中学校及び高等学校の総合的な学習の時間で習得した知識・技能・教育原論等で習得した総合的な学習の時間に関連した知識</p>
DPとの関連	<p>総合的な学習の時間の探究課題である「地域や学校の特色に応じた課題」や「生徒の興味・関心に基づく課題」、「職業や自己の将来に関する課題」等を通して人間関係形成能力や社会形成能力を修得していくとともに、年間指導計画や単元指導計画及び学習指導案の作成並びに学習活動の発表や相互評価を通して、課題対応能力や課題解決能力、批評能力等を身に付けていく。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1 中間・期末試験 40点 2.レポート 30点 ①授業内容に関するレポート、図書館の教育関連図書に関する課題のレポート ②年間指導計画及び単元計画(学習指導案)の作成 3.成果発表 20点 ①授業内容に関する課題に対する意見発表 ②学習指導案に基づく学習活動の発表 4.ポートフォリオ 10点 ・学修到達度レポート</p>

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し積極的に授業に参加すること。2.授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習をきちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	総合的な学習の時間の改訂の意義及び教育課程上の役割 総合的な学習の時間の創設の趣旨と経緯及び改訂の意義や要点並びに教科等の枠を超えた総合的な学習の時間の教育課程上の役割を通して、総合的な学習の時間における学習指導要領の目指す資質・能力の育成の在り方について学ぶ。	講義・演習	【予習】学修教材2を読み込んでおく。【復習】総合的な学習の時間の創設の趣旨や要点について復習しておく。	30 30
2回	テーマ 内容	総合的な学習の時間の目標及びその趣旨（総合的な学習の時間の特質に応じた学習の在り方、総合的な学習の時間で育成することを旨とする資質・能力）について学ぶ。	講義	【予習】学修教材3を読み込んでおく。【復習】総合的な学習の時間の目標について復習しておく。	30 30
3回	テーマ 内容	各学校において定める目標及び内容 学習指導要領の総合的な学習の時間の目標と学校で定める目標との関連、また、各学校において定める総合的な学習の時間の目標及び内容の設定の視点（基本的な考え方、探究課題の設定等）並びに目標や内容の取り扱い等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材4を読み込んでおく。【復習】各学校において定め目標及び内容について復習しておく。	30 30
4回	テーマ 内容	指導計画の作成に当たっての配慮事項 全体計画及び年間指導計画の作成に当たっての配慮事項（指導方法や指導体制、学習評価、言語能力・情報活用能力等の重視等）について、学校現場の指導計画等の具体的事例を参考に学ぶ。	講義	【予習】学修教材5を読み込んでおく。【復習】指導計画の作成に当たっての配慮事項について復習しておく。	30 30
5回	テーマ 内容	内容の取り扱いについての配慮事項 目標や内容に即した適切な学習活動を行うために、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動、情報の収集・整理・発信などの学習活動、自然体験等の体験活動、観察・実験、見学・調査等の学習活動を積極的に取り入れていく必要性のあることについて学ぶ。	講義	【予習】学修教材6を読み込んでおく。【復習】内容の取り扱いについての配慮事項について復習する。	30 30
6回	テーマ 内容	指導計画等の作成方法 全体計画、年間指導計画、単元計画との関連及び各指導計画の作成の必要性について学ぶ。また、指導計画の作成に当たって、目標・内容・学習活動・指導方法・学習評価・指導体制等の指導計画作成要素の設定の必要性について学ぶ。	講義	【予習】学修教材7を読み込んでおく。【復習】指導計画等の作成方法について復習する。	30 30
7回	テーマ 内容	指導計画の具体的作成方法 総合的な学習の時間の指導計画の作成に当たっての各学校が定める目標・内容の設定方法、探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力の設定方法及び比較・分類・関連づけ等の考えるための技法の活用等について学ぶ。	講義・演習	【予習】学修教材8を読み込んでおく。【復習】中間試験のために授業1回～7回までの学修内容を復習しておく。	30 90
8回	テーマ 内容	全体計画の作成方法 全体計画に盛り込むべき事項をグループで検討した後、具体的な全体計画の概要（各学校において定める内容等の必須要件、学習活動等の基本的な内容や方針等、生徒の実態・各教科等との関連等）について学ぶ。中間試験を実施しフィードバックする。	講義	【予習】学修教材9を読み込んでおく。【復習】全体計画の作成方法について復習する。	30 30
9回	テーマ 内容	年間指導計画の作成 生徒の学習経験・活動時期・各教科等との関連・外部の教育資源の活用・異校種との連携等に配慮しながら年間指導計画を作成する必要があることを学ぶ。また、主体的・対話的で深い学びを実現する単元計画の具体的な内容を班で検討し発表する。	講義・演習	【予習】学修教材9を読み込んでおく。【復習】年間指導計画作成について復習する。	30 30
10回	テーマ 内容	学習評価の在り方及び体制づくり 評価の基本的な考え方や留意点及び多角的・多面的な評価方法（ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価等）について学ぶ。また、体制整備の基本的な考え方や校内組織の整備の在り方について学ぶ。	講義	【予習】学修教材11を読み込んでおく。【復習】学習評価の在り方及び体制づくりについて復習する。	30 30

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	年間指導計画の具体的作成	講義・演習	【予習】学修教材12を読み込んでおく。【復習】年間指導計画を作成する。	30 80
	内容	各グループごとに四つの課題「横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題」を基に探究課題を設定し、年間指導計画を作成する。			
12回	テーマ	単元計画の作成の仕方	講義	【予習】学修教材13を読み込んでおく。【復習】単元計画の作成の仕方について復習する。	30 30
	内容	単元計画の真体的作成に当たっては、単元名、単元目標、生徒の実態、教材分析、単元の展開、評価方法を位置づけながら単元計画としての学習指導案を作成することを学ぶ。			
13回	テーマ	単元計画の具体的作成	講義・演習	【予習】学修教材14を読み込んでおく。【復習】学習指導案を作成する。	30 80
	内容	探究的な学習活動の基本的な考え方や学習過程（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の仕方）を理解するとともに、探究課題別にグループを編制し、単元計画としての学習指導案作成に取り組む。			
14回	テーマ	学習指導案の作成及び内容の検討	講義・演習	【予習】学習活動の発表準備をする。【復習】期末試験のために授業9回～14回までの復習をしておく。	30 80
	内容	グループごとに探究課題に基づく具体的な単元計画としての学習指導案を作成し、学習指導案の活動内容等について検討（点検・吟味）する。			
15回	テーマ	学習活動の発表及び相互評価・総評	講義・演習		
	内容	各グループが創意工夫した学習活動を発表するとともに、活動内容や発表方法等について相互評価する。期末試験の実施とフィードバック。総評、出席状況確認。			

科目名	☆進路指導・生徒指導論（2機ナ建宇情微生美デ）				開講学年	2	講義コード	1810601	区分	教職「必修」	
英文表記	Theory and Practice of Student Guidance				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	山本康詞										
研究室	本館付属棟 3 2 0						オフィス アワー 火曜日：昼休み、5時限目				
メールアドレス	yaya-sgy @ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	①生徒理解 ②教育相談 ③健全育成 ④キャリア教育 ⑤自己実現										
授業概要	今日の日本社会は、社会状況の変化もあって人間関係が希薄化する傾向にある。同時に家庭・地域社会の教育力が低下し、学校は生徒たちの多様な実態に対応できていないなど様々な問題を抱えている。受講者が将来指導するであろう生徒たちに「将来の生き方への関心を深め、社会人としてのあるべき姿を描かせ、自己実現を意識させていくか。」ということが生徒指導論の授業の概要である。1. 事前に下記のテーマにかかわる課題を示す。いずれもの課題も簡単に解決できないものではあるが、図書館の教職課程に関する推薦図書等を利用して、自分なりの解決法を考えて授業に臨むこと。2. 学習指導要領や生徒指導提要等の講座に関連する箇所を事前に読んでおくこと。3. 「教員の姿が、生徒の将来像である。」という信念を持ち、講義内容から自身の生活を常に顧みて、改善に努めること。							関連科目			
								1. 教職概論、2. 教育理論、3. 人間と心理、4. 特別活動論、5. 教育制度論、6. 道徳教育論	建築学科のみ	建築総合	建築計画
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・・・生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
a、b	①	教育の基本的な原理及び教師の責任について理解し、自身の考え方をまとめグループ討議や発表をすることができる。									
d、h	②	今日の様々な問題を抱えた学校の現状を理解し、その課題を解決するための生徒への関わりを考え、レポートを作成するなど文章で説明することができる。									
e、g	③	自ら考え、一人一人の生徒を理解していこうとする姿勢や態度を身に付け、実践的な課題に対し指導の在り方を例示することができる。									
	④	本科目における「学生到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	50	30	10	0	0	10	0	100		
教科書	生徒指導提要 教育図書 文部科学省 978-4-87730-274-0 自作資料集										
参考書	生徒指導論―真心と優しさ― 文化書房博文社 稲垣応顕 978-4-8301-1201-0 生徒指導・進路指導論 ガイダンスとキャリア教育の理論と実践 図書文化 吉田辰雄 978-4-8100-6463-6 犯罪・非行の心理学 有斐閣 藤岡 淳子 978-4641183476										

予備知識	教職員としての心構え,中学生・高校生の現状
DPとの関連	生徒指導は、生徒一人一人の「自己実現」を援助する目的で行われる重要な教育活動であり、教職に必要な資質・能力を身に付けるための科目である。そのため、基礎的・汎用的能力（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）を身に付け、それらを実践できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.定期試験による評価。50点 2.小テスト 3回実施 10点×3=30点 3.授業の受講前や受講後の課題として、図書館・図書室の蔵書等を学習させ、それに基づいたレポートを提出 10点 4.ポートフォリオ 学修到達度レポート 10点 【学生の到達度目標】の各項目の達成度とその理由を各200～250文字で入力しプリントアウトして提出

- 1.教科書、資料集(2回目の講義で配布)、ノート(ポートフォリオ)を必ず持参すること。
- 2.小テストは必ず提出すること。
- 3.レポートは期限内に提出すること。期限を厳守すること。剽窃等の行為をしないこと。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	生徒指導・進路指導とは 中・高生の現状・実態と考察、授業計画、学校における生徒指導・進路指導の意義	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p1～p3を読んでおく。【復習】参考資料p3～p4を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
2回	テーマ 内容	生徒指導・進路指導論の概念と課題 パーソナリティの発達的理解。教育課程上の位置付け。パーソナリティの形成、パーソナリティ理解の観点。適応と不適応、青年期の特徴。	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p4～p22を読んでおく。【復習】参考資料p4～p6を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
3回	テーマ 内容	生徒指導の原理と方法 生徒指導の要素、生徒指導の人間観と生徒観、生徒指導における視点、生徒の自己決定の重視。	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p40～p74を読んでおく。【復習】参考資料p10～p13を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
4回	テーマ 内容	生徒理解と生徒指導 生徒理解の基本、生徒理解の実際、生徒理解の前提。「ホドスト」(生徒理解について)	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p40～p74を読んでおく。【復習】参考資料p10～p13を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
5回	テーマ 内容	生徒指導・進路指導における教育相談 教育相談の目的、教育相談体制の構築、カウンセリングの基礎知識及び理論、教育相談の進め方。教育相談の意義、スクールカウンセラーとの連携。スクールソーシャルワーカーとの連携。	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p92～p126を読んでおく。【復習】参考資料p14～p22を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 50
6回	テーマ 内容	生徒指導と教科教育 楽しい授業と分かりやすい授業、生徒との信頼を構築する授業の在り方「グループ討議」「課題レポート」	講義 演習 S G D	【予習】参考資料p14～p22を読んでおく。「復習」グループ討議の内容を、他のグループの意見と比較し、レポートにまとめ提出する。	20 40
7回	テーマ 内容	問題行動への対応(1) 反社会的問題行動について、問題行動の早期発見、暴力行為、いじめといじめ問題への対応。インターネット・携帯電話にかかわる問題。被害発生時の対応。	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p152～p175を読んでおく。【復習】参考資料p28～p47を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
8回	テーマ 内容	問題行動への対応(2) 非社会的問題行動について、不登校と校内指導体制の在り方、性に関する課題、命の教育の意義。家出を防ぐ指導の在り方。悩みや病的疾患を抱える生徒への対応。	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p178～p191を読んでおく。【復習】参考資料p23～p27p48～p64を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
9回	テーマ 内容	課題の整理及び意見交換(1) 上記1～8のテーマについてその課題の整理及び意見交換。「ホドスト」(問題行動への対応)	講義 演習 S G D	【予習】ノート(ポートフォリオ)を整理し、自身の意見をまとめる。【復習】意見交換会の感想や自身の考えた内容をレポートにまとめる。	30 60
10回	テーマ 内容	心身の不適応を有する生徒への対応 学習障害について、特別支援教育について、個々の生徒の特性に応じた指導姿勢、保護者との協働、関係機関との連携。	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p152～p162を読んでおく。【復習】参考資料p76～p83を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学級活動と生徒指導・進路指導	講義 演習	【予習】生徒指導提要p75～p91を読んでおく。【復習】参考資料p48～p58を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
	内容	生徒指導と特別活動、生徒指導と学級活動、生徒会と生徒指導、学校行事と生徒指導、進路指導と生徒指導の関係、全体指導と個別指導			
12回	テーマ	進路指導とキャリア教育	講義 演習	【予習】キャリア教育についての配付資料を読んでおく。【復習】配布資料及び参考資料p58～p64を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
	内容	キャリア教育の意義、職業的発達段階と生徒保護者の考える発達課題、進路指導の現状と課題。			
13回	テーマ	生徒指導・進路指導に関する法制度及び地域や他機関との連携	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p192～p223を読んでおく。【復習】与えられた課題について自身の考えをノートにまとめる。	20 40
	内容	校前、懲戒と体罰、出席停止、青少年の保護育成に関する法令等、非行少年の処遇、家庭との連携、地域社会との連携、地域ぐるみで進める青少年の健全育成。			
14回	テーマ	生徒指導・進路指導の今日的課題と教師の成長 課題の整理及び意見交換(2)	講義 演習 S G D	【予習】生徒指導提要 p224～p226を読んでおく。【復習】参考資料p65～p73を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
	内容	生徒指導・進路指導の実践と課題、省察と自己評価の意義、教師の資質としての人間力、共感的な人間関係にみる教師の成長、生徒理解にみる教師の成長、教師の成長を促す良好な学校文化、生徒に働きかける技術(まなざしによる指導)上記10～14のテーマについての課題の整理及び意見交換「小テスト3」(信頼される教師)			
15回	テーマ	まとめテスト(定期考査)	講義 演習 S G D	【予習】ノート(ポートフォリオ)を整理し、自身の意見をまとめる。	50
	内容	ポートフォリオによる自己評価 総評、到達度ポートフォリオの提出			

科目名	☆特別支援教育論（2機ナ建宇情微生美デ）				開講学年	2	講義コード	1810801	区分	選択	
英文表記	Introduction to Special Needs Education				開講期	後期／集中	開講形態		単位数	1	
担当教員	河田将一（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業開始前後の非常勤控室				
メールアドレス	@までの文字を入力@@以降を入力										
キーワード	障害特性の理解と支援 特別支援教育の教育課程 体制整備 個別の指導計画と個別の教育支援計画 特別の教育的ニーズの理解										
授業概要	発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が通常の学級にも在籍している現状を踏まえ、当該幼児、児童及び生徒が主体的に学習し、生きる力を身に付けていくために、彼らの学習上又は生活上の困難を理解した上で、個別の教育的ニーズを把握し、園・学校総体として関係機関とも連携した組織的対応をしていくために必要な知識や支援方法を理解する。これらの知識や技術をもとに、社会人として自らの苦手な部分を理解しそれを周りの環境に適合させたり、職業人として関係機関との連携の在り方を学ぶなどの基礎的汎用的能力を身につける。							関連科目			
								1.文化社会関連科目:「人間と心理」2.教職関連科目:「教育制度論」「教育方法論」「教育概論」「教育心理学」「教育相談の理論と方法」			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a,d,g,i	①	障害の特性、心身の発達、学習上・生活上の困難等の基礎的知識について理解し例示することができる。									
a,d,g,i	②	特別支援教育に係る教育課程や支援方法を理解し例示することができる。									
a,d,e,g,i	③	特別支援教育の体制整備、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成、他機関等との連携について、その必要性と方法を理解し説明することができる。									
a,d,g,i	④	母国語や貧困の問題等がもたらす特別の教育的ニーズに対する組織的対応の必要性を理解し説明することができる。									
f,h	⑤	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	60	0	30	0	0	10	0	100		
教科書	なし(プレゼンデータを書き取りテキストとする)										
参考書	特別支援教育研究(月刊) 東洋館出版社 18807275 実践障害児教育(月刊) 学習研究社(学研) 02850788 特別支援教育(季刊) 東洋館出版社										

予備知識	<p>事前に、特別支援教育や、発達障害児の指導・支援に関連する図書を1冊以上読んでおくことが望まれる。特別な支援を必要とする幼児児童生徒の割合は年々増加傾向にあり、特別支援学校や特別支援学級だけでなく、通常の学級に在籍する児童生徒が多く、教育実習を含めて自身が教壇に立って指導・支援することになるという認識をした上で、予習、授業、復習に臨むこと。</p>
DPとの関連	<p>1.特別な支援を必要とする児童生徒等の発達を適切に促す人間性と支援観を身につける。2.すべての学校種別及び学級種別において対応が求められる特別な支援の必要な児童生徒等の基本的な支援が円滑にできるよう、基礎力と基本的な専門知識を身につける。3.特別支援教育に関連する多種多様な問題に気づき解決に向けて取り組むための課題発見力及び問題解決能力を身につける。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>定期試験の成績 60点 毎時間の小レポートの記載内容 30点 ポートフォリオ:「学習到達度評価レポート」を「SOJOポートフォリオシステム」に入力し、プリントアウトして8回目までに提出 10点</p>

1.出席の扱いは次のとおり。正規出席＝授業開始 15 分まで／遅刻出席…授業開始 30 分まで／30 分を超えた場合は欠席扱いとする。2.テキストはない。毎時間のプレゼンデータをノートに綴ることで、1冊のテキストができるようにする。3.必要に応じてプリントを配布することがある。基本的に資料等のプリントは配布しない。4.レポートなどの提出物のコピーアンドペースト等の剽窃（ひようせつ）は、不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	障害特性の理解と支援方法(1)	講義	予習:知的障害、発達障害などの障害について調べる。復習:代表的な障害の特性や困難について振り返る。	30 30
	内容	障害特性、学習上・生活上の困難の理解			
2回	テーマ	障害特性の理解と支援方法(2)	講義	予習:知的障害児・発達障害児の支援について調べる。復習:客観的視点の重要性と	30 30
	内容	障害特性、学習上・生活上の困難を踏まえた支援方法の理解(1) デザインメントに基づく指導と支援を中心に			
3回	テーマ	障害特性の理解と支援方法(3)	講義	予習:知的障害児・発達障害児の支援について調べる。復習:授業のユニバーサルデザインについて振り返る。	30 30
	内容	障害特性、学習上・生活上の困難を踏まえた支援方法の理解(2) ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり・指導と支援を中心に			
4回	テーマ	特別支援教育の教育課程	講義	予習:特別支援教育の制度について調べる。復習:就学前から始まる学校総体での支援を振り返る。	30 30
	内容	インクルーシブ教育システムの構築、就学先等の決定プロセスに関する理解、特別支援学校・特別支援学級・通級による指導に関する制度・内容の理解、自立活動とその内容の理解、交流及び共同学習の理解			
5回	テーマ	特別支援教育の体制整備	講義	予習:特別支援教育の制度について調べる。復習:就学前から始まる学校総体での支援を振り返る。	30 30
	内容	特別支援教育コーディネーターの指名、園・校内委員会の位置付け、研修の充実、特別支援学校のセンター的機能の活用、データベースの活用、ケース検討会の充実			
6回	テーマ	個別の指導計画・教育支援計画の作成等	講義	予習:個別の指導計画・教育支援計画について調べる。復習:計画がどのように活用されるかを振り返る	30 30
	内容	PDCAサイクルに基づく個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成、他機関との連携の重要性、移行支援の重要性			
7回	テーマ	特別な教育的ニーズの理解と対応	講義	予習:母国語が違う問題、貧困の問題について調べる。復習:支援の対象が多岐にわたることを振り返る。ポートフォリオ(到達レポート)の作成	30 30 60
	内容	母国語や貧困の問題等がもたらす特別な教育的ニーズの理解と組織的な対応			
8回	テーマ	試験と総括講義	講義、演習		
	内容	定期試験とこれまでの授業の総括としての講義			

科目名	☆地学実験（3ナ微生）			開講学年	3	講義コード	1811401	区分	選択		
英文表記	Earth science student experiments			開講期	前期	開講形態		単位数	2		
担当教員	吉朝朗（非常勤） 板橋 克美										
研究室	本館1階 非常勤講師室 F801					オフィス アワー 授業時間の前後					
メールアドレス	yoshiasa@kumamoto-u.ac.jp										
キーワード	地学 天文 気象 地質 化石										
授業概要	自然科学分野で活躍できる教育者・知識人であり、中でも教員や科学技術者を目標とする学生には「地学」は理科・自然科学分野として必要である。講義(実験・実習・演習等)を通して様々な宇宙・地球科学に関する課題に対応できる基礎能力と現象を数量的に捉えられる汎用的解析能力を養う。野外における各種観測方法、天体観望法、天気図・観天望気、地質調査、鉱物・化石鑑定方法、機器分析法、データ解析法等を実験・演習・実習形式で行う。課題設定、調査・解析、結果報告までを含めた、調査、天然試料の分析、データ解析、プレゼンテーション等の能力を身につける。宇宙・地球現象を理解する一助として各テーマの基礎的内容理解のうえで、観察・実験・実習を行う。主な内容は、1)層序・堆積・地質構造、データ処理、2)地史推定のための図学、3)岩石・鉱物の鑑定、結晶構造と相関係、4)天体の観察、5)気象観測天気図、観天望気、6)火山活動と災害、7)惑星・衛星の運動、太陽活動、気候の長期変動、化石にみる気候変動、8)自然災害、熊本の災害、9)持続可能な文明と観測、シミュレーションも取り扱う。							関連科目			
								関連科目:地学、理科教育法 発展科目:事前・事後指導、教育実習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校 必修 高等学校 選択【科目区分】・・・教科に関する科目(中学校及び高等学校 理科)【各科目に含めることが必要な事項】・・・地学実験(コンピュータ活用を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
a,b,c,d	①	地学分野において求められる課題探究、フィールドにおける調査法、天然試料の分析、データ解析等を通じて調査分析力を身に付けることができる。									
a,c	②	天気図等の作成や露頭観察・地層観察・化石採集・鉱物鑑定・鉱石判定および顕微鏡観察などから、及び示相化石と示準化石の判定・情報解読を行うことができる。									
a,c	③	ジオパーク、重要観察地や災害跡地を巡検し、地学現象との関わりを理解することができる。その際、野外調査を含め、地学実験を安全に行える態度を身に付けることができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	10	70	10	0	10	0	100		
教科書	授業中に指示する										
参考書	Foundation of Earth Science 貸し出し可能										

予備知識	<p>ガイダンス、安全講習を必ず受けること。野外調査等に必要な用具(実験調査用具、地図、防寒具、雨具など)は事前に連絡する。あらかじめ予習により内容を理解しておくこと、連絡した各自必要なものを準備する。各種観察では、レポートの作成・提出を求める。日程調整により野外巡検を行う。天草・三角地域、御船恐竜博物館での学習(バックヤード見学と体験を含む)など行う。なお、地質調査等詳しくは履修者に説明する。</p>
DPとの関連	<p>宇宙地球的視点、天文学的時間スケールから多面的に物事を考え、自然科学に関する知識に基づいて、基礎的・汎用的能力(「人間の本質・人間圏の矛盾」「地球に住む生命としての人間理解・創造的能力向上」「課題対応能力」)を身につけ、それらを実践できるようにする。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>実験・演習後のレポート 10x5=50点、野外実習後のレポート 4x5=20点、演習・実験中に行う口頭試問・成果発表・小テスト、20点。出席が3/4に満たないものは単位を与えない。図書館の学科推薦図書等を利用した課題への対応も評価する。2回の野外調査を1回でも無断で欠席した学生については、履修しなかったものとして取り扱う。ポートフォリオ評価10点 実験・演習後のレポートは即時返却し、野外実習後のレポートは次回授業時にフィードバックする。</p>

・資料を配る。天体観測、気象観測、鑑定、実験・実習、フィールドにおける調査法、天然試料の分析、データ解析、シミュレーション等を行う。ガイダンス・安全な野外調査における心得を講義・体験する。持続可能文明の必要性、科学的判断力を身に付けるための実験・実習・プレゼンテーション。地学の基盤実験内容・地学実験を行う。観察、実習、標本観察・命名法など多様な学習をする。講義室で内容の講義説明の後実習・実験に移る。レポートとして、科学的報告書を作成・提出する。・レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ ガイダンス・安全講習 内容 地学学習・実験・野外活動に安全について。履修にあたっての注意事項。地学を学ぶにあたっての地学学習・実験・野外活動に安全について。観測とスケッチング。	実験・演習	実験の意義を理解し、安全に地学関連実験を行うための基本を復習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
2回	テーマ 地形図と図学 内容 地形図の読み方、地形図記号、地形断面図、地図と利用、図学、地形、地図、雲仙の地形と変化、災害 ◇地形 代表的な「日本の地形」扇状地・三角州・河岸段丘・蛇行・リアス式海岸・海岸段丘・砂州・成層火山・氷河 地形・V字谷・U字谷・砂嘴など。	実験・演習	地形図や代表的な地形について予習しておくこと。野外・フィールドワークの基礎としての図学と技術について復習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
3回	テーマ 岩石と鉱物 内容 岩石と鉱物、造岩鉱物、鉱石と鉱床、火成岩と堆積岩・変成岩。岩石・鉱物の熱力学、岩石名、造岩鉱物の観察、粘土と岩石、堆積岩、変成岩の特徴、鉱物名	実験・演習	岩石について予習をし、多様な岩石の鑑定と分類方法について復習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
4回	テーマ 鉱物の結晶構造 内容 鉱物の結晶構造を描く。ゴジビユーターによる結晶構造描写、空間群と結晶格子。石英とミョウバン、方解石と氷、水・氷の特異性と氷河、表層環境	実験・演習	前回の岩石と鉱物について復習すること。鉱物の結晶構造とそこから得られる多様な情報について復習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
5回	テーマ 偏光顕微鏡による鉱物鑑定 内容 岩石を顕微鏡でみる。偏光顕微鏡による鉱物の鑑定、岩石・鉱物に残る過去の履歴・記録、年代決定、鉱物の不思議な性質	実験・演習	岩石と鉱物について予習しておくこと。偏光顕微鏡を用いた、岩石・鉱物の判定方法について復習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
6回	テーマ 天気図と観天望気 内容 天気図と観天望気、古気候。天気図と衛星、気象通報、過去の気候、古気候、シミュレーション	実験・演習	天気図を書けるようになり、実施の雲の様子を観察し、天気の変化について復習すること。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
7回	テーマ 災害と地学 内容 天災と地球活動、巨大地震・火山噴火・台風・津波被害、隕石衝突、太陽フレア。	実験・演習	災害やカストロフについての実習と予防について復習する。防災について予習しておくこと。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
8回	テーマ 野外学習(巡検1) 内容 阿蘇火山堆積物、御船層群と窓竜化石、阿蘇火山堆積物、御船層群と窓竜化石、御船層群の観察。1日かけて行う堆積環境、巡検については、バス運行、天候、実習地の状況、博物館の事情などがあり、受講者へ説明する	実験・演習	野外実習を実地にて行う。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
9回	テーマ 野外学習(巡検1) 内容 阿蘇火山堆積物、御船層群と窓竜化石、阿蘇火山堆積物、御船層群と窓竜化石、御船層群の観察。1日かけて行う堆積環境、巡検については、バス運行、天候、実習地の状況、博物館の事情などがあり、受講者へ説明する	実験・演習	野外実習を実地にて行う。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
10回	テーマ 野外学習(巡検2) 内容 天草・三角(天候によりプラネタリアム)の地質。天草・三角地域の現世堆積物、中生代の地層と示準・示相化石、海底火山堆積物の観察、不整合。1日かけて行う堆積環境、巡検については、バス運行、天候、実習地の状況など、受講時に説明する	実験・演習	野外実習を実地にて行う。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	野外学習(巡検2)	実験・演習	野外実習を実地にて行う。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
	内容	天草・三角(天候によりアラネタリウム)の地質。天草・三角地域の現世堆積物、中生代の地層と示準・示相化石、海底火山堆積物の観察、不整合。1日かけて行う堆積環境、巡検については、バス運行、天候、実習地の状況など、受講時に説明する			
12回	テーマ	太陽の日周運動と季節	実験・演習	太陽黒点やフレアなどを望遠鏡を用いて、観測、演習問題を解く。太陽の日周運動等について予習しておくこと。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
	内容	太陽の日周運動と季節。太陽の日周運動と季節による高度変化、および惑星の動きと金星の満ち欠け、ガリレオの観察と地動説			
13回	テーマ	太陽活動と地球への影響。	実験・演習	天体活動の観測方法について復習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
	内容	天体望遠鏡、太陽観察、黒点の記録、巨大フレア、太陽活動と地球への影響、季節変化と天体			
14回	テーマ	地球の形状、重力、地磁気	実験・演習	重力や地震等の観測データから、様々な情報の獲得について演習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
	内容	地球の形状、重力、地磁気。重力と高度、地球の形状、ジオイド、重力、地磁気、観測と変動、オーロラとバンアレン帯、地球地場が消える			
15回	テーマ	大気・海流、深海流	実験・演習	津波・大気の循環・高層大気等の観測データから、様々な情報の獲得について演習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出 ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	180
	内容	大気・海流、深海流の大循環、気候変動と未来、持続可能な文明。大気の構造、大気・海流、深海流の大循環、地球温暖化、			
16回	テーマ	気候変動と未来	実験・演習	気候変動や異常気象の観測データを用いた演習を通じて、未来予測を試みる。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
	内容	気候変動と未来、持続可能な文明、未来予測			

科目名	☆教育心理学（3機ナ建宇情微生美デ）				開講学年	3	講義コード	1811501	区分	選択	
英文表記	Educational Psychology				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	園部博範										
研究室	図書館4階						オフィス アワー 火曜と木曜2限目				
メールアドレス	sonobe-h@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	発達 学習と記憶 動機づけ 学習集団 教師の態度										
授業概要	<p>教育活動においては、幼児、児童及び生徒の心身の発達過程における特徴を知り、それに沿った学習活動を行わせる必要がある。本講義は教育活動に必要な心身の発達と学習、さらにそれらに適合した教育活動を行うための基礎的知識を習得するものである。また、本講義は教育活動以外においても、職場における人間関係、リーダーシップなどの汎用的能力を学習できるものでもある。1.授業に出てくる用語の意味をよく理解し、さらにそれを教育活動に活かせるように質問 するなどして理解を深める。2.授業中に提示した課題(質問)には、友達との会話を深めながら積極的に発表する。3.授業のテーマや課題をよく理解しているか、授業の最後に振り返りワークシートを記入 し、その日の授業内容を修得する。4.幼児、児童及び生徒の発達や学習、それを踏まえた教育関連の図書を読んでおく。5.中間試験の結果については、15回目にフィードバックする。</p>							関連科目			
								<p>1.文化社会関連科目:「人間と心理」「人間と哲学」2.教職関連科目:「教育相談の理論及び方法」「教職実践演習」「道徳教育指導論」「教職 概論」「教育方法論」</p>			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・教職に関する科目/教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・・・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
	学修・教育目標										
JABEE 記号	学生の到達度目標										
a, d	①	幼児、児童及び生徒の心身の発達過程とその特徴を理解できる。									
d, h	②	幼児、児童及び生徒に関する学習の理論を身につけ、その発達に適合した学習の過程を理解し、学習に関する基礎的な指導法を理解できる。									
g, h	③	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価できる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	20	50	0	20	0	0	10	0	100		
教科書	実践につながる教育心理学 北樹出版 櫻井茂男 978-4-7793-0325-8										
参考書	キーワード教育心理学 北大路書房 永江誠司 978-4-7628-2793-8 図でわかる発達心理学 福村出版 新井邦二郎 978-4-571-23034-9										

予備知識	<p>1.子どもの発達知識をもとに、自身の学校生活をもう一度振り返っておく。 2.子どもの学習がどのようにして形成されるかなどを身近な子どもを観察して、知識を深めておく。 3.スポーツ選手がモチベーションをあげるためにどのような工夫をしているか、テレビ等で学習しておく。</p> <p>4.発達心理学、学習心理学、認知心理学、社会心理学、脳科学の知識を身につけておく。</p> <p>5.幼児、児童及び生徒の発達や学習、それを踏まえた教育活動関連の新聞や雑誌の記事をよく読み、それらについて考えておく。</p>
DPとの関連	<p>1.教育心理学は人間の生涯発達が学べ、教職課程の学問であるので、優れた応用力を備えた専門家になるための汎用的基礎力と基本的な専門知識を身につけることができる。 2.教育心理学は学習やモチベーションなどを学ぶことができるので、課題対応能力を身につけることができる。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.定期試験(15回目) 50点 2.中間試験(8回目) 20点 3.レポート:いくつかのテーマから選択したものについて、調査し報告する。 A4の1枚、PC使用 1頁40行、1行40文字、MS明朝、10.5p、1000～1200文字 10回目にレポートの指示説明を行う。作成後は15回目までに提出する。20点 4.ポートフォリオ:「学習到達度評価レポート」を「SOJOポートフォリオシステム」に入力し、プリントアウトして、15回目までに提出する。10点</p>

1.試験は中間試験と定期試験のみを行い、追試・再試は実施しない。2.重要な部分のノートをとることを怠らないこと。3.授業後半の振り返りワークシートの記入で、学んだ事を再学習すること。4.課題を与えるので、グループワークは積極的に取り組むこと。5.質問されたら、横の人と相談してもいいので必ず答えること。6.グループ討論や当てられることが苦手な人は事前に申し出ること。7.レポートは期限以内に提出すること。8.レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	教育心理学とは、発達(1) ガイダンス。発達の特徴、発達の考え方、教育的意義について学ぶ。授業の振り返りワークシート①を記入する。	講義 演習	予習:教科書12～33Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート①を熟知すること	30
2回	テーマ 内容	発達とは(2) 発達曲線、各発達段階、各発達段階における発達課題、各段階の運動・言語・認知・社会性の発達について学ぶ。授業の振り返りワークシート②を記入する。	講義 演習	予習:教科書25～33Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート②を熟知すること。	30 30
3回	テーマ 内容	発達を促す教育活動 成熟優位性、学習優位性、発達の最近接領域、発達を促す教育、発達理解の意義について学ぶ。授業の振り返りワークシート③を記入する。	講義 演習	予習:教科書41～54Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート③を熟知すること。	30 30
4回	テーマ 内容	学習(1) 学習とは何か、古典的条件づけやオペラント条件づけなどの学習理論について学ぶ。授業の振り返りワークシート④を記入する。	講義 演習	予習:教科書55～71Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート④を熟知すること。	30 30
5回	テーマ 内容	学習(2) 記憶、覚えること、忘却の理由、考えること、知識を身につけることについて学ぶ。授業の振り返りワークシート⑤を記入する。	講義 演習	予習:教科書72～75Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート⑤を熟知すること。	30 30
6回	テーマ 内容	学習を支える動機づけ(1) 動機づけの定義、発達過程における動機づけ、内発的・外発的動機づけ、学習意欲の源について学ぶ。授業の振り返りワークシート⑥を記入する。	講義 演習	予習:教科書76～80Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート⑥を熟知すること。	30 30
7回	テーマ 内容	学習を支える動機づけ(2) 無気力と心身の発達、無気力になる理由、無気力を防ぐには、発達に即じた学習意欲を高める方法について学ぶ。授業の振り返りワークシート⑦を記入する。	講義 演習	予習:教科書81～89Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート⑦を熟知すること。	30 30
8回	テーマ 内容	学習と教育活動 心身の発達を基礎にした教育活動、学習理論を教育に活かす方法、主体的学習活動を行う方法について学ぶ。授業の振り返りワークシート⑧を記入する。中間試験	講義 演習	予習:教科書104～114Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート⑧を熟知すること。	30 30
9回	テーマ 内容	人間関係と社会性の発達(1) 人間関係の始まり、人間関係の広がり、思いやりや道徳性について学ぶ。授業の振り返りワークシート⑨を記入する。	講義 演習	予習:教科書115～123Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート⑨を熟知すること。	30 30
10回	テーマ 内容	人間関係と社会性の発達(2) 人間関係と社会性を育てる教育、思いやりや道徳性を育てる教育について学ぶ。授業の振り返りワークシート⑩を記入する。提出用レポート課題発表	講義 演習	予習:教科書124～129Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート⑩を熟知すること。レポート作成	30 30

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学級集団(1)	講義 演習	予習:教科書130～140Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート⑩を熟知すること。	30 30
	内容	集団の発達、学習集団の意義・特徴、子ども教師の関係、教師のリーダーシップ、教師の影響について学ぶ。授業の振り返りワークシート⑩を記入する。			
12回	テーマ	学級集団(2)	講義 演習	予習:教科書175～181Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート⑫を熟知すること。	30 30
	内容	友人関係の理解、学級の構造、集団力動、集団づくり、教師に求められる資質について学ぶ。授業の振り返りワークシート⑫を記入する。			
13回	テーマ	学習指導	講義 演習	予習:教科書182～189Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート⑬を熟知すること。	30 30
	内容	学習指導の考え方、様々な学習指導の方法、個別学習、グループ学習、発達や個人に合わせた効果的な学習指導について学ぶ。授業の振り返りワークシート⑬を記入する。			
14回	テーマ	教育評価(1)	講義 演習	予習:教科書190～192Pを読んでおく。復習:振り返りワークシート⑭を熟知すること。	30 30
	内容	教育評価とは何か、教育評価の意義、教育評価の目的と種類、教育評価の活かし方について学ぶ。授業の振り返りワークシート⑭を記入する。			
15回	テーマ	教育評価(2)	講義 演習		
	内容	発達に応じた教育評価、教育評価資料の集め方について学ぶ。授業の振り返りワークシート⑮を記入する。定期試験			

科目名	☆教育課程・特別活動論（3機ナ建宇情微生美デ）				開講学年	3	講義コード	1811601	区分	選択	
英文表記	Theory of Curriculum and Special Activities				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	木村 勝美										
研究室	本館付属棟 3 1 1						オフィス 昼休みの時間（本館付属棟 3 1 1 アワー）				
メールアドレス	kimura77@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	学習指導要領 教育課程の編成 特別活動										
授業概要	本科目は、学校教育を運営・推進するための教育計画等を構築するための教員として必要な基礎的資質・能力を育成する科目である。そのために、学習指導要領の基本的な考えや教育課程に係る各教科・特別活動・道徳・総合的な学習の時間の目標及び内容についての講義や教育課程の具体的編成についての演習を通して、計画立案能力や評価・改善能力を養う。また、特別活動の目標や内容(学級(HR)活動、生徒会活動、学校行事等)についての講義や学級活動・ホームルーム活動の学習指導案作成及び模擬授業などの演習を通して、課題対応能力や人間関係形成・社会形成能力を培う。							関連科目			
								・基礎科目:教職概論、教育制度論、教育原論 ・連携科目:教科教育法、道徳教育指導論、総合的な学習の時間の指導法 ・発展科目:事前・事後指導、教育実習、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教職に関する科目／教育課程及び指導法に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・特別活動の指導法・教育課程の意義及び編成の方法							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
d	①	学習指導要領改訂の基本方針や改訂の変遷等について文章で説明することができる。									
d	②	教育課程編成の意義及び編成方法や内容等について口頭で説明することができる。									
h	③	特別活動の目標や具体的活動内容等について文章で説明することができる。									
h,i	④	年間指導計画に基づき、指導過程や教材等を工夫し、学級(HR)活動に係る学習指導案を作成し模擬授業を適切に行うことができる。									
g	⑤	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	20	20	0	30	20	0	10	0	100		
教科書	教育課程・特別活動に関する自作教材 中学校学習指導要領解説総則編 ぎょうせい 文部科学省 高等学校学習指導要領解説総則編 東山書房 文部科学省										
参考書	中学校学習指導要領解説特別活動 ぎょうせい 文部科学省 高等学校学習指導要領解説特別活動編 海文堂出版 文部科学省										

予備知識	<p>・中学校・高等学校の教科(科目)・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の在り方 ・教職概論、教育制度論、教育原論で学修した知識・技能</p>
DPとの関連	<p>教育課程・特別活動論の授業内容でのHR活動や学校行事・生徒会活動を通して、人間関係形成力や社会形成能力の在り方を修得していくとともに、学級(HR)活動に係る模擬授業のための題材選定、学習指導案作成、教材作成等を通して、課題対応力や解決力を身に付けていく。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.中間・定期試験 中間試験 20点 定期試験 20点 2.レポート 授業内容に関するレポート及び図書館の教育関連図書に関する課題のレポート 提出 10点×3=30点 3.成果発表(口頭・板書、実技等) 模擬授業 20点 4.ポートフォリオ 10点 到達目標を達成できたかを評価する。</p>

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し積極的に授業に参加すること。2 授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習をきちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション・教育課程の概要 教育課程論・特別活動論に係るシラバス及び履修上の注意について説明する。教育課程に関する法令や各教科等の授業時数・単位数等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材2を読み込んでおく。【復習】教育課程の概要について復習しておく。	30 30
2回	テーマ 内容	学習指導要領の概要 新学習指導要領改訂の基本的な考え、「育成すべき資質・能力」の具現化、教育内容に関する主な改善事項等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材3を読み込んでおく。【復習】学習指導要領の概要について復習しておく。	30 30
3回	テーマ 内容	学習指導要領改訂の経緯 戦後からの学習指導要領の改訂の経緯や主な改正点、新学習指導要領の基本的な考え方について学ぶとともに、学習指導要領の必要性について協議する。	講義・演習	【予習】学修教材4を読み込んでおく。【復習】学習指導要領の必要性をまとめ、次回発表する。	20 50
4回	テーマ 内容	教育課程編成方法 教育課程編成の原則、教育課程編成の一般方針、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の目標・内容等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材5を読み込んでおく。【復習】教育課程編成方法について復習しておく。	30 30
5回	テーマ 内容	カリキュラム・マネジメントの在り方 カリキュラム・マネジメントの目的や三つの側面である教科等横断的なカリキュラムの作成、P・D・C・Aの手順、地域の人的・物的体制等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材6を読み込んでおく。【復習】教科横断的なカリキュラムを作成する。	30 60
6回	テーマ 内容	特別活動の目標と内容 特別活動の目標や内容、特別活動の特質、教育的意義等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材7を読み込んでおく。【復習】特別活動の目標と内容について復習する。	30 30
7回	テーマ 内容	学級(HR)活動の目標と内容 学級(HR)活動の目標や授業時数、具体的活動内容等について学ぶ。学業と進路について班討議を行い発表する。	講義・演習	【予習】学修教材8を読み込んでおく。【復習】「学ぶこと」と「働くこと」の関連についてまとめレポートを提出する。	20 70
8回	テーマ 内容	生徒会活動の目標と内容 生徒会活動の目標や授業時数、具体的な内容(生徒会組織・年間活動計画等)等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材9を読み込んでおく。【復習】授業1回～8回までの学修内容を復習しておく。	30 90
9回	テーマ 内容	学校行事の目標と内容 学校行事の目標と具体的な内容(儀式・文化・体育・旅行・勤労生産)等について学ぶ。中間試験を実施しフィードバックする。	講義	【予習】学修教材10を読み込んでおく。【復習】学校行事の目標と内容について復習する。	30 30
10回	テーマ 内容	特別活動の全体計画と年間指導計画の作成 特別活動全体計画、学級(HR)活動・生徒会活動・学校行事年間計画の概要、学級(HR)活動年間指導計画作成方法等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材11を読み込んでおく。【復習】学級(HR)活動年間指導計画を作成し提出する。	20 80

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学級(HR)活動の学習指導案の作成方法	講義	【予習】学修教材12を読み込んでおく。【復習】学習指導案の作成方法について復習する。	30 30
	内容	学級(HR)活動の学習指導案(細案・略案)の形式や作成方法、及び教材の作成・活用方法等について学ぶ。			
12回	テーマ	学習指導案及び教材等の作成	講義	【予習】学修教材13を読み込んでおく。【復習】模擬授業のための学習指導案を作成する。	20 90
	内容	班で検討しながら、模擬授業のための題材の選定、学習指導案の作成に取り組む。			
13回	テーマ	学習教材等の作成	講義・演習	【予習】教科教育法で学修した教材作成等を復習しておく。【復習】模擬授業のための教材等を作成する。	20 90
	内容	教材開発、発問の仕方、板書の工夫、教育機器の活用等を班で検討し、協働しながら模擬授業の計画を立てる。			
14回	テーマ	模擬授業と授業研究	講義・演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業の反省をまとめる。ポートフォリオの入力。	30 90
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
15回	テーマ	模擬授業と授業研究・総評	講義・演習		
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。期末試験を実施しフィードバックする。総評、出席状況の確認。			

科目名	☆道德教育指導論（3ナ微生美デ）				開講学年	3	講義コード	1811701	区分	選択		
英文表記	The Teaching Method of Moral Education				開講期	前期	開講形態		単位数	2		
担当教員	西村 陽一（非常勤）											
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業の前後の時間					
メールアドレス	@											
キーワード	道德性の目標 特設「道德の時間」 道德性の発達 特別の教科 道德											
授業概要	1.平成27年に「中学校学習指導要領」が一部改正され、「道德の時間」が「特別の教科 道德」となる。このことを踏まえて、道德教育の本質と歴史、意義を理解し、道德的課題を生徒が自身の問題と捉え、「考える道德」・「議論する道德」教育のあり方を考える。2.学習指導要領に示された道德教育及び道德科の目標、内容等を理解するとともに教科化の意義と背景について理解する。3.道德性の発達についての諸理論について学ぶ。4.多様な教材を活用した中学校の「道德」の授業指導案の作成や模擬授業を通して指導方法について理解する。								関連科目			
									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校 必修【科目区分】・・・教職に関する科目／教育課程及び指導法に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・道德の指導法								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
g	①	道德教育の本質を理解し、道德とは何かについて説明できるようになる。										
g h	②	道德教育の目標・内容を理解し、教育活動全体を通じた道德教育の必要性を理解している。										
h i	③	授業のねらいや指導過程を明確にして学習指導案を作成することができるようになる。										
	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。										
	⑤											
	⑥											
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計			
	60	0	0	30	0	0	10	0	100			
教科書	授業中に指示する											
参考書	中学校学習指導要領解説 道德編 文部科学省 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編 文部科学省											

予備知識	1.毎回、講義内容をワークシートに記入してよく読み返しておくこと。2.課題やレポートは提出期限内に提出すること。
DPとの関連	基礎的・汎用能力（「人間形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）を身に付け、それらを実践できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.中間試験 30点×2回 60点 2.レポート 2点×10回(20点)、学習指導案(10点) 30点 3.ポートフォリオ 「到達度ポートフォリオ」10点 到達目標の達成度を自己評価し、達成度とその理由を評価表に記入して提出する。

1.レポートは、必ず提出し提出期限内に提出すること。2.毎回、ワークシートに記入し、読み返しを行うこと。3.ワークシート、配布資料はバインダーに綴じておくこと。4.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひようせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	現代社会の道徳 道徳の現状と課題等について学習する。課題①(社会における道徳的課題)についてレポートを作成する。	講義 演習	【復習】社会における道徳的課題について理解しておく。課題①のレポートを作成し、次回提出する。	60
2回	テーマ 内容	道徳教育の意義と本質 学校教育における道徳教育の意義について学習する。課題②(学校教育における道徳教育の意義)についてレポートを作成する。	講義 演習	【予習】学校教育における道徳教育の意義について調べておく。【復習】課題②のレポートを作成し、次回提出する。	60 60
3回	テーマ 内容	道徳教育の歴史 道徳教育の歴史について学習する。	講義	【予習】わが国の道徳教育の歴史について調べておく。【復習】ワークシート、配布資料をよく読んでおくこと。	60 60
4回	テーマ 内容	学習指導要領の改訂と特別の教科 道徳 「道徳科」と「道徳教育」、道徳科の背景等について学習する。課題③(道徳科新設の経緯)についてレポートを作成する。	講義 演習	【予習】道徳科新設の経緯について調べておく。【復習】課題③のレポートを作成し、次回提出する。	60 60
5回	テーマ 内容	道徳教育と特別の教科 道徳 道徳教育と特別の教科「道徳」に求められていることについて学習する。課題④(特別の教科「道徳」の目標)についてレポートを作成する。	講義 演習	【予習】特別の教科「道徳」の目標について調べておく。【復習】課題④のレポートを作成し、次回提出する。	60 60
6回	テーマ 内容	道徳性の発達(1) 道徳性とは何か、道徳性の形成等について学習する。課題⑤(道徳性はどのように形成されるか)についてレポートを作成する。	講義 演習	【予習】道徳性はどのように形成されるか調べておく。【復習】課題⑤のレポートを作成し、次回提出する。	60 60
7回	テーマ 内容	道徳性の発達(2) 道徳性の発達理論について学習する。課題⑥(道徳性の発達理論)についてレポートを作成する。	講義 演習	【予習】道徳性の発達理論について調べておく。【復習】課題⑥のレポートを作成し、次回提出する。	60 60
8回	テーマ 内容	前半のまとめ 前半の講義内容についてのまとめと中間試験を行う。	講義 演習	【予習】前半の配布資料をよく読んで見直しておく。【復習】前半の講義内容の不確かな点を見直しておく。	60 60
9回	テーマ 内容	諸外国における道徳教育(1) 日本の道徳教育との違いについて学習する。課題⑦(諸外国の道徳教育の特徴)についてレポートを作成する。	講義 演習	【予習】諸外国の道徳教育について調べておく。【復習】課題⑦のレポートを作成し、次回提出する。	60 60
10回	テーマ 内容	諸外国における道徳教育(2) イギリス、アメリカ、フランスの道徳教育について学習する。課題⑧(イギリス、アメリカ、フランスの道徳教育の特徴)についてレポートを作成する。	講義 演習	【予習】イギリス、アメリカ、フランスの道徳教育について調べておく。【復習】課題⑧のレポートを作成し、次回提出する。	60 60

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案の作成(1)	講義 GD	【予習】道徳授業の資料について調べておく。【復習】課題⑨のレポートを作成し、次回提出する。	60 60
	内容	外部資料を活用した学習指導案の作成について学習する。課題⑨グループで学習案について検討し、原案を作成し提出する。			
12回	テーマ	学習指導案の作成(2)	講義 GD	【予習】学習指導案について検討しておく。【復習】課題⑩のレポートを作成し、次回提出する。	60 60
	内容	グループで学習指導案の検討を行い、課題⑩(学習指導案)を作成する。			
13回	テーマ	模擬授業の発表(1)	演習	【予習】模擬授業の発表について検討しておく。【復習】相互評価を行い、評価表を作成し、次回提出する。	60 60
	内容	各グループ代表による模擬授業の発表。相互評価を行い意見交換を行う。			
14回	テーマ	模擬授業の発表(2)	演習	【予習】模擬授業の発表について検討しておく。【復習】相互評価を行い、評価表を作成し、次回提出する。中間試験で解らなかった点について確認しておく。	60 60
	内容	各グループ代表による模擬授業の発表。相互評価を行い意見交換を行う。			
15回	テーマ	後半のまとめ・総評	講義 演習		
	内容	後半の講義内容についてのまとめと中間試験とフィードバックを行う。総評、出席確認、「到達度ポートフォリオ」の確認。			

科目名	☆工業科教育法Ⅰ(3機建宇情)				開講学年	3	講義コード	1811901	区分	教職「選択」	
英文表記	Method of Teaching Industrial Subjects I				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	山本康詞										
研究室	本館付属棟320						オフィス アワー 火曜日：昼休み、5時限目				
メールアドレス	yama-sgy @ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	実践教育 インターンシップ キャリア教育 学習指導案 アクティブラーニング										
授業概要	戦後の日本の復興の原動力であった団塊の世代と言われる高度技術者の大量退職、中国を始めとする新興国の急速な発展、関東大震災、円高、資源不足と日本は極めて先行き不透明な状況に立たされている。しかしながら、工業技術創造立国の礎づくりにとって、優れた中堅技術者の育成は急務であり、そのための良き指導者の養成は不可欠である。このことを踏まえて、本講座では、我が国の技術教育の歴史やものづくりの原点に戻り、工業教育の将来像について考察する。併せて、技術者としての倫理や、工業教育に携わる者に求められる資質(人間尊重を基盤とした豊かな人間性、教育への意欲・情熱・使命感、高い専門性と旺盛な研究心、広い識見、アクティブラーニングの視点など)の重要性について示唆する。その際、できるだけ学校や企業の現場を重視した資料を準備し、実践的・実地的な工業教育の在り方を示す。1 自作テキストを使って授業を展開する。なお、できるだけ実際の現場に近いテーマを扱うこと(実学を念頭に置き、関係資料やDVDなどを活用して理解度を高める。DVDやパワーポイントでは、教育から企業現場(工業技術) 2ものづくりプロフェッショナル関連まで幅広く紹介する。3 必要に応じて、教育観や仕事へのビジョン構築にむけた論文作文演習も取り入れる。							関連科目			
								基礎科目：教育原論、教育制度論、教職概論、生徒指導論 連携科目：工業科教育法Ⅱ、教育方法論 発展科目：事前・事後指導、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教職に関する科目／教育課程及び指導法に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a, i	①	日本及び各国の中等工業教育を念頭に置いた上で我が国の工業教育の現状と課題を認識し、21世紀の工業教育の在り方について、自身の考え方をまとめグループ討議や発表をすることができる。									
d, g	②	工業科に係る学習指導要領の意義・目標等を理解し、工業科の教育課程編成の在り方と授業実践上の留意点等を研究し、レポートを作成するなど文章で説明することができる。									
d	③	工業教育の本質を理解し、工業科教員に必要な教育観や品格について、自分の考えを整理して発表することができる。									
f	④	学習指導要領(工業)に即した指導の在り方を考え、学習指導案を作成することができる。									
	⑤	本科目における「学生到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	50	15	10	15	0	10	0	100		
教科書	自作テキスト										
参考書	高等学校学習指導要領解説工業編 実教出版 文部科学省 978-4-407-32001-5 高等学校指導要領 東山書房 文部科学省 987-4-8278-1478-1 工業科教育法の研究～新しい観点と実践に基づく 実教出版 池守他2名 4-407-31056-1 工業科・技術科教育法(教職必修) 実教出版 教職課程研究会 978-4-407-03059-4 「改正」教育基本法を考える 北樹出版 浪本 勝年, 三上 昭彦 978-4779301346										

予備知識	学習指導要領の内容、工業の教授・学習論、教育評価
DPとの関連	工業科教育法は、ものづくりを担う人材育成を支援する目的で行われる重要な教育活動であり、工業高校の教師に求められる資質・能力(技術者としての倫理観・職業観、実践的職業能力、論理的に思考し処理する能力、)を身に付けるための科目である。そのため、基礎的・汎用的能力(「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」)を身に付け、それらを実践できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1. 定期試験による評価。50点 2. 小テスト 3回実施 5点×3=15点 3. レポート 授業の受講前や受講後の課題として、図書館・図書室の蔵書等を学習させ、それに基づいたレポートを提出 10点 4. グループ討議、プレゼンテーション等による発表15点 5. ポートフォリオ 10点 「学生の到達度目標」の各項目の達成度とその理由を200～250文字で入力してプリントアウトして提出 その他、学生の学修行動記録(紙媒体)

1.授業への参加姿勢を知るためノート提出を求める。ポートフォリオの評価点として加味するので指示に従い、ポイントを押さえてノートすること。2.確認テストを3回実施するので、復習は特に怠らないようにすること。3.全員専門科目が異なるため、専門科目の高校生用教科書を準備すること。4.レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃行為は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 「オリエンテーション・工業教育の意義・役割・目標・内容」 内容 工業教育の役割、技術教育と適正年齢の意義、工業教育の目標、教科【工業】の内容	講義 演習	【予習】テキストp4～p8を読んでおく。【復習】工業教育の意義について自身の考えをノートにまとめる。	10 50
2回	テーマ 教育関係法 内容 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育施行令、学校教育施行規則、産業教育振興法関係、学習指導要領、地方行政の組織と運営に関する法律、その他の法令等、SGD（教育実践と法令）小テスト1（法令関係）	講義 演習 SGD	【予習】テキストp9～p22を読んでおく。【復習】地方教育行政の仕組みについてレポートにまとめる。	15 45
3回	テーマ 工業高校発展の歴史と現状 内容 日本の工業と工業教育の概観、工業教育の歴史、工業高校への課題、参考資料 SGD（工業高校への課題）	講義 演習 SGD	【予習】テキストp23～p29を読んでおく。【復習】工業高校の課題についてノートにまとめる。	15 45
4回	テーマ 教科【工業】の共通科目 内容 共通科目の考え方、具体的に学習指導要領から、工業技術基礎、課題研究、その他の共通科目 SGD（課題研究の意義）小テスト2（工業の共通科目の目的について）	講義 演習 SGD	【予習】テキストp30～p37を読んでおく。【復習】課題研究、工業数理基礎のねらいについてノートにまとめる。	15 45
5回	テーマ 工業科の主な学科の実験・実習の内容紹介 内容 教科【工業】の科目、主な学科の実験・実習テーマ SGD（実験実習の役割）	講義 演習 SGD	【予習】テキストp38～p46を読んでおく。【復習】自身の専門教科の実験実習のテーマを確認し、内容をノートにまとめる。	15 45
6回	テーマ 実践的工業教育 内容 就業体験（インターンシップ）、資格取得、参考資料（インターンシップ）DVD視聴	講義 演習	【予習】テキストp47～p53を読んでおく。【復習】就業体験の成果と課題について、内容をノートにまとめる。	15 45
7回	テーマ 教育課程の編成から単元の計画まで 内容 カリキュラムの概念、教育課程の意義、教育課程の目標、教育課程の役割、教育課程の構成要素、工業高校における教育課程の特徴、教育課程の編成から単元計画までの手順の概略、教育課程の大枠を決めるときの配慮事項、教科・工業における年次計画作成に当たっての配慮事項、年間計画（シラバス）の作成の配慮事項、単元計画と授業分析、教科書の選定 小テスト3（教育課程の目的）	講義 演習 SGD	【予習】テキストp54～p62を読んでおく。【復習】教育課程の意義について、ノートにまとめる。	15 45
8回	テーマ 授業設計、学習指導案、授業改善及び教育実習 内容 系統的学習における授業構造、学習指導案、授業の改善、アクティブラーニングの視点、教育実習 SGD（アクティブラーニングについて）	講義 演習 SGD	【予習】テキストp63～p69を読んでおく。【復習】「授業中の生徒と教師の関係」について、自身の考えを整理しノートにまとめる。	15 60
9回	テーマ 教育評価 内容 新しい教育観と教育評価、評価、評定の実際 SGD（新しい学力観について） 討議の内容をプレゼンテーション（グループ発表）する	講義 演習 SGD	【予習】テキストp70～p73を読んでおく。【復習】「評価の基本的な考え方」について、内容をノートにまとめる。	15 45
10回	テーマ 学習と授業理論 内容 教育論の歴史的展開、授業の方法、授業形態、参考資料（世界の教授論、教育思想） SGD（プラグマティズムについて）	講義 演習 SGD	【予習】テキストp74～p81を読んでおく。【復習】「プラグマティズム」について、内容をノートにまとめる。	15 45

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	学習指導案作成	講義 演習	【予習】学習指導案の資料を基に、自分の専門学科の資料を準備する。【復習】参考資料を基に、指導案(略案)を作成する。	50 50
	内容	自学科・科目の授業テーマ設定と指導案(略案)作成			
12回	テーマ	模擬授業実践(先輩による模擬授業)	講義 演習 S G D	【予習】作成した指導案の学習指導要領解説(工業編)記載事項を確認する。【復習】作成した指導案を訂正し、完成させる。	50 50
	内容	「模擬授業実践(先輩による模擬授業)」模擬授業実践(15分間)、研究授業の実際(DVD視聴) SGD(模擬授業の感想)			
13回	テーマ	授業力を高める工夫	講義 演習 S G D	【予習】テキスト p82～p89を読んでおく。【復習】教材・教具の活用の意義について、ノートにまとめる。	15 45
	内容	アクティブラーニングの実践、パワーポイント、教材・自作教具の活用、その他教育機器の活用 SGD(教材教具の活用について)			
14回	テーマ	工業教育と進路指導、学校運営と教育力向上への取り組み	講義 演習 S G D	【予習】テキストp90～p106を読んでおく。【復習】キャリア・アンカーについて、図書館等の蔵書等を活用してレポートにまとめる。	15 45
	内容	生き方の教育としての進路指導、工業教育における進路指導、工業教育における進路指導の取り組み、工業教育における進路指導の実際、ものづくり教育の実際、学校運営、地域と工業高校、学校の教育力向上・活性化を目指す取り組み、PTAと諸団体、関係機関、教師の教育力向上			
15回	テーマ	まとめテスト(定期考査)	講義 演習 S G D	【予習】自己を省察し、到達度ポートフォリオを入力する。	75
	内容	総評、到達度ポートフォリオの提出			

科目名	☆理科教育法Ⅱ（3ナ微生）				開講学年	3	講義コード	1812101	区分	選択	
英文表記	Teaching Method of Science Ⅱ				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	田中 均（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間の前後（非常勤講師室）				
メールアドレス	egd000599791@Lib.bbiq.jp										
キーワード	理科教育 授業設計(理科) 模擬授業(理科) 学習指導案(理科) 実践的指導力(理科)										
授業概要	理科教育法では、教科等に関する専門的知識や実践的指導力等の教員として必要な資質・能力とともに、社会人としても必要な人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力などの基礎的・汎用的能力の育成を図る。中学校および高等学校における理科教育においては、理科教育法Ⅰの学習を基礎として、学習指導要領に示された学習内容について自然科学の学問領域と関連させて理解を深め、学習指導案の作成や教材研究、板書計画などの具体的な授業を想定した授業設計について学習する。子供の実態を視野に入れた授業設計の重要性並びに学習内容についての指導上の留意点を理解し、授業における基本的指導技術を身に付ける。各自が作成した学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して、アクティブラーニングの視点に立った授業改善並びに情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用する。							関連科目			
								基礎科目：理科教育法Ⅰ、教育原論、教育制度論、教職概論、生徒指導論 連携科目：理科教育法Ⅲ、理科教育法Ⅳ、教育方法論 発展科目：事前・事後指導、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教職に関する科目／教育課程及び指導法に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
	学修・教育目標										
JABEE記号	学生の到達度目標										
d	①	学習指導要領に示された個別の学習内容について、指導上の留意点や学習評価の考え方を理解し、具体的な授業を想定した授業設計を行うことができる。									
d,f	②	理科の授業における基本的な指導技術を身に付け、学習指導案に基づいた模擬授業を実践することができる。									
f	③	模擬授業の振り返りを通して授業改善の視点及び実践的指導力の基礎を身に付け、授業設計の向上についてレポートで報告することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	60	30	0	10	0	100		
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編 文部科学省 中学校理科の教科書 高等学校理科の教科書										
参考書	授業中に適宜指示する。										

予備知識	学習指導要領(理科)の内容
DPとの関連	「基礎的・汎用的能力(「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力)」を身につけ、それらを実践できるようにする。」に関連する科目である。将来、理科教師を目指すための基本的事項について学修し、学校現場での具体的な授業を行うための実践的指導力の基礎を身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.レポート 演習①～⑫の12回分 5点×12回=60点 2.成果発表 模擬授業の内容 2点×15項目=30点 学習指導、発問・指示、板書について模擬授業チェックシートの15項目について評価する。3.ポートフォリオ 学修到達度レポート 10点 【学生の到達度目標】の各項目の達成度とその理由を各200～250文字で入力しプリントアウトして提出 レポートは次回授業時に、成果発表はその場でフィードバックする。

1. 中学校理科および高等学校理科の「教員免許状」の取得を希望する者を対象とする。2. レポートは期限以内に提出すること。3. 授業を受講するための準備として必要な資料作成や終了後のレポート作成に必要な情報収集には、図書館等の蔵書等を活用すること。4. 講義に関する質問・相談等は、オフィスアワーなどを積極的に活用すること。5. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	イントロダクション	講義	【復習】配布資料から理科教員に必要とされる実践的指導力について整理しておく。	30
	内容	理科教育法Ⅱに関する内容を概説し、中央教育審議会等の答申及び実践研究の動向から、理科教員に必要とされる実践的指導力について考える。			
2回	テーマ	単元計画(1)	講義 演習 G D	【予習】学習指導要領の学習内容の単元構成を調べておく。 【復習】演習①について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	学習指導要領に示された理科の学習内容の単元構成について学び、演習①(教材観・系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
3回	テーマ	単元計画(2)	講義 演習 G D	【予習】子供の実態に応じた指導方法について調べておく。【復習】演習②について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	子供の実態に応じた効果的な指導方法や学習活動について学び、演習②(生徒観・指導観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
4回	テーマ	単元計画(3)	講義 演習 G D	【予習】観点別評価について調べておく。【復習】演習③について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	理科の目標及び理科の観点別評価について学び、演習③(評価計画)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
5回	テーマ	学習指導案(略案)	講義 演習 G D	【予習】学習指導案(略案)の書き方について調べておく。【復習】演習④について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	本時の学習指導の流れ及び学習活動・指導上の留意点について学び、演習④(学習指導案(略案))についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
6回	テーマ	理科の授業と指導技術(1)	講義 演習 G D	【予習】理科教育の指導技術について調べておく。【復習】演習⑤について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	効果的な説明・指示・発問及び情報機器の効果的な活用など授業を行う際に留意すべき点について学び、演習⑤(学習指導の教材研究)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
7回	テーマ	理科の授業と指導技術(2)	講義 演習 G D	【予習】板書計画作成の留意点について調べておく。【復習】演習⑥について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	学習形態の工夫及び板書計画作成の留意点並びに教材の効果的な活用法について学び、演習⑥(学習指導の板書計画)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
8回	テーマ	前半の講義内容についてのまとめ	講義	【予習】1~7回の配布資料及び演習レポートを読んでおく。【復習】発展的な学習内容及び実践研究の動向について整理しておく。	45 3 0
	内容	1~7回の学習内容の振り返りと発展的な学習内容及び実践研究の動向について探究する。			
9回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(1)	講義 演習 G D	【予習】模擬授業を行う際の留意点について調べておく。【復習】演習⑦について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学び、演習⑦(子供の実態に応じた学習活動)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
10回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(2)	講義 演習 G D	【予習】理科教育の指導上の留意点について調べておく。【復習】演習⑧について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学び、演習⑧(指導上の留意点)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(3)	講義 演習 G D	【予習】理科教育の観点別評価について調べておく。【復習】演習⑨について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学び、演習⑨(観点別評価)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
12回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(4)	講義 演習 G D	【予習】理科教育の指導技術について調べておく。【復習】演習⑩について記述し次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学び、演習⑩(指導技術)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
13回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(5)	講義 演習 G D	【予習】教材の効果的活用について調べておく。【復習】演習⑪について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学び、演習⑪(教材の効果的な活用)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
14回	テーマ	ICTを活用した理科の授業づくり	講義 演習 G D	【予習】ICTを活用した理科教育について調べておく。【復習】演習⑫について記述し、次回の講義で提出する。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	30 3 0
	内容	ICTを活用した授業作りを学び、演習⑫(効果的なパワーポイント作成)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
15回	テーマ	後半の講義内容についてのまとめ	講義	【予習】9～14回の配布資料及び演習レポートを読んでおく。【復習】発展的な学習内容・実践研究の動向について整理しておく。	45 3 0
	内容	9～14回の学習内容の振り返りと発展的な学習内容及び実践研究の動向について探究する。			

科目名	☆理科教育法Ⅳ（3ナ微生）				開講学年	3	講義コード	1812201	区分	選択	
英文表記	Teaching Method of Science Ⅳ				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	田中 均（非常勤講師室）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間の前後（非常勤講師室）				
メールアドレス	egd000599791@Lib.bbiq.jp										
キーワード	理科教育(中学校) 授業設計(中学校理科) 模擬授業(中学校理科) 学習指導案(中学校理科) 実践的指導力(中学校理科)										
授業概要	理科教育法では、教科等に関する専門的知識や実践的指導力等の教員として必要な資質・能力とともに、社会人としても必要な人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力などの基礎的・汎用的能力の育成を図る。中学校における理科教育においては、理科教育法Ⅲの学習を基礎として、子供の実態を視野に入れた授業設計について学習を深め、中学校の理科教員として必要な基本的指導技術を身に付ける。学習指導要領に示された第1分野「エネルギー・粒子」、第2分野「生命・地球」について、具体的な授業を想定した授業設計を行い、学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して、アクティブラーニングの視点に立った授業改善並びに情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用する。							関連科目			
								基礎科目：理科教育法Ⅰ、理科教育法Ⅲ、教育原論、教育制度論、教職概論、生徒指導論 連携科目：理科教育法Ⅱ、教育方法論 発展科目：事前・事後指導、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校 必修【科目区分】・・・教職に関する科目／教育課程及び指導法に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
	学生の到達度目標							学修・教育目標			
JABEE 記号											
d,f	①	学習指導要領に示された目標及び内容を踏まえて、中学校理科の各分野の具体的な授業を想定した学習指導案を作成することができる。									
d,h	②	中学校理科の各分野の学習指導案に基づいた模擬授業を実践することができる。									
c,d	③	教材研究や授業研究の視点を生かして、学習用のワークシートを作成することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	60	30	0	10	0	100		
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省 中学校理科の教科書										
参考書	授業中に適宜指示する。										

予備知識	学習指導要領(中学校理科)の内容
DPとの関連	「基礎的・汎用的能力(「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力)」を身につけ、それらを実践できるようにする。」に関連する科目である。将来、理科教師を目指すための基本的事項について学修し、学校現場での具体的な授業を行うための実践的指導力の基礎を身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.レポート 演習①～⑫の12回分 5点×12回=60点 2.成果発表 模擬授業の内容 2点×15項目=30点 学習指導、発問・指示、板書について模擬授業チェックシートの15項目について評価する。3.ポートフォリオ 学修到達度レポート 10点 【学生の到達度目標】の各項目の達成度とその理由を各200～250文字で入力しプリントアウトして提出 レポートは次回授業時に、成果発表に関しては、その場でフィードバックする。

1. 中学校理科の「教員免許状」の取得を希望する者を対象とする。2. レポートは期限以内に提出すること。3. 授業を受講するための準備として必要な資料作成や終了後のレポート作成に必要な情報収集には、図書館等の蔵書等を活用すること。4. 講義に関する質問・相談等は、オフィスアワーなどを積極的に活用すること。5. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容	講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 中学校理科教育の現状と課題 内容 国内外の各種調査結果及び実践研究の動向から、中学校における理科教育の現状と指導上の課題について学ぶ。	講義	【復習】配布資料から中学校理科教育の現状と指導上の課題について整理しておく。	30
2回	テーマ 単元別指導・評価計画 内容 学習指導要領における中学校理科の各分野の単元別指導・評価計画の作成について学び、演習①(指導計画)についてグループで討議し、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】単元別指導・評価計画について調べておく。【復習】演習①について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
3回	テーマ 授業実践のための教材研究 内容 情報機器及び教材の効果的な活用法並びに評価資料収集の技法について学び、演習②(教材研究)についてグループで討議し、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】情報機器活用・評価資料について調べておく。【復習】演習②について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
4回	テーマ 学習指導案(略案)(1) 内容 第1分野「エネルギー」の単元計画の中の本時の学習活動・指導上の留意点について学び、演習③(学習指導案(略案))についてグループで討議し、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】「エネルギー」の単元計画について調べておく。【復習】演習③について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
5回	テーマ 学習指導案(略案)(2) 内容 第1分野「粒子」の単元計画の中の本時の学習活動・指導上の留意点について学び、演習④(学習指導案(略案))についてグループで討議し、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】「粒子」の単元計画について調べておく。【復習】演習④について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
6回	テーマ 学習指導案(略案)(3) 内容 第2分野「生命」の単元計画の中の本時の学習活動・指導上の留意点について学び、演習⑤(学習指導案(略案))についてグループで討議し、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】「生命」の単元計画について調べておく。【復習】演習⑤について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
7回	テーマ 学習指導案(略案)(4) 内容 第2分野「地球」の単元計画の中の本時の学習活動・指導上の留意点について学び、演習⑥(学習指導案(略案))についてグループで討議し、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】「地球」の単元計画について調べておく。【復習】演習⑥について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
8回	テーマ 前半の講義内容についてのまとめ 内容 1～7回の学習内容の振り返りと発展的な学習内容及び実践研究の動向について探究する。	講義	【予習】1～7回の配布資料及び演習レポートを読んでおく。【復習】発展的な学習内容及び実践研究の動向について整理しておく。	45 3 0
9回	テーマ 模擬授業の実施と振り返り(1) 内容 第1分野「エネルギー」の学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学び、演習⑦(指導上の留意点・評価)についてグループで討議し、レポートを作成する。	演習 D G	【予習】「エネルギー」の学習指導案について調べておく。【復習】演習⑦について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
10回	テーマ 模擬授業の実施と振り返り(2) 内容 第1分野「粒子」の学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学び、演習⑧(指導上の留意点・評価)についてグループで討議し、レポートを作成する。	演習 D G	【予習】「粒子」の学習指導案について調べておく。【復習】演習⑧について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(3)	演習 D G	【予習】「生命」の学習指導案について調べておく。【復習】演習⑨について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	第2分野「生命」の学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学び、演習⑨(指導上の留意点・評価)についてグループで討議し、レポートを作成する。			
12回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(4)	演習 D G	【予習】「地球」の学習指導案について調べておく。【復習】演習⑩について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	第2分野「地球」の学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学び、演習⑩(指導上の留意点・評価)についてグループで討議し、レポートを作成する。			
13回	テーマ	学習ワークシートの作成 I	演習 D G	【予習】ワークシートの表記の注意点について調べておく。【復習】演習⑪について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	ワークシート作成の目的と方法を学び、演習⑪(ワークシート作成計画「テーマ選択」)についてグループで討議し、レポートを作成する。			
14回	テーマ	学習ワークシートの作成 II	演習 D G	【予習】ワークシートの改善点について纏めておく。【復習】演習⑫について記述し、次回の講義で提出する。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	30 3 0
	内容	ワークシート作成計画(学習構想)を学び、演習⑫(ワークシート作成の評価)についてグループで討議し、レポートを作成する。			
15回	テーマ	後半の講義内容についてのまとめ	講義	【予習】9～14回の配布資料及び演習レポートを読んでおく。【復習】発展的な学習内容・実践研究の動向について整理しておく。	45 3 0
	内容	9～14回の学習内容の振り返りと発展的な学習内容及び実践研究の動向について探究する。			

科目名	☆情報科教育法Ⅰ（3情）				開講学年	3	講義コード	1812301	区分	選択	
英文表記	Education of Information Science I				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	元田暁輝（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間後（非常勤講師室）				
メールアドレス	motoda2008@gmail.com										
キーワード	情報 教育 授業 学習指導案 教師										
授業概要	この授業の目標は、学校現場で活躍できる情報科教員の育成である。そのため情報を担当する教員には情報科教育法Ⅰは不可欠である。この講義をとおして情報教育の意義を学ぶ。さらに、教科「情報」の成立過程の目的や背景を知り、教科「情報」の3つの観点からの指導方法、評価の方法、指導案の作成など授業を遂行する上で必要なスキルを身に付けるための講義を行う。また、模擬小授業を数多く実践し、学校現場の課題に対応できるリーダーシップやコミュニケーション能力などの基礎的汎用能力を涵養する。							関連科目			
								連携科目：教育方法論、事前・事後指導			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教職に関する科目／教育課程及び指導法に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
d	①	教科「情報」教員免許取得のための教科教育方法理論を学び高度な模擬授業をすることができる。									
d	②	教科「情報」の学習指導案を作成することができる。									
g	③	教科「情報」の年間指導計画を作成することができる。									
d,h	④	学校の中で情報モラルやセキュリティを推進する役割を果たすことができる。									
g	⑤	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	60	0	10	0	100		
教科書	社会と情報 日本文教出版 水越敏行 他										
参考書	高等学校学習指導要領解説情報編 開隆堂 文部科学省										

予備知識	教科「情報」を指導する上での情報リテラシーやプログラミング能力
DPとの関連	優れた企画力と実、践力を持つ教科「情報」の教員として基礎的な知識のみならず、時代の流れを読み、情報社会の未来をイメージすることができる。また、教師として高い倫理観を持ち、コミュニケーション力、チームワーク力、授業のデザイン力、実践力を身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1レポート 30点 2 成果発表 60点 成果発表は主に模擬授業を行い、授業の遂行能力や授業のデザイン力、コミュニケーション力などを総合的に評価する。 3.ポートフォリオ評価(学修到達度評価) 10点

・正規出席は授業開始15分まで、遅刻出席は授業開始30分まで、30分を超えた場合は欠席扱いとする。・レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	情報教育の意義	講義	教科「情報」を学ぶことに意義について	30
	内容	情報教育とは何か、なぜそれを学ぶ必要があるのか、教科「情報」の背景となる成立過程について学ぶ			
2回	テーマ	学習指導要領における教科「情報」の位置付け	講義	教科「情報」の教育課程の中での位置付けについて予習	30
	内容	情報化に対応するための教育について、文部科学省の方針と他教科や教育課程全体の構造的な位置付けについて学ぶ			
3回	テーマ	情報を担当する教員に必要な資質	講義	学校における情報担当教師の資質について予習	30
	内容	情報について何をどう伝えるのか、そのために必要な知識や技能はどのようなものがあるかについて学ぶ			
4回	テーマ	情報活用の実践力の指導法	講義	模擬授業の準備	60
	内容	課題や目的に合った情報手段の適切な活用、必要な情報の主体的な収集・判断・表現・創造、受け手を考えた発信・伝達方法について学ぶ			
5回	テーマ	情報の科学的な理解の指導法①	講義	模擬授業の準備 N進数について	60
	内容	デジタル信号とアナログ信号、AD変換の基礎、サンプリング、量子化、符号化についての指導法を学ぶ			
6回	テーマ	模擬授業	演習	模擬授業の準備 授業の評価と反省	60
	内容	N進数(2進数、8進数、16進数)についての模擬授業を実施			
7回	テーマ	情報の科学的な理解の指導法③	講義	レポートの提出	30
	内容	プログラミングの基礎やアルゴリズムの基礎についての指導法を学ぶ			
8回	テーマ	情報の科学的な理解の指導法④	講義	レポートの提出	30
	内容	対象をモデル化し、シミュレーションを行うこと対象の数理科学的な性質や挙動を計測することなどについて学ぶ			
9回	テーマ	情報社会に参画する態度の指導法	講義	レポートの提出	30
	内容	情報モラルや情報倫理についての知識を持ち、SNSやネットワークを活用した情報の受信や発信について適切な行動をとることを学ぶ			
10回	テーマ	情報通信ネットワークとセキュリティ	講義	模擬授業の準備	60
	内容	情報の価値が大きくなっている状況を踏まえ、リスクの現状とセキュリティの大切さについて学ぶ			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	模擬授業	演習	模擬授業の準備 模擬授業の評価・反省	60
	内容	マイクロ授業の実施とライブドバグ			
12回	テーマ	メディアリテラシーとその指導法	講義	レポートの提出	30
	内容	メディアが流す情報の特徴を理解し、その内容を分析する能力、さらにメディアの適切な活用について学ぶ			
13回	テーマ	評価の方法	講義	模擬授業の準備	60
	内容	四つの観点からの教科「情報」に関する評価方法について学ぶ			
14回	テーマ	学習指導案の作成	講義	模擬授業の準備 ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	60
	内容	教科「情報」の単元を選定し、授業設計を行い学習指導案を作成する。			
15回	テーマ	模擬授業・まとめ	演習	模擬授業の準備 模擬授業の評価・反省	90
	内容	学習指導案に基づく模擬授業の実施と授業の総括を行う			

科目名	☆美術科教育法Ⅲ（3美デ）				開講学年	3	講義コード	1812501	区分	選択	
英文表記	Art Education Method Ⅲ				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	坂本健（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間後の非常勤講師室				
メールアドレス	skmt@shokei-gakuen.ac.jp										
キーワード	学習指導案 学習評価 評価規準・基準 副教材										
授業概要	<p>授業をするにあたっては、学習指導案を作成することで目標やねらいを明確にし、より良い学習指導を目指すことが必要となる。美術科教育法Ⅱでは学習指導案(略案)を作成し、実際の授業の流れをイメージすることを目指したが、この授業においては、学習指導案を作成することにより、その題材自体に対する概念を明確にし、指導方法を考察していくことを目的とし、さらには学習評価の方法や副教材の活用法を理解することでより良い学習指導を目指す。そして、その過程においては形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解することや形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること等、[共通事項]にかかわる内容についても考察を行う。また、学修をする上では、毎回の授業でテーマに沿ってのまとめを記入するので、自分の考えを明確に書き、提出をすること。その後はフィードバックを行うので、返却後はもう一度、その学修内容を振り返るようにすること。その他、各種提出物は期日までに必ず提出をすること。そして、教育者を目指す学生においては本科目における講義・演習を通して、学校教育、及び美術科教育に関する課題に対応できる基礎能力と人間関係形成・社会形成能力を養う。</p>							関連科目			
								基礎科目:美術科教育法Ⅰ・美術科教育法Ⅱ 連携科目:美術科教育法Ⅳ 発展科目:教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ・教職実践演習			
教職関連区分	[教員免許状取得のための必修・選択]・・・中学校 必修 [科目区分]・・・教職に関する科目/教育課程及び指導法に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a,b,e,f,g,h	①	学習指導案作成の概念と方法を理解することができる。									
a,b,e,f,g,h	②	学習評価の在り方と観点を理解することができる。									
g	③	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	15	50	0	10	25	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	中学校学習指導要領解説 美術編 高等学校学習指導要領解説 美術編										

予備知識	これまで自身が受けてきた中学校・高等学校での美術の授業、及び美術科教育法Ⅰ・Ⅱの内容について整理しておく
DPとの関連	美術教育の実践に関わる本科目は「人間関係形成・社会形成能力」に関連するものである。美術教育の専門家を目指すための基礎的・基本的な知識を身に付け、学校教育現場での具体的な指導内容について理解する。
実務経験のある教員	
評価明細基準	レポート：授業最終回に行うまとめレポートで15点 成果発表：演習（学習指導計画・学習指導案）での課題で50点。ポートフォリオ：ポートフォリオで10点 その他：講義内容に関するテーマのまとめで25点

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	学習指導案の作成Ⅰ	講義	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱで書いた指導案略案と学習指導案の意義について確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	学習指導案の作成について(概念と形式) 本テーマに沿ってのまとめ			
2回	テーマ	学習指導案の作成Ⅱ	演習	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱで書いた指導案略案と前時の内容を確認【復習】講義の内容と学習指導案の整合性を確認	90
	内容	演習:学習指導案作成①			
3回	テーマ	学習指導案の作成Ⅲ	演習	【予習】前時の内容を確認【復習】講義の内容と学習指導案の整合性を確認	90
	内容	演習:学習指導案作成②			
4回	テーマ	学習評価についてⅠ	演習	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱでの学習評価の内容を確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	学習評価の在り方と評価規準・基準			
5回	テーマ	学習評価についてⅡ	講義	【予習】前時の内容を確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	評価規準の設定と工夫 本テーマに沿ってのまとめ			
6回	テーマ	学習評価についてⅢ	講義	【予習】前時の内容を確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	教科目標と評価の観点及びその趣旨 本テーマに沿ってのまとめ			
7回	テーマ	学習評価についてⅣ	講義	【予習】前時の内容を確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	評価規準と評価基準の作成について 本テーマに沿ってのまとめ			
8回	テーマ	学習指導案の作成Ⅳ	演習	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱで書いた指導案略案と前時の内容を確認【復習】講義の内容と学習指導案の整合性を確認しておく	90
	内容	演習:学習指導案作成③			
9回	テーマ	学習指導案の作成Ⅴ	演習	【予習】前時の内容を確認【復習】講義の内容と学習指導案の整合性を確認	90
	内容	演習:学習指導案作成④			
10回	テーマ	学習指導案の作成Ⅴ	演習	【予習】前時の内容を確認【復習】講義の内容と学習指導案の整合性を確認	90
	内容	演習:学習指導案作成④			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案の作成Ⅵ	演習	【予習】前時の内容を確認【復習】講義の内容と学習指導案の整合性を確認しておく	90
	内容	演習:学習指導案作成⑤			
12回	テーマ	学習指導案の作成Ⅶ	演習	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱの副教材についての内容を確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	演習:学習指導案作成⑤			
13回	テーマ	副教材についてⅠ	講義	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱの副教材についての内容を確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	副教材の重要性と具体例 本テーマに沿ってのまとめ			
14回	テーマ	副教材についてⅢ	演習	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱの副教材についての内容を確認【復習】授業の内容を確認 ポートフォリオ(達成度レポート)の作成。	90
	内容	副教材の作成について②			
15回	テーマ	まとめ	講義	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの内容を確認【復習】授業の内容を反芻し、指導案を完成させ提出をする	90
	内容	まとめレポート			

科目名	☆美術科教育法Ⅳ（3美デ）				開講学年	3	講義コード	1812601	区分	選択	
英文表記	Art Education Method IV				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	大村充弘（非常勤）：										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間後（非常勤講師室）				
メールアドレス	m.oomura@kcr.ac.jp										
キーワード	学習指導案 学習評価 指導計画 学習指導要領 模擬授業										
授業概要	美術科教育法Ⅰ～Ⅲの流れを汲みつつ、より現場に即した実際の授業の展開を目指す。作成した指導案に沿った教材研究及び授業展開とその評価方法などの一連の流れを体験的に学習していく。中学校・高校で行われている授業時間50分を目安に模擬授業を行い、模擬授業後の授業研究会においては授業者側の視点・生徒側の視点を交え、双方向的な意見を交換し、議論することによってより良い学習指導のための概念や方法論について考察する。また、学修をする上では、模擬授業ごとに考察を記入するので、自分の考えを明確に書き提出すること。その後フィードバックを行うので、返却後はもう一度、その学修内容を振り返ること。その他、各種提出物は期日までに必ず提出をするようにすること。そして、教育者を旨とする学生においては本科目における講義・演習を通して、学校教育、及び美術科教育に関する課題に対応できる基礎能力と人間関係形成・社会形成能力を養う。							関連科目			
								基礎科目：美術科教育法Ⅰ 関連科目：美術科教育法Ⅱ・美術科教育法Ⅲ 発展科目：教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ・教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校 必修【科目区分】・・・教職に関する科目／教育課程及び指導法に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a,d,e,f,g,h,i	①	模擬授業を通して実際の授業の流れを理解することができる。									
a,d,e,g	②	模擬授業において指導方法を考察するための観察の視点を持つことができる。									
a,d,g,h	③	より良い学習指導のための概念と方法論を理解し、それを実践することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	40	30	0	10	20	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	中学校学習指導要領解説 美術編 日本文教出版 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 美術編 教育出版 文部科学省										

予備知識	<p>これまで自身が受けてきた中学校・高等学校での美術の授業、及び美術科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの内容について整理しておく。</p>
DPとの関連	<p>美術教育の実践に関わる本科目は「人間関係形成・社会形成能力」に関連するものである。美術教育の専門家を目指すための基礎的・基本的な知識を身に付け、学校教育現場での具体的な指導内容について理解する。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>レポート：前時授業内容(模擬授業)の考察 5点×8回＝40点 成果発表：授業者：教材準備等10点＋授業内容20点＝30点 ポートフォリオ：ポートフォリオで10点 その他：授業研究会における発言・意欲等20点</p>

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽竊は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション ～模擬授業の意義と授業研究会の在り方について	講義	予習:美術科教育法Ⅰ～Ⅲで作成した指導案を振り返り、指導案の意義について確認 復習:授業の内容を確認	90
2回	テーマ 内容	模擬授業の意義と準備Ⅰ 用具と材料について	講義	予習:前時の内容を確認 復習:授業の内容を確認	90
3回	テーマ 内容	模擬授業の意義と準備Ⅱ 資料と板書計画について	講義	予習:前時の内容を確認 復習:授業の内容を確認	90
4回	テーマ 内容	模擬授業の意義と準備Ⅲ 授業の流れと発問について	講義	予習:前時の内容を確認 復習:授業の内容を確認	90
5回	テーマ 内容	教材の研究Ⅰ 教材研究①	演習	予習:指導案を基に参考作品制作のための用具・画材等の準備 復習:授業の内容を確認	90
6回	テーマ 内容	教材の研究Ⅱ 教材研究②	演習	予習:指導案を基に参考作品制作のための用具・画材等の準備 復習:授業の内容を確認	90
7回	テーマ 内容	授業の実践と省察Ⅰ 模擬授業及び授業研究会①	演習	予習:授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習:模擬授業を考察し、レポート作成	90
8回	テーマ 内容	授業の実践と省察Ⅱ 模擬授業及び授業研究会②	演習	予習:授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習:模擬授業を考察し、レポート作成	90
9回	テーマ 内容	授業の実践と省察Ⅲ 模擬授業及び授業研究会③	演習	予習:授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習:模擬授業を考察し、レポート作成	90
10回	テーマ 内容	授業の実践と省察Ⅳ 模擬授業及び授業研究会④	演習	予習:授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習:模擬授業を考察し、レポート作成	90

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	授業の実践と省察Ⅴ	演習	予習：授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習：模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	模擬授業及び授業研究会⑥			
12回	テーマ	授業の実践と省察Ⅵ	演習	予習：授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習：模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	模擬授業及び授業研究会⑥			
13回	テーマ	授業の実践と省察Ⅶ	演習	予習：授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習：模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	模擬授業及び授業研究会⑦			
14回	テーマ	授業の実践と省察Ⅷ	演習	予習：授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習：模擬授業を考察し、レポート作成 ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	90
	内容	模擬授業及び授業研究会⑧			
15回	テーマ	まとめ	講義	予習：美術科教育法Ⅰ～Ⅳの内容を確認しておく 復習：授業の内容を反芻し、教育実習に備える	90
	内容	まとめレポート			

科目名	☆工芸Ⅰ（3美デ）				開講学年	3	講義コード	1812701	区分	選択	
英文表記	crafts I				開講期	前期集中	開講形態		単位数	2	
担当教員	高津 明美（非常勤）										
研究室	D101						オフィス アワー 水曜日・昼休み				
メールアドレス	ken1214@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	染色,ろうけつ染め										
授業概要	染織(テキスタイル)ほど、人間の生活に密着したものはありません。この布地を使って、空間を造 形したらどんなに楽しいことでしょう。古くからある染色技法の中でろうけつ染の作品を制作 します。その過程で、デッサン力、構成力、色彩感覚などの造形芸術全般にわたって理解します。							関連科目			
								特別演習(日本画)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科に関する科目(中学校及び高等学校 理科)【各科目に含めることが必要な事項】…生物学							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	ろうけつ染の技法が修得できるようになる									
	②	デッサン力、構成力、色彩感覚、染料の知識が理解できるようになる									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	10	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	作品及び授業態度により評価。作品(80点)、ポートフォリオ(10点)、平常点(10点)

染色の作品の為のスケッチをしておくこと。授業の時はスケッチを持ってくること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	自然の観察	実習	制作を意識した自然観察を行なう	
	内容	近隣の散策			
2回	テーマ	自然の観察	実習	描く対象について観察と考察	
	内容	スケッチ			
3回	テーマ	画材と技法	実習	染色の技法について理解する	
	内容	用途を考える			
4回	テーマ	下絵制作	実習	仕上がりを想定したイメージの定着	
	内容	デザイン構成			
5回	テーマ	下絵制作	実習	仕上がりを想定したイメージの定着	
	内容	色彩			
6回	テーマ	下絵制作	実習	仕上がりを想定したイメージの定着	
	内容	下図完成			
7回	テーマ	転写	実習	画材と技法について十分に理解する	
	内容	下絵を布に写す			
8回	テーマ	制作	実習	画材と技法について十分に理解する	
	内容	布に蠟描きをする			
9回	テーマ	制作	実習	画材と技法について十分に理解する	
	内容	布を染める			
10回	テーマ	制作	実習	画材と技法について十分に理解する	
	内容	布に染料を定着させる			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	制作	実習	画材と技法について十分に理解する	
	内容	水洗い			
12回	テーマ	制作	実習	画材と技法について十分に理解する	
	内容	仕上げ			
13回	テーマ	制作	実習	画材と技法について十分に理解する	
	内容	仕上げ			
14回	テーマ	制作	実習	画材と技法について十分に理解する	
	内容	用途によって仕上げる			
15回	テーマ	合評会	実習	客観的に自他の作品を評価する	
	内容	全員で互いの作品を講評する			
16回	テーマ	記録	実習	客観的に自他の作品を評価する	
	内容	作品の写真を撮る			

科目名	☆職業指導Ⅰ（3機建宇情）				開講学年	3	講義コード	1812801	区分	選択（教職必修）	
英文表記	Vocational Guidance I				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	山本康詞										
研究室	本館付属棟 3階 320室						オフィス アワー 金曜日 2時限目				
メールアドレス	yama-sgy @ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	キャリア教育 進路指導 職業観 社会人基礎力										
授業概要	1. 職業やキャリア教育に関する知識や意義を学び、職業人に求められる基礎的汎用能力を理解し、教員として高校生の職業選択を支援する方法を理解する。 2. 進路指導、キャリア教育についての基礎知識、考え方を理解し、職業指導の実践力を養う。 3. 職業についての知識や職業観、勤労観を重んじる態度を育む指導法を習得する。 4. キャリア教育が求められるようになった背景を知り、その目的や意義を理解する。 5. 若者の社会的・職業的自立に向けた能力や態度の育成を図るため、職業指導あり方について考える。 6. 中間試験の結果については実施日の次の授業中に学生へフィードバックする。							関連科目			
								・連携科目：職業指導Ⅱ			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…教科に関する科目(高等学校 工業)【各科目に含めることが必要な事項】…職業指導							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
gh	①	キャリア教育とは、何かについて理解し、文章で説明することができる。									
gh	②	キャリア教育の意義、必要性について考え、何故キャリア教育が求められるか文章で説明することができる。									
gh	③	わが国の労働環境や雇用環境の変化について理解し、文章で説明することができる。									
gh	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	60	0	0	30	0	0	10	0	100		
教科書	自作テキスト										
参考書	進路指導・キャリア教育の理論と実践 日本文化科学社 吉田辰雄・篠翰 ISBN978-4-8210-6085-6 C3037 進路指導・キャリア教育論 中川書店 坂本 昭 ISBN978-4-931363-53-3										

予備知識	1.就職や雇用に関する情報に関心を持ち、日頃から新聞やテレビ等のニュースを見るよう心掛ける。2.毎回、講義内容をワークシートに記入してよく読み返しておくこと。
DPとの関連	基礎的・汎用能力（「人間形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）を身に付け、それらを実践できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1. 中間考査 30点×2(前半・後半) 60点 2.レポート 3点×10回 30点 3.ポートフォリオ 「到達度ポートフォリオ」 10点 到達目標の達成度を自己評価し、到達度とその理由を評価表に記入して提出する。

1. レポートは、必ず期限内に提出すること。2. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為と見なされます。3. 毎回ワークシートに記入し、読み返しておくこと。4. ワークシートや配布資料はバインダーに綴じておくこと。5. 正規出席・授業開始20分まで／20分超えた場合は欠席扱い。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション、教師としての基本的な資質	講義 演習	【復習】教師の資質について理解しておく。課題①のレポートを作成し、次回に提出する。	30 30
	内容	教師に求められる資質とは何か。課題①(私の教師像)についてレポートを作成する。			
2回	テーマ	職業指導からキャリア教育へ①	講義 演習	【予習】キャリア教育と何か調べておく。【復習】課題②のレポートを作成し、次回に提出する。	30 30
	内容	キャリア教育が求められる背景について学習する。課題②(キャリア教育とは何か)についてレポートを作成する。			
3回	テーマ	キャリア教育の意義	講義 演習	【予習】キャリア教育が求められる理由について調べておく。【復習】課題③のレポートを作成し、次回に提出する。	30 30
	内容	高等学校におけるキャリア教育の重要性について学習する。課題③(今、何故キャリア教育が求められるのか)についてレポートを作成する。			
4回	テーマ	高等学校におけるキャリア教育の現状と課題	講義	【予習】高等学校卒業者の進路状況について調べておく。【復習】ワークシート、資料等を読み返しておく。	10 30
	内容	キャリア教育の課題について学習する。			
5回	テーマ	わが国の産業構造	講義 演習	【予習】わが国の産業格の変化について調べておく。【復習】課題④のレポートを作成し、次回に提出する。	30 30
	内容	産業構造の変化、若者の状況について学習する。課題④(産業構造はどのように変化したか)についてレポートを作成する。			
6回	テーマ	職業とはなにか	講義 演習	【予習】職業観・勤労観と何か調べておく。【復習】課題⑤のレポートを作成し、次回に提出する。	30 30
	内容	職業人の生きがい、職業観・勤労観とは何かについて学習する。課題⑤(職業人の生きがい)についてレポートを作成する。			
7回	テーマ	職業観・勤労観	講義 演習	【予習】望ましい職業観・勤労観とは何か調べておく。【復習】課題⑥のレポートを作成し、次回に提出する。	30 30
	内容	望ましい職業観・勤労観とは何かについて学習する。課題⑥(望ましい職業観・勤労観とは何か)についてレポートを作成する。			
8回	テーマ	前半のまとめ	講義 演習	【予習】前半の配布資料をよく読んで見直しておく。【復習】前半の講義内容の不確かな点を再度読み返しておく。	30 30
	内容	前半の講義内容についてのまとめと中間試験を行う。			
9回	テーマ	雇用環境の変化	講義 演習	【予習】わが国の雇用形態の変化について調べておく。【復習】課題⑦のレポートを作成し、次回に提出する。	30 30
	内容	雇用環境の変化について学習する。課題⑦(雇用環境は何故変化したのか)についてレポートを作成する。			
10回	テーマ	雇用に関わる関係法規(1)	講義	【予習】労働関係法規にはどのような法律があるか調べておく。【復習】ワークシート、資料等を読み返しておく。	30 30
	内容	労働基本法、労働三法等について学習する。			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	雇用に関わる関係法規(2)	講義 演習	【予習】労働関係法規にはどのような法律があるか調べておく。 【復習】課題⑧のレポートを作成し、次回に提出する。	30 30
	内容	その他の労働関係法規、社会保障制度労働関係法について学習する。課題⑧(労働関係法規の種類内容)についてレポート作成する。			
12回	テーマ	わが国の労働人口	講義 演習	【予習】わが国の労働人口の推移について調べておく。【復習】課題⑨のレポートを作成し、次回に提出する。	30 30
	内容	少子高齢化による労働人口の減少等について学習する。課題⑨(我が国の労働人口の現状について)レポートを作成する。			
13回	テーマ	働く環境と労働観の変化	講義	【予習】労働環境の変化について調べておく。【復習】ワークシート、資料を読み返しておく。	20 20
	内容	働く環境や労働化の変化について学習する。			
14回	テーマ	若者の社会的・職業的自立	講義 演習	【予習】労働環境の変化について調べておく。【復習】課題⑩についてレポートを作成し、次回に提出する。	30 30
	内容	若者の社会的・職業的自立に向けて取り組みについて学習する。課題⑩(若者の社会的自立・職業的率とは)についてレポートを作成する。			
15回	テーマ	後半のまとめ 最終まとめ	講義 演習	【予習】後半のワークシート、配布資料等をよく読んでおくこと。 【復習】中間試験で解らなかった点について確認しておく。 ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	40
	内容	後半の講義内容についてのまとめと中間試験を行う。総評、出席確認、「到達度ポートフォリオ」の作成。			

科目名	☆教育原論（1機ナ建宇情微生美デ）				開講学年	1	講義コード	2810101	区分	選択	
英文表記	Principle of Education				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	石村 華代（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業の前後				
メールアドレス	ishimura@kic.ac.jp										
キーワード	教育思想 教育史										
授業概要	<p>まずは、教育という営みを簡単に定義したうえで、人間にとっての教育の必要性と可能性について考察する。次に、江戸時代以降の日本教育史をたどりつつ、現在の教育システムはどのような経緯で成立し発展してきたのかについて概観する。また、戦後史においては、教育の基礎知識を紹介しながら、教育は政治や経済などの諸事象とどのような関わりをもってきたのかを検討する。後半では、西洋の教育史及び教育思想について学修する。教育史では、現在の義務教育制度がどのような経緯で成立してきたのかを解説する。また、教育思想では、数人の思想家を取り上げ、その思想内容や現代の教育への影響について明らかにする。このような授業内容を通して「人間関係形成力・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」及び「キャリアプランニング能力」を身に付け、それらを実践できるようにする。</p>							関連科目			
								連携科目:教職概論、教育制度論、人間と心理 発展科目:教育課程論、事前・事後指導、教育実習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a,b	①	教育に対する基本的な考え方、特質を理解することができる。									
a,b	②	家庭教育、学校教育、社会教育の特質を理解することができる。									
a,d	③	わが国の教育の歴史と思想を理解することができる。									
a,d	④	西洋の教育の歴史と思想を理解することができる。									
d	⑤	今後の教育の重要課題について考察することができる。									
g	⑥	本科における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	70	0	20	0	0	10	0	100		
教科書	『教育の歴史と思想』2013年 ミネルヴァ書房 石村華代・軽部勝一郎編 978-4-623-06584-4										
参考書	授業中に指示する。										

予備知識	高等学校までの日本史・世界史等の知識、新聞やニュース等で報じられている現代の教育課題についての知識
DPとの関連	教育現場での具体的な業務内容を理解し、教職に必要な資質・能力を身に付けるための科目である。そのために基礎的・汎用的能力（「人間関係形成力・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」）を身に付け、それらを実践できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1 定期試験(70) 教育の基礎的な理論や教育の歴史・思想について理解できているかどうか、試験によって評価する。2 レポート(20) 授業終了前あるいは授業後に作成するレポートの内容を評価する。3 ポートフォリオ(10) 到達目標を達成できたかを評価する。

・レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひようせつ)は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション 教育とは何か①	講義 プ レイ ン ス ト ー ミ ン グ お よ び 討 議	予習:シラバスを読む。 復習:教育の定義等についてまとめる。	60 60
	内容	講義の目的・概要と進め方について、教育の定義、社会化、子どもを取り巻く環境(家庭・学校・地域や社会での教育)			
2回	テーマ	教育とは何か②	VTR視聴	予習:取り上げる事例について調べておく。復習:レポートを書く。	60 80
	内容	教育の必要性(ガイドニールの事例)			
3回	テーマ	教育とは何か③	講義 討 議	予習:レポートをもとに討議できるようにしておく。復習:配付したプリント等を見直す。	60 60
	内容	教育の必要性と可能性			
4回	テーマ	日本教育史①	講義	予習:これまでに学んだ江戸時代の歴史を復習しておく。復習:テキスト142～161ページを読む。	60 60
	内容	江戸期の教育(幕府の教育機関、藩校、手習塾、私塾、家庭や地域での教育)			
5回	テーマ	日本教育史②	講義 討 議	予習:これまでに学んだ明治維新期の歴史を復習しておく。復習:テキスト164～175頁を読む。	60 60
	内容	明治期における学校制度の樹立			
6回	テーマ	日本教育史③	VTR視聴 講義	予習:これまでに学んだ明治時代の歴史を復習しておく。復習:テキスト175～180頁を読む。	60 60
	内容	森有礼による学校制度改革、教育勅語			
7回	テーマ	日本教育史④	講義 討 議	予習:これまでに学んだ大正・昭和初期の歴史を復習しておく。復習:テキスト182～199頁を読む。	60 60
	内容	大正自由教育、国民学校での教育			
8回	テーマ	教育学の基礎①	講義	予習:これまでに学んだ日本現代史を復習しておく。復習:配付したプリント等を見直す。	60 60
	内容	教育基本法と教育の目的・目標、幼稚園教育要領/学習指導要領、系統主義と経験主義			
9回	テーマ	教育学の基礎②	講義 討 議	予習:これまでに学んだ日本現代史を復習しておく。復習:配付したプリント等を見直す。	60 60
	内容	教科書の使用義務、「教育問題」(問題行動、いじめ、不登校)			
10回	テーマ	教育学の基礎③	講義	予習:これまでに学んだ日本現代史を復習しておく。復習:配付したプリント等を見直す。	60 60
	内容	臨時教育審議会答申(教育の自由化、生涯学習、国際化や情報化への対応)			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	西洋教育史	講義	予習:産業革命期を中心に世界史の復習をしておく。復習:配付したプリント等を見直す。	60 60
	内容	義務教育の成立と子どもの権利			
12回	テーマ	教育思想①	講義	予習:テキストの該当箇所を目を通しておく。復習:テキストの該当箇所を中心に直す。	60 60
	内容	家庭と子ども観に関わる教育思想(ソクラテス、ロック、ルソー)			
13回	テーマ	教育思想②	講義	予習:テキストの該当箇所を目を通しておく。復習:テキストの該当箇所を中心に直す。	60 60
	内容	学校に関わる教育思想(コメニウス、フレーベル)			
14回	テーマ	教育思想③	講義	予習:テキストの該当箇所を目を通しておく。復習:テキストの該当箇所を中心に直す。	60 60
	内容	学習に関わる教育思想(バスターロッチ、ヘルバルト、デューイ)			
15回	テーマ	定期試験	講義	予習:自らの成果や課題等を記入する。復習:定期試験をふりかえり、定着していない部分について復習をしておく。	60 80
	内容	教育の基礎的な理論や教育の歴史・思想の理解度を測る定期試験の実施とフィードバック 授業内容の総括			

科目名	☆教育制度論（1機ナ建宇情微生2美デ）				開講学年	1	講義コード	2810301	区分	選択	
英文表記	Introduction to Educational System				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	岩本 晃代										
研究室	本館3階304						オフィス アワー 月曜、4限				
メールアドレス	iwamoto@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	教育制度 教育法規 教育経営										
授業概要	<p>本科目は教育の基礎的理解に関する科目で、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)について学習する。教育の今日的課題と教育政策の動向については「中央教育審議会答申」等の文書資料を用いて読解による考察を行い、「日本国憲法」と主要な教育法規については図解資料等を用いて体系的に理解させる。学校と地域との連携及び学校安全への対応については、関連法規のほか具体的な事例をあげて講義を行う。また、諸外国の教育制度をテーマにしたグループでの調査研究及び研究発表、個人でのレポート作成等、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。以上の講義や演習をとおして、課題対応能力や人間関係形成・社会形成能力を培う。なお、8回目に実施する中間試験の答えは11回目に返却し解説する。</p>							関連科目			
								「教職概論」「教育原論」等			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a	①	近年の日本の教育的課題と教育政策の動向について「中央教育審議会答申」等をもとに理解し、教育に関する社会的事項についての基礎的な知識を身につけることができる。									
a	②	現代の公教育制度の原理について基礎的な知識を身につけるとともに、「日本国憲法」「教育基本法」「学校教育法」「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」等の主要法規と教育制度との関係について理解することができる。									
a	③	学校と地域との連携及び学校安全への対応について、「学校保健安全法」等の関係法規をもとに理解し、具体的な事例をあげることができる。									
a	④	日本の教育制度と諸外国の教育制度について調査研究を行い、教育に関する制度的事項と社会との関係及び教育的課題について考察を深め、文章にまとめることができる。									
f,g	⑤	課題研究においては、グループで協力して調査を行い、意欲的に口頭発表・質疑応答を行うことができる。									
g	⑥	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	20	0	0	50	20	0	10	0	100		
教科書	改訂版 教育法規エッセンス 花書院										
参考書	教育六法 三省堂 新版 世界の学校 学事出版										

予備知識	新聞や文部科学省のホームページ等で、教育の時事的な問題について学習しておくこと。
DPとの関連	日本の教育制度についての基礎的理解を深めるとともに、諸外国の教育制度についてグループで協力して調べ、発表することをおして、課題対応能力等の汎用的能力を身につけることができる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.教育法規に関する中間試験(8回目に実施)20% 2.成果発表(プレゼンテーション及び質疑応答・評価表)20% 3.レポート ・課題について講義内容及び図書館等での資料をもとに作成:40% ・授業中に課すミニレポート:10% 4.本授業における「到達度評価ポートフォリオ」(本学所定の様式)10%【学生の到達度目標】の①②③④⑤の達成度とその理由を各200字～250文字で入力しプリントアウトして提出すること。※⑥は記入しなくてもよい

1.電子辞書等を持ってくること。2.成果発表の準備はグループで協力して行うこと。3.レポートは期限以内に提出すること。期限以後は受け付けない。(公欠の場合は直ちに届けること)・レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション・教育に関する社会的事項(1) シラバスの説明、課題研究の方法についての説明及びグループ分け。学校と子どもを巡る状況の変化について学び、教育の今日的課題について考察する。	講義	【復習】教育の今日的課題について、関心を持った新聞記事を切り取る。ワークシート①を完成させる。	30
2回	テーマ 内容	教育に関する社会的事項(2) 学校と子どもを巡る状況の変化とそれらに関する課題について再考する。近年の日本における教育政策の動向について、「中央教育議会答申」等をとおして学ぶ。	講義	【予習】第1回目の配布資料を読んでおく。【復習】ワークシート②を完成させる。	60
3回	テーマ 内容	教育に関する制度的事項(1) 現代の公教育制度の原理について基礎的な知識を身につけるとともに、「日本国憲法」と日本の教育制度との関係について学ぶ。	講義	【予習】テキスト第1章1節を読んでおく。【復習】ワークシート③を完成させる。	60
4回	テーマ 内容	教育に関する制度的事項(2) 「教育基本法」の改正前後の違いについて学ぶとともに、現行の「教育基本法」の前文及び重要条文について学ぶ。	講義	【予習】テキスト第1章2,3節を読んでおく。【復習】ワークシート④を完成させる。	60
5回	テーマ 内容	教育に関する制度的事項(3) 「学校教育法」及び「学校教育法施行規則」の重要条文について学ぶとともに、「教育基本法」との関係について理解を深める。	講義	【予習】テキスト第1章4節を読んでおく。【復習】ワークシート⑤を完成させる。	60
6回	テーマ 内容	教育に関する制度的事項(4) 中央の教育行政機関である文部科学省の組織と機能について学ぶ。	講義	【予習】テキスト第2章1節を読んでおく。【復習】ワークシート⑥を完成させる。	60
7回	テーマ 内容	教育に関する制度的事項(5) 地方の教育行政である教育委員会の組織と機能について学ぶとともに、関係法規「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の重要条文について学ぶ。	講義	【予習】テキスト第2章3節を読んでおく。【復習】ワークシート⑦を完成させる。	60
8回	テーマ 内容	学校と地域との連携 地域との連携・協働による意義と「開かれた学校づくり」の取組の経緯について学ぶ。学校評議員制度とコミュニティ・スクールの制度と機能、及び違いについて学ぶとともに、それぞれの関係法規について理解を深める。教育法規に関する中間試験を行う。	講義・演習	【予習】テキスト第4章を読んでおく。【復習】ワークシート⑧を完成させる。	60
9回	テーマ 内容	学校安全への対応(1) 学校の危機管理・事故対応を含む学校安全の重要性について学ぶとともに、関係法規「学校保健安全法」の重要条文について理解を深める。	講義	【予習】テキスト第7章を読んでおく。【復習】ワークシート⑨を完成させる。	60
10回	テーマ 内容	学校安全への対応(2) 学校における安全教育の各領域と学校をとりまく安全上の課題について学ぶとともに、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組について理解を深める。	講義	【予習】テキスト第7章を読んでおく。【復習】ワークシート⑩を完成させる。	60

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	日本の教育制度のまとめ	講義・演習	【予習】【復習】課題研究のための調査。	60
	内容	10回目までの授業のまとめを行う。グループによる課題研究のプレゼンテーション及び相互評価の方法について理解する。SGD			
12回	テーマ	諸外国の教育制度について(1)	演習	【予習】課題研究のための調査。【復習】プレゼンテーション評価表を完成させる。	60
	内容	グループごとのプレゼンテーションと質疑応答及び相互評価 AL			
13回	テーマ	諸外国の教育制度について(2)	演習	【予習】課題研究のための調査。【復習】プレゼンテーション評価表を完成させる。	60
	内容	グループごとのプレゼンテーションと質疑応答及び相互評価 AL			
14回	テーマ	諸外国の教育制度について(3)	演習	【予習】課題研究のための調査。【復習】プレゼンテーション評価表を完成させる。	60
	内容	グループごとのプレゼンテーションと質疑応答及び相互評価 AL。ポードウォリア（到達度レポート）の作成			
15回	テーマ	授業全体のまとめ	講義・演習	【復習】レポートを完成させる。	60
	内容	日本の公教育制度と教育の今日的課題について理解を深める。日本の教育制度と課題研究を行った国の教育制度について比較検討し、レポートとしてまとめるための準備を行う。			

科目名	☆教育相談の理論と方法（2機ナ建宇情微生美デ）			開講学年	2	講義コード	2810701	区分	選択		
英文表記	Theory and Methods of Educational Counseling			開講期	前期/集中	開講形態		単位数	2		
担当教員	蔵岡智子（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室					オフィス アワー 授業開始前後の非常勤控室					
メールアドレス	空白@空白										
キーワード	教育相談の理論と実践 アセスメント カウンセリングマインド 組織的取り組み 他職種連携										
授業概要	<p>学校カウンセリングにおいては、学校における教育相談の意義と理論、教育相談を進める際に必要なアセスメントやカウンセリングに関する基礎的知識、いじめや不登校といった課題に応じた教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性について講義を行う。また、カウンセリングの基礎的演習や具体的事例に基づいた実践的演習を行う。これらを身につけることによって、実社会においても人の話を聞くことができるようになるので、人間関係や仕事上の取引がよりスムーズに行えるようになるという汎用的な効果が期待できる。小テストの結果等については、16回目に学生にフィードバックする。</p>							関連科目			
								文化社会関連科目:「人間と心理」	教職関連科目:「生徒指導論」「教育心理学」「特別支援教育」		
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
b、h	①	学校における教育相談の意義と課題を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念を理解すると共に、教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取り組みの必要性を理解できる。									
a、d	②	生徒の不適応や問題行動の意味並びに生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解できる。									
d、f	③	学校におけるカウンセリングマインドの必要性を理解し、受容、傾聴、共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解できる。									
f、h	④	職種や校務分掌に応じて、生徒並びに保護者に対する教育相談の目標の立て方や進め方を例示し、地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解できる。									
d、h	⑤	いじめ、不登校、虐待等の課題に対する生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解できる。									
f、h	⑥	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	30	30	30	0	0	10	0	100		
教科書	これからの教育相談 北樹出版 高岸幸弘、井出智博、蔵岡智子 978-4-7793-0562-7										
参考書	生徒指導提要 教育図書 文部科学省 978-4877302740										

予備知識	<p>1.生徒指導論の授業をしっかり身につけておくこと。 2.保健室や教育相談に関する書物を読んでおくこと。また、その意義について考えておくこと。 3.どうやって友達の話聴くことが効果的かを日常において考えておくこと。 4.中学生や高校生など思春期の子どもが登場する本や漫画を読んでおくこと。</p>
DPとの関連	<p>1.人間関係形成や社会性を身につける上で、人の話を聴く、所謂「傾聴」は本授業で学習する基本的な方法論となっている。 2.本授業では自己理解や自己管理能力を高めるために、心理テストやグループワークを多く用いて、自己理解によって生徒への共感性を高める工夫する。また、自己理解が課題対応能力を向上させるきっかけとなる。 3.本授業は、教職に就くための講座で、自身のキャリアプランニング能力を身につけ、それらを実践できるようにするものでもある。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.定期試験(16回目) 30点 2.小テスト10点×3回=30点 3.レポート 30点 3.ポートフォリオ:「学習到達度評価レポート」を「SOJOポートフォリオシステム」に入力。 プリントアウトし、集中講義の最終回までに提出する。10点</p>

1. 資料以外の重要な部分の板書のノートをとることを怠らないこと。2. 小テストは3回行うので、レポート形式の場合は必ず提出すること。3. ロールプレイやグループワークは真剣に行うこと。4. 自己理解テストや物語作りなどもあるので、楽しみながら授業を受けるよう心がけること。5. 予習は関連図書の「生徒指導提要」等を講義に合わせて読んでくるとよい。6. レポートなどの剽窃（コピーアンドペースト等）は、不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	教育相談の意義と課題、目標と進め方、校内体制の整備 生徒指導と教育相談の相違点や教育相談の意義と課題、また目標の進め方、教育相談における校内体制の整備や組織的な取組みについて学ぶ。	講義、演習	予習：教科書P12からP26まで読んでおく。復習：講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
2回	テーマ 内容	教育相談に必要な心理学の基礎（児童期の心の発達） 心理学の基礎的事項、ピアジェやエリクソンの理論及び児童期の心の発達について学ぶ。また小学生の学習面・心理社会面・進路面に関わる教育上の課題について学ぶ。	講義、演習	予習：教科書P27からP38まで読んでおく。復習：講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
3回	テーマ 内容	教育相談に必要な心理学の基礎（青年期の心の発達） 心理学の基礎的事項、青年期にあたる中高生の認知能力・社会性について学ぶ。また中高生の学習面・心理社会面・進路面に関わる教育上の課題について学ぶ。	講義、演習	予習：教科書P38からP44まで読んでおく。復習：講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
4回	テーマ 内容	学校教育におけるカウンセリングマインド 教育相談におけるカウンセラーのマインドの必要性を理解し、精神分析、認知行動療法、PCAなどのカウンセリングの基礎的理論と人間観、カウンセリングにおける枠組みや技法について学ぶ。小テスト	講義、演習	予習：教科書P45からP56まで読んでおく。復習：講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
5回	テーマ 内容	カウンセリングの基礎（演習） 受容・傾聴・共感的理解、自己一致等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について演習を通して学ぶ。	講義、演習	予習：教科書P56からP61まで読んでおく。復習：講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
6回	テーマ 内容	子どものシグナル 生徒一人ひとりのシグナルに行動観察、学業成績、言動・態度、表現物等を通して気づき、情報を集め教育相談に役立てる方策を学ぶ。	講義、演習	予習：教科書P62からP66まで読んでおく。復習：講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
7回	テーマ 内容	子どものアセスメント アセスメントを活用し不適用の意味や生徒の発するシグナルを把握する方法を学ぶ。教師が行うアセスメント（個人・学級）、スクールカウンセラーやスクールソーシャルといった専門家が行うアセスメントや専門機関等で実施される知能検査や心理検査等について学ぶ。	講義、演習	予習：教科書P66からP81まで読んでおく。復習：講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
8回	テーマ 内容	不登校の課題に対する教育相談の進め方 不登校の実態や歴史、不登校に至る背景、タイプ分け、発達段階ごとの課題について学び、不登校の支援の実際・回復過程における教育相談の進め方について学ぶ。小テスト	講義、演習	予習：教科書P82からP93まで読んでおく。復習：講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
9回	テーマ 内容	不登校の課題に対する教育相談の進め方（演習） 不登校の事例を挙げ、支援の実際について検討するとともに、カウンセリング技法を用いたロールプレイを行い教育相談の進め方について実践的に学ぶ。	講義、演習、RP	予習：教科書P93からP100まで読んでおく。復習：講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
10回	テーマ 内容	いじめの課題に対する教育相談の進め方 いじめとは何か人間関係の特徴や発生しやすい条件やその構造などを概観し、いじめの現状についてデータを通して学ぶ。いじめに対する教育相談の進め方や予防教育について学ぶ。	講義、演習、RP	予習：教科書P101からP112まで読んでおく。復習：講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	いじめの課題に対する教育相談の進め方(演習)	講義、演習、RP	予習:教科書P112からP117まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
	内容	いじめの事例を挙げ、支援の実際について検討するとともに、カウンセリング技法を用いたロールプレイを行い教育相談の進め方について実践的な学ぶ。			
12回	テーマ	教育相談と福祉、専門機関との連携	講義、演習	予習:教科書P138からP154まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
	内容	福祉とは何か概観し、虐待の発見とその後、虐待への教師の関わり、貧困に対する教育相談のあり方、そして専門機関や専門職との連携の必要性について学ぶ。小テスト			
13回	テーマ	教育相談と性の多様性	講義、演習	予習:教科書P155からP170まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
	内容	性の多様性をめぐる基礎的知識を学び、性的少数者と教育相談上の課題について学ぶ。教師や学校が取り組むべき課題について学ぶ。			
14回	テーマ	教育相談における緊急支援	講義、演習	予習:教科書P171からP187まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30 30
	内容	事件、事故、災害といった緊急支援における教育相談の役割とストレス反応に対する実際の支援、地域の専門機関との連携の必要性について学ぶ。			
15回	テーマ	教師のメンタルヘルス	講義、演習	予習:教科書P188からP203まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成	30 30 60
	内容	教育相談を進める上で重要な課題である教師のメンタルヘルスについて、その現状と対処について学ぶ。			
16回	テーマ	まとめ	演習		
	内容	この講義で学んだことの振り返り、総評、提出物、出席等の確認、定期試験			

科目名	☆理科教育法Ⅰ(2ナ微生)				開講学年	2	講義コード	2810901	区分	選択	
英文表記	Teaching Method of Science I				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	板橋 克美										
研究室	F801						オフィス アワー 月曜4限				
メールアドレス	itahashi@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	理科教育 授業設計(理科) 教材作成(理科) 学習評価(理科) 学習指導案(理科)										
授業概要	<p>理科教育法では、教科等に関する専門的知識や実践的指導力等の教員として必要な資質・能力とともに、社会人としても必要な人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力などの基礎的・汎用的能力の育成を図る。中学校および高等学校における理科教育においては、実際の理科の授業を行うにあたって身に付けておくべき基本的事項について学習する。学習指導要領に基づき、理科教育の目的、内容、方法、評価などについて基礎的な理解を深め、授業実践のための効果的な指導方法について考察する。また、理科教育の現代的な課題を取り上げて、理科教育の理論との関わりについて解説する。さらに、アクティブラーニングの視点に立った授業改善並びに情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用する。本講義は、その後の理科教育法Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの基礎となる内容である。</p>							関連科目			
								<p>基礎科目:教育原論、教育制度論、教職概論、生徒指導論、連携科目:理科教育法Ⅱ、理科教育法Ⅲ、理科教育法Ⅳ、教育方法論、発展科目:事前・事後指導、教職実践演習</p>			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
e,d	①	学習指導要領に示された理科の目標及び内容並びに全体構造について理解を深め、子供の実態を視野に入れた授業設計を行うことができる。									
d,f	②	理科の授業実践のための情報機器の活用や学習評価の方法等について考察し、効果的な教材を作成することができる。									
f,h	③	理科教育の基礎的な学習指導理論や実践研究の動向を踏まえて、具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	60	0	0	30	0	0	10	0	100		
教科書	<p>中学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編 文部科学省</p>										
参考書	授業中に適宜指示する。										

予備知識	学習指導要領(理科)の内容
DPとの関連	「基礎的・汎用的能力(「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力)」を身につけ、それらを実践できるようにする。」に関連する科目である。将来、理科教師を目指すための基本的事項について学修し、学校現場での具体的な授業を行うための実践的指導力の基礎を身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.中間レポート試験 前半・後半の2回分 30点×2回=60点 2.レポート 演習①～⑩の2回分 3点×10回=30点 学習指導、発問・指示、板書について模擬授業チェックシートの15項目について評価する。3.ポートフォリオ 学修到達度レポート 10点 【学生の到達度目標】の各項目の達成度とその理由を各200～250文字で入力しプリントアウトして提出 試験およびレポートは次回授業時にフィードバックする。

1. 中学校理科および高等学校理科の「教員免許状」の取得を希望する者を対象とする。2. レポートは期限以内に提出すること。3. 授業を受講するための準備として必要な資料作成や終了後のレポート作成に必要な情報収集には、図書館等の蔵書等を活用すること。4. 講義に関する質問・相談等は、オフィスアワーなどを積極的に活用すること。5. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ イントロダクション	理科教育法Iに関する内容を概説し、中央教育審議会等の答申及び実践研究の動向から、理科教員に求められる資質・能力について考える。	講義	【復習】配布資料から理科教員に求められる資質能力について整理しておく。	30
2回	テーマ 理科教育の目的・目標	学習指導要領における理科の目標及び学習内容・内容の取扱い並びに全体構造について学び、演習①(教材観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】学習指導要領解説(理科)を読んでおく。【復習】演習①について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
3回	テーマ 理科教育の歴史	科学教育の始まりから現在の理科教育の変遷について、主に学習指導要領の変遷及び実践研究の動向から学ぶ。	講義 演習 G D	【予習】理科教育の移り変わりについて実践研究を調べておく。【復習】資料から理科教員の資質能力について整理しておく。	30 3 0
4回	テーマ 理科教育の充実に関する施策	理科教育推進のための重要施策及び発展的な学習内容並びに背景となる学問領域について学び、演習②(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】理科教育推進のための重要施策について調べておく。【復習】演習②について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
5回	テーマ 理科教育の現状と課題	各種調査結果から理科教育の現状と課題及び子供の認識・思考・学力等の実態について学び、演習③(生徒観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】理科教育の現状と課題について整理しておく。【復習】演習③について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
6回	テーマ 理科教育の学習指導形態	具体的な理科の授業場面を想定した指導の工夫や指導上の留意点について学び、演習④(指導観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】理科教育の指導形態について調べておく。【復習】演習④について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
7回	テーマ 理科における評価	理科の学習評価の考え方と目的及び評価の種類と方法について学び、演習⑤(評価計画)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】理科教育の評価について調べておく。【復習】演習⑤について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
8回	テーマ 前半の講義内容についてのまとめ	1～7回の学習内容の振り返り及補足解説及び中間レポート試験(前半)を行う。	講義 演習	【予習】1～7回の配布資料及び演習レポートを読んでおく。【復習】中間レポート試験(前半)を記述し、期限内に提出する。	45 3 0
9回	テーマ 理科教育の学習論Ⅰ	理科における問題解決学習など基礎的な学習指導理論を学び、演習⑥(学習指導過程)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】理科教育の教授・学習理論について調べておく。【復習】演習⑥について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
10回	テーマ 観察・実験と安全指導	観察・実験の意義及び指導上の留意点並びに安全管理について学び、演習⑦(実験計画)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】理科教育の安全管理について調べておく。【復習】演習⑦について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ 理科教育とICT	学習過程を支えるICTを活用した授業づくりについて学び、演習⑧(効果的な教材作成)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】ICT教育について調べておく。【復習】演習⑧について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
12回	テーマ 理科教育と環境教育	理科における環境教育にかかわる内容及び背景となる学問領域について学び、演習⑨(効果的な板書計画)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】環境教育について調べておく。【復習】演習⑨について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
13回	テーマ 学習指導案	理科の学習指導案の基本的な書き方について学び、演習⑩(学習指導案)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】学習指導案について調べておく。【復習】演習⑩について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
14回	テーマ 模擬授業の実施と振り返り	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通じて授業改善の視点を学ぶ。	演習 D G	【予習】授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理しておく。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	30 3 0
15回	テーマ 後半の講義内容についてのまとめ	9~14回の学習内容の振り返りと補足解説及び中間レポート試験(後半)を行う。	講義 演習	【予習】9~14回の配布資料及び演習レポートを読んでおく。【復習】中間レポート試験(後半)を記述し、期限内に提出する。	45 3 0

科目名	☆理科教育法Ⅲ（2ナ微生）				開講学年	2	講義コード	2811001	区分	選択	
英文表記	Teaching Method of Science Ⅲ				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	板橋 克美										
研究室	F801						オフィス アワー 月曜4限				
メールアドレス	itahashi@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	理科教育(中学校) 中学校学習指導要領(理科) 授業設計(中学校理科) 教材作成(中学校理科) 学習評価(中学校理科)										
授業概要	<p>理科教育法では、教科等に関する専門的知識や実践の指導力等の教員として必要な資質・能力とともに、社会人としても必要な人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力などの基礎的・汎用的能力の育成を図る。中学校における理科教育においては、授業実践のための教材の選択と配列の方法について学習する。学習指導要領に示された第1分野「エネルギー・粒子」、第2分野「生命・地球」について、自然科学の学問領域と関連させて、学習内容、学習評価、指導上の留意点などの理解を深め、教材研究と授業設計の向上を図ることを目的としている。具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付け、アクティブラーニングの視点に立った授業改善並びに情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用する。</p>							関連科目			
								基礎科目：理科教育法Ⅰ、教育原論、教育制度論、教職概論、生徒指導論 連携科目：理科教育法Ⅱ、理科教育法Ⅳ、教育方法論 発展科目：事前・事後指導、教職実践演習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
d	①	中学校理科の各分野の個別の授業実践のための効果的な教材の選択と配列の方法について理解を深め、具体的な授業場면을想定した授業設計を行うことができる。									
c,d	②	中学校理科の各分野の背景となる学問領域との関係を理解し、効果的な教材を作成することができる。									
f	③	中学校理科の各分野の授業実践のための情報機器の活用や学習評価の方法等について考察し、レポートで報告することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	60	0	0	30		0	10	0	100		
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省 中学校の教科書										
参考書	授業中に適宜指示する。										

予備知識	学習指導要領(中学校理科)の内容
DPとの関連	「基礎的・汎用的能力(「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力)」を身につけ、それらを実践できるようにする。」に関連する科目である。将来、理科教師を目指すための基本的事項について学修し、学校現場での具体的な授業を行うための実践的指導力の基礎を身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.中間レポート試験 前半・後半の2回分 30点×2回=60点 2.レポート 演習①～⑫の12回分 2.5点×12回=30点 学習指導、発問・指示、板書について模擬授業チェックシートの15項目について評価する。3.ポートフォリオ 学修到達度レポート 10点 【学生の到達度目標】の各項目の達成度とその理由を各200～250文字で入力しプリントアウトして提出 試験およびレポートは次回授業時にフィードバックする。

1. 中学校理科の「教員免許状」の取得を希望する者を対象とする。2. レポートは期限以内に提出すること。3. 授業を受講するための準備として必要な資料作成や終了後のレポート作成に必要な情報収集には、図書館等の蔵書等を活用すること。4. 講義に関する質問・相談等は、オフィスアワーなどを積極的に活用すること。5. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 内容	中学校理科における教材研究 学習指導要領における中学校理科の各分野の目標及び学習内容・全体構造並びに実践研究の動向および教材研究の目的と方法について学ぶ。	講義	【復習】配布資料から中学校理科の各分野の学習内容について整理しておく。	30
2回	テーマ 内容	第1分野「エネルギー」物理の教材研究(1) 「身近な物理現象」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習①(子供の実態に応じた教材の効果的な活用法)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】「身近な物理現象」の学習内容について調べておく。 【復習】演習①について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
3回	テーマ 内容	第1分野「エネルギー」物理の教材研究(2) 「電流とその利用」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習②(具体的な授業を想定した授業設計)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】「電流とその利用」の学習内容について調べておく。 【復習】演習②について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
4回	テーマ 内容	第1分野「エネルギー」物理の教材研究(3) 「運動とエネルギー」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習③(背景となる学問領域と関連させた教材研究)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】「運動とエネルギー」の学習内容について調べておく。 【復習】演習③について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
5回	テーマ 内容	第1分野「粒子」化学の教材研究(1) 「身の回りの物質」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習④(子供の実態に応じた教材の効果的な活用法)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】「身の回りの物質」の学習内容について調べておく。 【復習】演習④について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
6回	テーマ 内容	第1分野「粒子」化学の教材研究(2) 「化学変化と原子・分子」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑤(具体的な授業を想定した授業設計)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】「化学変化と原子・分子」の学習内容について調べておく。 【復習】演習⑤について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
7回	テーマ 内容	第1分野「粒子」化学の教材研究(3) 「化学変化とイオン」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑥(背景となる学問領域と関連した教材研究)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】「化学変化とイオン」の学習内容について調べておく。 【復習】演習⑥について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
8回	テーマ 内容	前半の講義についてのまとめ 「科学技術と人間」の目標及び第1分野の発展的な学習内容について学び、1～7回の学習内容の振り返りと補足解説及び中間レポート試験(前半)を行う。	講義 演習	【予習】1～7回の配布資料及び演習レポートを読んでおく。 【復習】中間レポート試験(前半)を記述し、期限内に提出する。	45 3 0
9回	テーマ 内容	第2分野「生命」生物の教材研究(1) 「植物の生活と種類」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑦(子供の実態に応じた教材の効果的な活用法)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】「植物の生活と種類」の学習内容について調べておく。 【復習】演習⑦について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
10回	テーマ 内容	第2分野「生命」生物の教材研究(2) 「動物の生活と生物の変遷」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑧(具体的な授業を想定した授業設計)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 G D	【予習】「動物の生活と生物の変遷」の学習内容について調べておく。 【復習】演習⑧について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	第2分野「生命」生物の教材研究(3)	講義 演習 G D	【予習】「生命の連続性」の学習内容について調べておく。【復習】演習⑨について記述し、次回の講義で提出する。	30 30
	内容	「生命の連続性」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑨(背景となる学問領域と関連させた教材研究)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
12回	テーマ	第2分野「地球」地学の教材研究(1)	講義 演習 G D	【予習】「大地の成り立ちと変化」の学習内容について調べておく。【復習】演習⑩について記述し、次回の講義で提出する。	30 30
	内容	「大地の成り立ちと変化」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑩(子供の実態に応じた教材の効果的な活用法)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
13回	テーマ	第2分野「地球」地学の教材研究(2)	講義 演習 G D	【予習】「気象とその変化」の学習内容について調べておく。【復習】演習⑪について記述し、次回の講義で提出する。	30 30
	内容	「気象とその変化」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑪(具体的な授業を想定した授業設計)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
14回	テーマ	第2分野「地球」地学の教材研究(3)	講義 演習 G D	【予習】「地球と宇宙」の学習内容について調べておく。【復習】⑫について記述し、次回の講義で提出する。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	30 30
	内容	「地球と宇宙」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑫(背景となる学問領域と関連した教材研究)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。			
15回	テーマ	後半の講義内容についてのまとめ	講義 演習	【予習】9～14回の配布資料及び演習レポートを読んでおく。【復習】中間レポート試験(後半)を記述し、期限内に提出する。	45 30
	内容	「自然と人間」の目標及び第2分野の発展的学習内容について学び、9～14回の学習内容の振り返りと補足解説及び中間レポート試験(後半)を行う。			

科目名	☆美術科教育法Ⅰ（2美デ）				開講学年	2	講義コード	2811101	区分	選択	
英文表記	Art Education Method I				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	坂本健(非常勤)										
研究室	本館1階非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間の前後（非常勤講師室）				
メールアドレス	skmt@shokei-gakuen.ac.jp										
キーワード	美術教育 学校教育 美術科教育										
授業概要	美術教育の研究や実践は多岐にわたっており、学校教育をはじめ社会教育、生涯教育、教養教育など、学校や地域社会のあらゆる場面で幅広い対象に受け入れられている。その中で自然、そして生活や社会と美術の関わりについて考察し、美術科教育が果たす役割を踏まえながら、美術の基礎的な理論、美術教育の基礎的な内容を講義と演習をまじえながら進めていく。その内容は学校教育と教員養成を主軸としたものであり、美術教育の目的・分野・方法・教育理論や歴史についての概要及び教材の研究を含めた中・高等学校での美術科教育の領域と内容について考える。また、学修をする上では、毎回の授業でテーマに沿ってのまとめを記入するので、自分の考えを明確に書き、提出をすること。その後にはフィードバックを行うので、返却後はもう一度、その学修内容を振り返るようにすること。その他、各種提出物は期日までに必ず提出をすること。そして、教育者を目指す学生においては本科目における講義・演習を通して、学校教育、及び美術科教育に関する課題に対応できる基礎能力と人間関係形成・社会形成能力を養う。							関連科目			
								発展科目：美術科教育法Ⅱ・美術科教育法Ⅲ・美術科教育法Ⅳ・教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ・教職実践演習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a,f,g	①	美術教育の概要(目的・性格・歴史等)と意義を理解し、文章で報告することができる。									
a,f,g	②	学校教育における美術科教育の意義と概要(表現と鑑賞)及び教材研究の在り方を理解し、文章で報告することができる。									
g	③	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	15	0	20	10	55	100		
教科書	授業の中で指示する(美術科教育法に関する自作教材)										
参考書	中学校学習指導要領 東山書房 文部科学省 高等学校学習指導要領 東山書房 文部科学省 中学校学習指導要領解説 美術編 日本文教出版 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 美術編 教育図書 文部科学省										

予備知識	これまで自身が受けてきた中学校・高等学校での美術の授業について整理しておく。
DPとの関連	美術教育の実践に関わる本科目は「人間関係形成・社会形成能力」に関連するものである。美術教育の専門家を目指すための基礎的・基本的な知識を身に付け、学校教育現場での具体的な指導内容について理解する。
実務経験のある教員	
評価明細基準	レポート：授業最終回に行うまとめレポートで15点 作品：演習(教材研究)での課題で20点 ポートフォリオ：ポートフォリオで10点 その他：講義内容に関するテーマのまとめで55点

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	美術教育とはⅠ 【美術教育の目的と性格】美術教育とはどういったものであるのか、その目的と性格についての講義とまとめ	講義	【予習】自身が受けてきた美術の授業について整理しておく 【復習】授業の内容を確認しておく。【予習】前時の授業内容を確認しておく。【復習】授業の内容を確認しておく。【予習】前時の授業内容を確認しておく。【復習】授業の内容を確認しておく	90
2回	テーマ 内容	美術教育とはⅡ 【美術教育の意義】学校教育において、美術教育ほどのような意義があるのかについての講義とまとめ	講義	【予習】前時の授業内容を確認しておく。【復習】授業の内容を確認しておく	90
3回	テーマ 内容	美術教育とはⅢ 【美術教育理論の歴史】明治期以降における美術教育理論を歴史的観点から考察する講義とまとめ	講義	【予習】前時の授業内容を確認しておく。【復習】授業の内容を確認しておく	90
4回	テーマ 内容	美術教育とはⅣ 【子どもの発達段階と表現活動】子どもの作品を実際に見ながら、発達段階的観点から理解するための講義とまとめ	講義	【予習】前時の授業内容を確認しておく。【復習】授業の内容を確認しておく	90
5回	テーマ 内容	美術科教育の領域と内容Ⅰ 【美術科教育における領域と内容：絵画・彫刻】美術科における領域と内容（絵画・彫刻）を理解するための講義とまとめ	講義	【予習】自身が受けてきた美術の授業について整理しておく 【復習】授業の内容を確認しておく	90
6回	テーマ 内容	美術科教育の領域と内容Ⅱ 【演習：スクラッチ】領域と内容（絵画・彫刻）を体験的に理解するための作品制作をととした演習	演習	【予習】演習のアイデアを練っておく。【復習】作品を完成させ、次時に提出をする	90
7回	テーマ 内容	美術科教育の領域と内容Ⅲ 【美術科教育における領域と内容：デザイン・工芸】美術科における領域と内容（デザイン・工芸）を理解するための講義とまとめ	講義	【予習】自身が受けてきた美術の授業について整理しておく 【復習】授業の内容を確認しておく	90
8回	テーマ 内容	美術科教育の領域と内容Ⅳ 【演習：イラストレーション(○△□からの発想)①】領域と内容(デザイン・工芸)を体験的に理解するための作品制作をととした演習	演習	【予習】演習のアイデアを練っておく。【復習】授業の内容を確認しておく	90
9回	テーマ 内容	美術科教育の領域と内容Ⅴ 【演習：イラストレーション(○△□からの発想)②】領域と内容(デザイン・工芸)を体験的に理解するための作品制作をととした演習	演習	【予習】制作を進めておく。【復習】作品を完成させ、次時に提出をする	90
10回	テーマ 内容	美術科教育の領域と内容Ⅵ 【美術科教育における領域と内容：鑑賞】美術科における領域と内容（鑑賞）を理解するための講義とまとめ。鑑賞の授業におけるICT活用や知的財産権・肖像権について	講義	【予習】自身が受けてきた美術の授業について整理しておく	90

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ 内容	美術科教育の領域と内容Ⅶ 【美術館について】鑑賞の活動における美術館との関係性や最近の美術館の動向についての講義とまとめ	講義	【予習】前時の授業内容を確認しておく【復習】授業の内容を確認しておく	90
12回	テーマ 内容	教材の研究Ⅰ 【美術科教育における材料・用具と安全指導】美術科教育研究における材料・用具（ICT機器を含む）の視点と安全指導法についての講義とまとめ	講義	【予習】自身が受けてきた美術の授業について整理しておく【復習】授業の内容を確認しておく	90
13回	テーマ 内容	教材の研究Ⅱ 【教材研究①】演習を伴う、教材の開発を含めた実地的な教材研究	演習	【予習】演習のアイデアを練っておく【復習】作品を完成させ、次時に提出をする	90
14回	テーマ 内容	教材の研究Ⅲ 【教材研究②】演習を伴う、教材の開発を含めた実地的な教材研究	演習	【予習】演習のアイデアを練っておく【復習】作品を完成させ、次時に提出をする ポートフォリオ（到達度レポート）の作成	90
15回	テーマ 内容	まとめ 【幼・保からの連携について・まとめレポート】就学前から小・中・高への連携についての講義と美術科教育法Ⅰの学修内容のまとめ	講義	【予習】美術科教育法Ⅰでの内容を確認しておく【復習】授業内容を反芻し、各授業でのまとめを整理する	90

科目名	☆美術科教育法Ⅱ(2美デ)				開講学年	2	講義コード	2811201	区分	選択		
英文表記	Art Education Method II				開講期	後期	開講形態		単位数	2		
担当教員	坂本健(非常勤)											
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業前後(非常勤講師室)					
メールアドレス	skmt@shokei-gakuen.ac.jp											
キーワード	学習指導要領 教育課程 指導計画 学習指導案 学習評価											
授業概要	美術科の学習は表現活動と鑑賞活動を通して行われる。そして、その学習指導は教育目標、教材、教育方法、評価などの研究を通じ、生徒の活動を促すものである。このことを踏まえて、美術科教育の学習指導の基礎的な内容を講義と演習をまじえながら進めていく。その内容は学習指導要領の概説、教育課程と指導計画、学習指導・評価・運営の方法等について考察をし、演習として実際に指導案(略案)を作成することにより授業の流れをイメージする。また、学修をする上では、毎回の授業でテーマに沿ってのまとめを記入するので、自分の考えを明確に書き、提出をするようにすること。その後にはフィードバックを行うので、返却後はもう一度、その学修内容を振り返るようにすること。その他、各種提出物は期日までに必ず提出をするようにすること。そして、教育者を目指す学生においては本科目における講義・演習を通して、学校教育、及び美術科教育に関する課題に対応できる基礎能力と人間関係形成・社会形成能力を養う。								関連科目			
									基礎科目:美術科教育法Ⅰ 発展科目:美術科教育法Ⅲ・美術科教育法Ⅳ・教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ・教職実践演習			
教職関連区分									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標											
a,d,g,h	①	学習指導要領及び教育課程と指導計画について理解することができる。										
a,d,f,g,h	②	学習指導・評価・運営の方法について理解することができる。										
a,d,e,f,g,h	③	授業の流れについて理解し、指導案(略案)を作成することができる。										
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。										
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	15	25	0	10	50	100			
教科書	授業の中で指示する(美術科教育法に関する自作教材)											
参考書	中学校学習指導要領 東山書房 文部科学省 高等学校学習指導要領 東山書房 文部科学省 中学校学習指導要領解説 美術編 日本文教出版 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 美術編 教育図書 文部科学省											

予備知識	これまで自身が受けてきた中学校・高等学校での美術の授業、及び美術科教育法Ⅰの内容について整理しておく
DPとの関連	美術教育の実践に関わる本科目は「人間関係形成・社会形成能力」に関連するものである。美術教育の専門家を目指すための基礎的・基本的な知識を身に付け、学校教育現場での具体的な指導内容について理解する。
実務経験のある教員	
評価明細基準	レポート：授業最終回に行うまとめレポートで15点 成果発表：演習（年間指導計画・学習指導案略案）での課題で25点。ポートフォリオ：ポートフォリオで10点 その他：講義内容に関するテーマのまとめで50点

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽竊は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	学習指導要領についてⅠ	講義	【予習】学習指導要領を読んでおく【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【学習指導要領(どば)】学習指導要領がどのような目的と意義があるのかについての講義とまとめ			
2回	テーマ	学習指導要領についてⅡ	講義	【予習】前時の内容を確認し、学習指導要領を読んでおく【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【学習指導要領(美術)の解説】学習指導要領第2章第6節における美術科教育のねらいについての解説とまとめ			
3回	テーマ	指導計画についてⅠ	講義	【予習】前時の内容を確認【復習】授業で取り扱いたい教材を調べておく	90
	内容	【指導計画について】教育課程における指導計画の位置づけとその意義についての講義とまとめ			
4回	テーマ	指導計画についてⅡ	演習	【予習】取り扱いたい教材について調べておく【復習】指導計画の制作を進めておく	90
	内容	【指導計画の作成①】領域と内容のバランスを重視しながら3年間を見通した授業内容の構成 情報機器を活用した教材の開発			
5回	テーマ	指導計画についてⅢ	演習	【予習】取り扱いたい教材について調べておく【復習】指導計画の制作を進めておく	90
	内容	【指導計画の作成②】系統性を考慮しながら授業内容の構成を決定 情報機器を活用した教材の段階的、且つ系統的な配置を検討			
6回	テーマ	指導計画についてⅣ	演習	【予習】取り扱いたい教材について調べておく【復習】指導計画を完成させ、次時に提出をする	90
	内容	【指導計画の作成③】授業に必要な準備や配慮すべき事項を検証			
7回	テーマ	学習指導案についてⅠ	講義	【予習】学習指導要領の「学習指導案の作成について」を読んでおく【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【学習指導案について】教育課程における学習指導案の位置づけとその意義についての講義とまとめ 本テーマに沿ってのまとめ			
8回	テーマ	学習指導案についてⅡ	講義	【予習】前時の内容を確認し、学習指導要領の「学習指導案の作成について」を読んでおく【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【学習指導案の形式】学習指導案の形式について、各項目の記載方法の解説と意義についての講義とまとめ			
9回	テーマ	学習指導案についてⅢ	演習	【予習】前時の内容を確認し、取扱い教材を選んでおく【復習】学習指導案略案の作成を進めておく	90
	内容	【学習指導案(略案)の作成①】…パソコンを用いて 指導計画の中から該当する授業内容を選択し、ねらいを設定			
10回	テーマ	学習指導案についてⅣ	演習	【予習】学習指導案略案の作成を進めておく【復習】学習指導案略案の作成を進めておく	90
	内容	【学習指導案(略案)の作成②】…パソコンを用いて ねらいに即した授業の流れと評価の視点を考察 授業における課題や参考作品の提示に際しての情報機器の活用を検討			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ 内容	学習指導案についてV 【学習指導案(略案)の作成③】…パソコンを用いて授業の流れについて、生徒の活動に応じた時間配分等を考察	演習	【予習】学習指導案略案の作成を進めておく【復習】学習指導案略案の作成を進めておく	90
12回	テーマ 内容	学習指導案についてVI 【学習指導案(略案)の作成④】…パソコンを用いて授業の流れについて、予想される生徒の反応に応じた配慮すべき事項の考察	演習	【予習】学習指導案略案の作成を進めておく【復習】学習指導案略案を完成させて、次時に提出をする	90
13回	テーマ 内容	指導計画の実践と検証Ⅰ 【模擬授業及び授業研究会①】略案を用いた模擬授業の実践をグループごとに行う。模擬授業で実際に情報機器の活用することで、工夫を検討	演習	【予習】研究したい教材を調べておく【復習】取り扱った教材について、授業での活用を検討する	90
14回	テーマ 内容	指導計画の実践と検証Ⅱ 【模擬授業及び授業研究会②】実践した模擬授業から課題を抽出し、改善策を考察し、学習指導案を再考察。模擬授業で実践した情報機器の活用法を再考察	演習	【予習】研究したい教材を調べておく【復習】取り扱った教材について、授業での活用を検討する。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	90
15回	テーマ 内容	まとめ 【美術科における評価について:まとめレポート】美術科における評価とはどういったものであるのかについての講義と美術科教育法Ⅱのまとめ	講義 c	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱでの内容を確認しておく【復習】授業の内容を反芻し、各授業のまとめを整理する	90

科目名	☆地学（2ナ微生）				開講学年	2	講義コード	2811301	区分	選択	
英文表記	Basic Earth Science				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	吉朝朗（非常勤） 板橋 克美										
研究室	本館1階 非常勤講師室 F801						オフィス アワー 授業時間前後				
メールアドレス	yoshiasa@kumamoto-u.ac.jp										
キーワード	地学 天文 気象 地質 化石										
授業概要	<p>自然科学分野で活躍できる教育者・知識人であり、中でも教員や科学技術者を目標とする学生には「地学」は理科・自然科学分野として必要である。1)宇宙の138億年や、惑星と固体地球の46億年にわたって繰り返されてきた現象と歴史を学ぶ。宇宙・惑星・地球・生命は密接に関係し進化・形成されたことを科学的に検証する。2)元素・太陽系・地球の活動・日本列島の形成・天変地異について最先端の観測・研究内容を講義する。3)諸現象の観測や素過程の解析により科学的に明らかにされた、現代の宇宙像・地球像や生命進化と絶滅について知る。4)各観測から予想される地球環境変化の中での人類の未来について考える力を持つ基盤を提供する。前回の授業内容を復習、あらかじめ伝えられた次回講義内容の準備、課された宿題・レポート作成。野外観察関連等の準備、図書館や公開資料、学科推薦等を利用した課題を課す。宇宙地球のダイナミクス、進化、現代の宇宙・地球像、生命の起源、人間活動と環境変化、種の絶滅と人類、持続可能な文明に関わる関連分野の学習。</p>							関連科目			
								連携科目：地学実験、理科教育 法 発展科 目：事前・事後指導、教育実習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a,c	①	宇宙・惑星・地球・生命は密接に関係し形成・進化したことを理解し、元素・太陽系・地球の活動・日本列島の形成・天変地異について説明することができる。									
a,c	②	各観測から予想される地球環境変化の中での人類の未来について考える力を養うことができる。									
a,b,c	③	プレート運動による現象を知り、地震発生メカニズムがわかるようになる。巨大災害、火砕流、活火山、絶滅を説明できるようになる。持続可能文明の必要性、科学的判断力を身に付けることができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	30	40	10	5	5	0	10	0	100		
教科書	授業中に指示する										
参考書	宇宙科学入門 第2版 東京大学出版 「地球科学入門」 ソフトバンククリエイティブ NHK人間講座「宇宙からみる生命と文明」 NHK出版										

予備知識	<p>地学は対象が大気、気象、岩石、鉱物、火山、地震、古生物、惑星、太陽、宇宙等と多くの分野に関連している。物理、化学、生物学的思考に加え、宇宙から素粒子レベルの大きさ、138億年から数秒にいたる時間スケールの認識が求められる。受講する学生は自分の専攻する分野の知識を学習に生かすとともに、それ以外のできるだけ広い分野にも関心を持つよう心掛けて欲しい。</p>
DPとの関連	<p>宇宙地球的視点、天文学的時間スケールから多面的に物事を考え、自然科学に関する知識に基づいて、基礎的・汎用的能力（「人間の本质・人間圏の矛盾」「地球に住む生命としての人間理解・創造的能力向上」「課題対応能力」）を身につけ、それらを実践できるようにする。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>授業中に、授業内容に関連した小課題 2x5=10点。定期試験は60%、その他レポート、小テスト、積極性・意欲、質問・回答能力等30%を総合的に評価する。出席が3/4に満たないものは期末試験の受験資格を与えない。宇宙・惑星・地球・生命は密接に関係し進化・形成されたことを知り、各観測から予想される地球環境変化の中での人類の未来について考える力を持つものに単位を与える。図書館の学科推薦図書等を利用した課題への対応も評価する。</p>

・資料(レジюме)は配布する。板書、PPT、映像により講義をする。地学は対象が気象、気象、岩石、鉱物、火山、地震、古生物、惑星、太陽、宇宙等と多くの分野に関連している。物理、化学、生物学的思考に加え、宇宙から素粒子レベルの大きさ、138億年から数秒にいたる時間スケールの認識が求められる。受講する学生は自分の専攻する分野の知識を学習に生かすとともに、それ以外のできるだけ広い分野にも関心を持つよう心掛けて欲しい。・レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	ガイダンス・安全講習 ガイダンス/地学学習・実験・野外活動に安全について。地学を学ぶにあたって/地学学習・実験・野外活動に安全について。観測とスケールリング	講義 演習	復習:講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
2回	テーマ 内容	宇宙・素粒子 宇宙から素粒子、137億年、宇宙・地球・生命の年齢、時間。宇宙の始まりとハッブル年齢、ビッグバン宇宙論と宇宙背景放射、ダークマターとダークエネルギー	講義	予習:前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習:講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
3回	テーマ 内容	現在の宇宙像 現在の宇宙像。元素の合成、宇宙の構造、恒星・惑星の進化	講義	予習:前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習:講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
4回	テーマ 内容	始源物質と原子太陽系 始源物質と原子太陽系、物質に残された記録。恒星の内部構造・表面及び外層、太陽の活動現象、太陽のエネルギー源/HR図	講義	予習:前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習:講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
5回	テーマ 内容	天体観測と探査 天体観測、惑星探査と惑星の活動。惑星探査と惑星の活動、校外施設(熊本市立博物館プラネタリウム)を活用した天文教育の体験	講義 演習	予習:前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習:講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
6回	テーマ 内容	惑星の進化と構造 惑星の起源・進化と内部構造、生命の起源。新しい太陽系像、太陽系天体の大きさと軌道、惑星の起源・進化と内部構造、生命の起源、太陽系形成論	講義	予習:前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習:講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
7回	テーマ 内容	星と生命 天体の衝突と種の絶滅、進化の本質。隕石衝突とクレーター、衝撃圧縮実験、天体の衝突と種の絶滅、進化の本質	講義	予習:前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習:講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
8回	テーマ 内容	宇宙天文分野のまとめ 中間試験 宇宙・地球史から見た地球環境の成り立ち、地球外生命(系外惑星探査)。初期地球・生命の発生と惑星環境変化、宇宙・地球史から見た地球環境の成り立ち、宇宙天文分野のまとめと到達度の評価(試験)	講義	予習:前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習:講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
9回	テーマ 内容	現在の地球像 現在の地球像、プレートテクトニクス、地殻・マントル・核、地震波の伝わり方、リソスフェアとアセノスフェア、プレートテクトニクス理論による地震・火山・大陸移動の説明、日本周辺のプレート	講義	予習:前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習:講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
10回	テーマ 内容	気象 地球の大気と海洋、地球の気候、大気の循環、海洋の大循環、海水の組成と循環、気象要素と観測、天気の変化、前線と気団	講義	予習:前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習:講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ 九州の地球科学	九州の地球科学：災害・天変地異。野外調査法、地層、化石、火成岩と堆積岩、朝夕、古流行、体積、風化、フィールドワーク	講義 演習	予習：前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習：講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
12回	テーマ 文明と環境変化予測	文明の本質・環境変化予測と文明持続へのプレグスルー。文明の本質・ミランコビッチ周期と気候、未来予測の可能性	講義	予習：前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習：講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
13回	テーマ 産業革命と文明の矛盾	宇宙地球活動・諸現象の科学的理解、産業革命と文明の矛盾。宇宙地球活動・諸現象の科学的理解、産業革命と文明の矛盾についての先端研究・科学	講義	予習：前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習：講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
14回	テーマ 地球史と未来	地球史と未来、気候変動、観測と理論。地質時代の区分、宗準化石と宗相化石、地球史と未来、気候変動、観測と理論	講義	予習：前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習：講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
15回	テーマ 持続可能な文明	持続可能な文明への道、(地球分野)の総括。持続可能な文明への道、	講義	予習：前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習：講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	180
16回	テーマ 地球分野のまとめと評価 定期試験	地球分野のまとめと到達度の評価(試験)	講義		

科目名	☆教育方法論（3機ナ建宇情微生美デ）				開講学年	3	講義コード	2811801	区分	選択	
英文表記	Educational Methods and Techniques				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	木村 勝美										
研究室	本館付属棟 3 1 1						オフィス 昼休みの時間（本館付属棟 3 1 1 アワー）				
メールアドレス	kimura77@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	授業設計・評価 確かな学力 主体的・対話的で深い学び 教材研究 情報機器活用										
授業概要	<p>教育方法論は、教育方法の基本原理や授業設計・評価等に関する知識や実践的技能等の教員として必要な資質・能力を育成する科目である。授業では、学校教育法第三十条に述べられている「確かな学力」（「基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力その他の能力及び主体的に学習に取り組む態度」）の理念の具現化を図るための学習指導や学習評価の在り方等についての講義や演習を通して、情報の理解・選択・処理能力や本質理解能力を育成する。また、確かな学力の定着・向上を目指した学習指導や教材作成を工夫等した模擬授業等を通して、課題対応力や実践的指導力及び人間関係形成・社会形成能力を培う。</p>							関連科目			
								<p>1 基礎科目：教育原論、専門科目「理科（物理・化学・生物・地学）、情報、工業、芸術（美術・デザイン）」2 連携科目：教科教育法（工業、情報、理科、美術）3 発展科目：事前・事後指導、教育実習、教職実践演習</p>			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
d	①	学習方法や授業設計の在り方について理解し、それらの知識・技能を身付けることができる。									
d	②	「主体的・対話的で深い学び」の基本的な考えを理解し、授業の改善を図ることができる。									
h,g	③	学習教材、学習形態、情報機器活用、評価方法等を考慮しながら、学習指導案を作成できる。									
d,i	④	指導過程、教材作成、発問、板書等を考慮しながら模擬授業を行うことができる。									
g	⑤	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	30	20	0	30	10	0	10	0	100		
教科書	<p>教育方法論に関する自作教材 中学校学習指導要領解説「理科編・美術編」 文部科学省 高等学校学習指導要領解説「工業編・情報編・数理編・芸術編」 文部科学省</p>										
参考書	<p>教育方法・技術論 学芸図書 小野賢太郎他 アクティブラーニング実践Ⅱ 産業能率大学出版部 浦崎太郎他</p>										

予備知識	<p>・中学校・高等学校での学習指導・学習評価の在り方についての知識や技能 ・教科教育法で学修した知識・技能</p>
DPとの関連	<p>教育方法論の授業において、討議や議論を通して学習指導や学習評価の適切な在り方を検討していくことは、将来の課題対応力に繋がるものである。また、総括段階でのグループで連携・協働して学習指導案や学習教材等を作成し、模擬授業に向かう態度や姿勢は、人間関係形成能力や社会形成能力の育成に繋がるものである。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1 中間・定期試験 ・中間試験 30点 ・定期試験 20点 2.レポート 授業内容に関するレポート及び図書館の教育関連図書に関する課題のレポート ・レポート 5点×4=20点 ・学習指導案の作成 10点 3.成果発表(口頭・板書、実技等) ・模擬授業 10点 4.ポートフォリオ 10点 ・到達目標を達成できたかを評価する。</p>

1.将来教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2 授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業内容の課題や図書館の教育関連図書を活用しての課題についてのレポートは期日を厳守して提出すること。4.遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習をきちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション・教育方法の基本原則と学習指導法 教育方法論に係るシラバス及び履修上の注意について説明する。教育方法の基本原則や学習・指導法の類型及び授業設計の手順について学ぶ。	講義	【予習】学習教材2を読み込んでおく。【復習】教育方法の基本原則と学習指導法について復習しておく。	30 30
2回	テーマ 内容	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 「主体的・対話的で深い学び」の意義や授業改善方法（徹底指導・能動型学習等）について具体的事例を通して学ぶ。	講義 演習	【予習】学修教材3を読み込んでおく。【復習】各教科における主体的・対話的で深い学びの在り方についてまとめ、レポートを提出する。	30 30
3回	テーマ 内容	授業を構成する基本的な要件 適切な学習活動ができる学級づくり、生徒の実態把握、情報機器や学習意欲を促す掲示物等の学習環境の整備、生徒の理解を深める教材作成、目標達成のための教員の役割等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材4を読み込んでおく。【復習】授業を構成する基本的な要件について復習しておく。	30 60
4回	テーマ 内容	教材研究の在り方 教材研究の意義や教材研究の在り方、教材を使用する授業の組み立て方等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材5を読み込んでおく。【復習】教材研究の在り方について復習しておく。	30 30
5回	テーマ 内容	学習指導過程の在り方 教科の目標とその実現のための学習指導過程や指導形態の工夫等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材6を読み込んでおく。【復習】教科の目標の解説を学習指導要領解説からまとめ、レポートを提出する。	30 30
6回	テーマ 内容	生徒の実態把握と授業の在り方 生徒の実態把握の意味や把握の方法、単元指導計画への生徒の実態の位置づけ、実態に基づく授業の在り方等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材7を読み込んでおく。【復習】言語活動に関するレポートを作成し提出する。	30 60
7回	テーマ 内容	授業を支えるポイント 指導過程における発問・説明・指示の工夫、板書の工夫等について学ぶ。また、板書例を作成する。	講義 演習	【予習】学修教材8を読み込んでおく。【復習】授業1回～7回までの学修内容を復習しておく。	30 90
8回	テーマ 内容	情報機器の活用・学修の定着度把握 視聴覚メディアの効果、教育情報機器（電子黒板、タブレット、電子顕微鏡等）の活用方法、情報モラル等について学ぶ。中間試験を実施しフィードバックする。	講義	【予習】学修教材9を読み込んでおく。中間試験の準備をしておく。【復習】情報機器の活用等について復習しておく。	50 20
9回	テーマ 内容	学習評価の在り方（観点別学習状況評価） 相対評価と絶対評価、教科目標と観点別学習状況評価の具体的内容等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材10を読み込んでおく。【復習】学習評価の在り方について復習しておく。	30 30
10回	テーマ 内容	学習評価の在り方（指導過程における評価等） 単元評価計画における観点別評価の設定、指導過程における評価の実際等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材11を読み込んでおく。【復習】学習評価の在り方について復習しておく。	30 30

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	授業観察と授業研究	演習	【予習】教科教育法で学修した学習指導案作成法を復習しておく。【復習】授業観察から学修した内容をまとめ提出する。	40 40
	内容	実際の教科の授業を観察(DVD)し、授業の視点(指導の流れ・発問・板書・教材の工夫等)に基づき、授業研究を行う。			
12回	テーマ	学習指導案の作成	演習	【予習】模擬授業のための教材作成の準備をしておく。【復習】模擬授業のための学習指導案を完成する。	30 60
	内容	学習指導案作成方法を学び、各教科の学習指導案を班で検討しながら作成する。			
13回	テーマ	教材作成等の工夫	演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業用の教材等を完成する。	30 60
	内容	教材作成、発問の仕方、板書の工夫、教育機器の活用等を班で検討し、協働しながら模擬授業の計画を立てる。			
14回	テーマ	模擬授業と授業研究	演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業の反省をまとめ提出する	30 60
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
15回	テーマ	模擬授業と授業研究	演習	【予習】定期試験の準備をする。授業8回～15回までの復習をしておく。【復習】模擬授業の反省をまとめ提出する。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	70 50
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
16回	テーマ	総括的評価とまとめ	講義		
	内容	定期試験を実施しフィードバックする。総評、提出物の収集・返却、出席状況の確認			

科目名	☆工業科教育法Ⅱ（3機建宇情）				開講学年	3	講義コード	2812001	区分	教職「選択」	
英文表記	Method of Teaching Industrial Subjects Ⅱ				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	山本康詞										
研究室	本館付属棟320						オフィス 火曜日：昼休みおよび火曜日：3 アワー 時限目				
メールアドレス	yama-sgy@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	プロフェッショナル システム構築力 ユニバーサルデザイン AI技術 学習指導案										
授業概要	中国やインドといったアジア新興国の急速な発展、韓国の工業技術のめざましい高度化、関東東北大震災や円高、団塊の世代の大量退職といった様々な要因が重なり、「Made in Japan」の信頼が揺らいできている。資源不足の問題もあるが、とりわけこれから日本の将来を担う若手技術者の育成は大きな問題となっている。実際、我が国の産業現場からも、「日本の工業技術の原点はものづくり」との声が各方面から上がっている。その意味でも、ものづくり教育を掲げている高校工業教育が果たすべき役割は大きなものがある。本講座では、今一度、工業教育の原点に戻り、工業教育の理念や工業教育改革への取組、学習指導要領の目標等を踏まえた教育課程編成の在り方等を学ぶ。また、工業科教員として、或いは企業における技術者養成の指導者として必要な豊かな人間性と使命感と意欲・情熱、旺盛な研究心と実践力、技術教育(仕事)への確かなビジョンの構築をはかるため、学校現場や企業現場の最新情報を積極的に導入する。1. 自作テキストによる授業を行うが、各自の専門科目については図書館を活用して十分に理解を深めさせる。2. 工業高校における実践例を積極的に活用した授業を行う。その一つの方法としてパワーポイントや自作のDVDを活用して授業理解を深めさせる。							関連科目			
								基礎科目：教育原論、教育制度論、教職概論、生徒指導論 連携科目：工業科教育法1、教育方法論 発展科目：事前・事後指導、教職実践演習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a, b	①	我が国の高度成長をもたらしてきた工業教育の意義や工業教育改革の変遷、及び個に応じた学習指導の在り方など学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程編成等を理解し、今後の工業教育の在り方について、レポートを作成するなど文章で説明することができる。									
h, d	②	工業教育の役割と目標を理解し、工業科教員に必要な教育観や品格について、自分の考えを整理して発表することができる。									
b	③	「ものづくり教育」をベースとした技術指導、技術指導者としての心構えの必要性・重要性を踏まえた、学習指導案を作成し、模擬授業などで発表することができる。									
	④	本科目における「学生到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	30	0	10	50	0	10	0	100		
教科書	自作の授業資料										
参考書	高等学校学習指導要領解説工業編 実教出版 文部科学省 978-4-407-32001-5 工業科教育法の研究～新しい観点と実践に基づく 実教出版 池守氏他2名 978-4-407-31056-1 工業科・技術科教育法(教職必修) 実教出版 教職課程研究会 978-4-407-03059-4 工業科教育の方法と実際 東京電機大学 石坂 政俊氏他3名 978-4-486-021018 人工知能は人間を超えるか 角川文庫 松尾 豊 978-4-04-080020-2										

予備知識	予備知識:学習指導要領の内容、工業の教授・学習論、教育評価
DPとの関連	工業科教育法は、ものづくりを担う人材育成を支援する目的で行われる重要な教育活動であり、工業高校の教師に求められる資質・能力(技術者としての倫理観・職業観、実践的職業能力、論理的に思考し処理する能力、)を身に付けるための科目である。そのため、基礎的・汎用的能力(「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」)を身に付け、それらを実践できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1 定期試験による評価。30点 2 レポート 授業の受講前や受講後の課題として、図書館・図書室の蔵書等を学習させ、それに基づいたレポート(学習指導案・教材・教具等)を提出 10点 3 成果発表 模擬授業を実施し、その成果及び他学生の模擬授業に対する感想評価の発表50点 4 ポートフォリオ 10点 「学生の到達度目標」の各項目の達成度とその理由を200～250文字で入力してプリントアウトして提出 その他、学生の学修行動記録(紙媒体)

1. 自作テキストを使用し講義を行うが、資料については授業中に指示する。2. 授業への参加姿勢をみるためノート提出を求める。ポートフォリオとして自己評価させるので、ポイントを押さえてノートすること。3. 対話型授業を行うため、前列の方に着座すること。4. 指導案の作成とそれによる模擬授業をさせるので、自身の専門教科については、図書館に高校生用教科書が整備されているので、学習しておくこと。5. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	<p>テーマ オリエンテーション・工業教育の変遷</p> <p>内容 産業(技術)教育の発展、世界の産業教育(フランス、ロシア、アメリカ)、工業教育の必要性我が国の工業教育の歴史性我が国の工業教育の歴史</p>	講義 演習	【予習】テキストp3～p5を読んでおく。【復習】産業革命と産業教育について自身の考えをノートにまとめる。	15 45
2回	<p>テーマ 工業教育の必要性</p> <p>内容 職業と技術、ものづくりの理念、技術者倫理観、人材育成の重要性、日本の高度成長期を支えたプロフェッショナル、高度成長期における高校工業教育の実態、起業家精神の紹介、SGD(ものづくり精神について) 小テスト1(技術者の倫理観について)、高度成長期における高校工業教育の実態、起業家精神の紹介</p>	講義 演習 S G D	【予習】テキストp20～p25を読んでおく。【復習】ものづくり精神について自身の考えをノートにまとめる。	15 45
3回	<p>テーマ 新しい時代に対応できるこれからの工業教育(1)</p> <p>内容 工業教育の課題、システム構築力の育成、ユニバーサルデザインの方向性、SGD(ユニバーサルデザインの方向性について)</p>	講義 演習 S G D	【予習】テキストp6～p11を読んでおく。【復習】ものづくり精神について自身の考えをノートにまとめる。	15 45
4回	<p>テーマ 新しい時代に対応できるこれからの工業教育(2)</p> <p>内容 AI技術による産業社会の動向、あと10～20年でなくなる職業と残る職業、まとめ(①「ものづくり精神」②「5Sの指導」③安全教育④システム構築力の育成⑤ユニバーサルデザインの方向性⑥AI技術について)SGD(AI技術と工業教育について) 小テスト2(これからの工業教育について)</p>	講義 演習 S G D	【予習】テキストp11～p19を読んでおく。【復習】AI技術と工業教育について自身の考えをレポートにまとめる。	15 45
5回	<p>テーマ 教育改革と工業教育</p> <p>内容 教育改革、高等学校教育、教育改革と工業教育、高等学校の教育観、高等学校の教育改革</p>	講義 演習	【予習】テキストp31～p34を読んでおく。【復習】学校外における学修単位認定についてノートにまとめる。	15 45
6回	<p>テーマ 世界の工業教育</p> <p>内容 世界の工業教育、世界の工業教育の特徴、ドイツの公教育システム、経験主義・体験主義、SGD(ドイツのマイスター制度について)</p>	講義 演習 S G D	【予習】テキストp35～p44を読んでおく。【復習】ドイツのマイスター制度について自身の考えをノートにまとめる。	15 45
7回	<p>テーマ 我が国の工業教育の歴史</p> <p>内容 我が国のものづくり精神、ものづくりは人づくり、現代のプロフェッショナルの紹介、論作文作成</p>	講義 演習	【予習】テキストp26～p30を読んでおく。【復習】ものづくりは人づくりについて自身の考えをノートにまとめる。	15 45
8回	<p>テーマ 工業科の学習指導要領</p> <p>内容 学習指導要領の意義と内容、変遷、学習指導要領に見る工業教育の在り方</p>	講義 演習	【予習】テキストp45～p56を読んでおく。【復習】学習指導要領の意義について自身の考えをノートにまとめる。	15 45
9回	<p>テーマ 工業高等学校における教育課程(カリキュラム)の編成</p> <p>内容 教育課程(カリキュラム)編成、教育課程の意義、法制、工業高等学校における教育課程編成の在り方、学習指導計画(シラバス)の作成、工業教育に求められるもの、学習指導の実際、学習指導計画の立て方、SGD(工業教育に求められるものについて) 小テスト3(工業教育に求められるものについて)</p>	講義 演習 S G D	【予習】テキストp57～p66を読んでおく。【復習】工業教育に求められるものについて自身の考えをノートにまとめる。	15 45
10回	<p>テーマ 学習指導案作成と研究授業</p> <p>内容 学習指導案の意義と作成上の留意点、アクティブラーニングの視点、研究授業の実際(DVD視聴) 課題レポート(学習指導案及び教科の指導法について)</p>	講義 演習	【予習】別途配付資料を読んでおく。【復習】自身の専門教科の学習指導案を作成する。	15 75

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ 内容	模擬授業(1) 機械学科の模擬授業実施、評価、意見交換、授業研究、意見交換、実技(模擬授業の実施)、討論(模擬授業の相互教科)	発表 実 技 討論	【予習】作成した学習指導案により、教材教具を作成する。【復習】個々に与えられた課題について自身の考えをノートにまとめる。	60 40
12回	テーマ 内容	模擬授業(2) 電気電子系学科の模擬授業実施、評価、意見交換、授業研究、意見交換、実技(模擬授業の実施)、討論(模擬授業の相互教科)	発表 実 技 討論	【予習】作成した学習指導案により、教材教具を作成する。【復習】個々に与えられた課題について自身の考えをノートにまとめる。	50 50
13回	テーマ 内容	模擬授業(3) 建築系学科の模擬授業実施、評価、意見交換、授業研究、意見交換、実技(模擬授業の実施)、討論(模擬授業の相互教科)	発表 実 技 討論	【予習】作成した学習指導案により、教材教具を作成する。【復習】個々に与えられた課題について自身の考えをノートにまとめる。	50 50
14回	テーマ 内容	模擬授業の反省、工業高校の教師に求められるもの 実験・実習指導の在り方、実習施設設備の学習環境の管理、事故防止と安全管理、インターンシップ取組の意義と視点、キャリア教育の在り方、技術者倫理とコミュニケーション能力、評価の意義と機能 SGD(目指すべき教師像について)	講義 演 習 S G D	【予習】別途配付資料を読んでおく。【復習】目指す教師像について自身の考えをレポートにまとめる。	15 45
15回	テーマ 内容	社会に開かれた工業高等学校 まとめテスト(定期 考查) 学校運営連絡協議会(学校評議員制)、学校開放の意義、公開講座、社会人の受け入れ、近隣の学校間の連携(例)、生涯学習、情報開示と説明責任、工業高等学校の活性化、おわりに(工業高等学校の教師への期待)SGD(工業高校の活性化について) 総評、到達度ポートフォリオの入力	講義 演 習	【予習】テキストp67～p79を読んでおく。【復習】与えられた問題を解答し、試験に備える。	15 45

科目名	☆情報科教育法Ⅱ（3情）				開講学年	3	講義コード	2812401	区分	選択	
英文表記	Education of Information ScienceⅡ				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	元田暁輝（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間後（非常勤講師室）				
メールアドレス	motoda2008@gmail.com										
キーワード	情報 教育 授業 学習指導案 教師										
授業概要	この授業の目標は、学校現場で活躍できる情報科教員の育成である。そのため情報を担当する教員には情報科教育法Ⅱは不可欠である。情報科教育法1で習得した基礎的な技術をもとにさらに発展した学習を行う。模擬授業を多く実践し、高校の現場で実践的な授業スキルを身につけるための個別学習及びグループ学習を行う。教科「情報」の教育目標や内容を十分に理解し、リーダーシップやコミュニケーション能力などの基礎的汎用的な能力をさらに磨き、高度な情報の授業を実施することができる実践的な力を身につけるための授業を行う。							関連科目			
								連携科目：教育方法論、事前・事後指導			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
b	①	教科「情報」の設置理念を踏まえ、授業の工夫、指導力を身につけることができる。									
d	②	学習指導案の作成を作成し、それに則った授業を展開することができる。									
d	③	様々な授業形態を知り、内容に応じた効果的な授業展開をすることができる。									
d,h	④	情報モラルやセキュリティポリシーを理解し、学校現場で望ましい教育活動をすることができる。									
g	⑤	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	60	0	10	0	100		
教科書	社会と情報 日本文教出版 水越敏行										
参考書	高等学校学習指導要領解説 情報編 開隆堂 文部科学省										

予備知識	情報科教育法1を履修し、授業を設計し実践する力を身につけておくこと。
DPとの関連	情報に関する高度な専門的な知識を持つだけでなく、教師として高い倫理観を持ち、コミュニケーション力、チームワーク力、授業のデザイン力、実践力を身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1 レポート 30点 2 成果発表 60点 ・主に模擬授業を行い、授業の遂行能力や授業のデザイン力、コミュニケーション力、及び、プレゼンテーションにおける企画力・発表力などを総合的に評価する。3 ポートフォリオ(学修到達度評価) 10点

・正規出席は授業開始15分まで、遅刻出席は授業開始30分まで、30分を超えた場合は欠席扱いとする。・レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	情報教育の現状と課題 情報化がもたらす教育現場における様々な課題を検証し、学習指導要領ど のかかわり中で情報社会における必要な力について学ぶ。	講義	情報化社会における教師として必要な力について	30
2回	テーマ 内容	教科「情報」の教員に求められるスキル 授業のみならず、情報モラル・マナーを身につけ日常の学校生活における様 々な問題に対応できるスキルについて学ぶ。	講義	情報モラル・マナーについて	30
3回	テーマ 内容	情報活用の実践力についての模擬授業 情報リテラシーを身につけ、情報機器を使用し各種ソフトウェアを活用するこ とをテーマに模擬授業を実践する。	演習	模擬授業の準備	60
4回	テーマ 内容	情報の科学的な理解についての模擬授業 コンピュータにおける情報の表現方法をデジタルという概念がらびもどくこ とをテーマに模擬授業を実施する。	演習	模擬授業の準備	60
5回	テーマ 内容	情報モラル教育・情報倫理教育 SNSやブログを利用した情報の発信や受信にかかわるモラルやマナー、ル ールを学び、情報社会に健全に参画する態度を身につけることについて学 ぶ。	講義	情報モラル・情報倫理について	30
6回	テーマ 内容	情報社会に参画する態度についての模擬授業 情報科が社会に及ぼす影響について考え、その中で身につけるべき知識や 行動規範について理解することについて模擬授業を実施する。	演習	模擬授業の準備 授業の評価と反省	60
7回	テーマ 内容	情報メディアを活用した授業事例研究 学校現場に設置されている情報機器やネットワーク環境を活用した具体的 事例を学びながら授業を設計することや評価について学ぶ。	講義	レポートの提出	30
8回	テーマ 内容	学習指導案の立案 グループごとにテーマを決め、教科「情報」の学習指導案を作成する。	講義	レポートの提出	30
9回	テーマ 内容	情報社会に参画する態度についての模擬授業 情報モラルや情報倫理をテーマにSNSやネットワークを活用した情報の受 信や発信についての模擬授業を実践する。	演習	模擬授業の準備 授業の評価と反省	60
10回	テーマ 内容	他教科との連携と協働① 総合学習や社会科などの他教科との連携と協働を視野に入れて、ディスカ ッション、コラボレーションなどについて学ぶ。	講義	ディスカッションについて	30

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	他教科との連携と協働②	講義 演習	プレゼンテーションの準備	60
	内容	教科を横断した内容で授業を設計し、プレゼンテーションの活用について学ぶ。			
12回	テーマ	教科「情報」とプレゼンテーション①	講義 演習	プレゼンテーションの準備	60
	内容	プレゼンテーションの意義を学び、プレゼンテーションの具体的なスキルについて学ぶ。			
13回	テーマ	教科「情報」とプレゼンテーション②	講義	テーマの選択と設計	60
	内容	具体的なテーマを選択し、プレゼンテーションを設計することについて学ぶ。			
14回	テーマ	プレゼンテーションの実施	演習	プレゼンテーションの準備 評価・反省 ポートフォリオ(到達度レポート)の作成	60
	内容	プレゼンテーションの発表会を行う。			
15回	テーマ	教科「情報」を担当する教師の役割・総括	講義	レポートの提出	30
	内容	人工知能やロボットが発展し、社会に浸透していく中で新しい社会に対応する教育のあり方を推進する教師の役割について学ぶ。			

科目名	☆職業指導Ⅱ（3機建宇情）				開講学年	3	講義コード	2812901	区分	選択	
英文表記	Vocational Guidance Ⅱ				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	山本 康詞										
研究室	本館付属棟 3階 320 研究室						オフィス アワー 水曜日 5時限目				
メールアドレス	yama-sgy @ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	キャリア教育 進路指導 勤労観 職業観 男女共同参画社会										
授業概要	1. 教職科目であり、職業指導やキャリア教育に関する知識や意義を学び、職業選択に必要な基礎的汎用能力を養い、教員として高校生の職業選択を支援できる指導方法を学ぶ。 2. 生徒が自ら職業を選択し、責任ある社会人として自立するための職業指導の在り方について考え、実践力を養う。 3. 高等学校の職業指導・進路指導・キャリア教育の事例を参考にして、職業指導の指導法を習得する。 4. 中間試験の結果については実施日の次の授業中に学生へフィードバックする。							関連科目			
								・連携科目：職業指導Ⅰ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
g,h	①	計画的、組織的な職業指導が人間形成に重要な役割を果たすことを理解し、文章で説明することができる。									
g,h	②	生徒の自己実現が図られる職業指導、キャリア教育の在り方を理解し、文章で説明することができる。									
g,h	③	生徒の進路相談等での教師の役割や基本的姿勢について理解し、文章で説明することができる。									
g,h	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	60	0	0	30	0	0	10	0	100		
教科書	自作テキスト										
参考書	キャリア教育基礎論 実業之日本社 藤田晃之 ISBN9784408416694、 進路指導・キャリア教育論 中川書店 坂本 昭 ISBN978-4-931363-53-3										

予備知識	1.就職や雇用に関する情報に関心を持ち、日頃から新聞やテレビ等のニュースを見るよう心掛ける。2.毎回、講義内容をワークシートに記入してよく読み返しておくこと。
DPとの関連	基礎的・汎用能力(「人間形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」)を身に付け、それらを実践できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.中間試験 60点 2.レポート 3点×10回 30点 3.ポートフォオ 「到達度ポートフォリオ」 10点 到達目標の達成度を自己評価し、到達度とその理由を評価表に記入して提出する。

1. レポートは、必ず期限内に提出すること。2. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。3. 毎回ワークシートに記入し、読み返しておくこと。4. ワークシートや配布資料はバインダーに綴じておくこと。5. 正規出席・授業開始20分まで／20分超えた場合は欠席扱い。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	キャリア教育の必要性	講義 演習	【復習】キャリア教育の必要性や意義について理解しておく。課題①のレポートを作成し、次回提出する。	30 30
	内容	キャリア教育で生徒に何が出来るか。キャリア教育の意義について学習する。課題①(キャリア教育の必要性)についてレポートを作成する。			
2回	テーマ	学校教育に求められる課題	講義 演習	【予習】若者の職業観・勤労観について調べておく。【復習】課題②のレポートを作成し、次回提出する。	30 30
	内容	児童生徒の職業観・勤労観の育成等について学習する。課題②(学校から職業への移行の課題)についてレポートを作成する。			
3回	テーマ	キャリア教育で育成する能力	講義	【予習】企業が求める人材像について調べておく。【復習】ワークシートを繰り返し読んでおくこと。	20 20
	内容	キャリア教育で育成する基礎的・汎用能力について学習する。			
4回	テーマ	職業観・勤労観の育成	講義 演習	【予習】企業が求める人材像について調べておく。【復習】課題③のレポートを作成し、次回提出する。	30 30
	内容	職業観・勤労観の育成が求められる理由、企業が求める人材像について学習する。課題③(企業が求める人材像)についてレポートを作成する。			
5回	テーマ	子どもたちの進路・発達をめぐる環境の変化	講義 演習	【予習】最近の高校生の進路状況について調べておく。【復習】課題④のレポートを作成し、次回提出する。	30 30
	内容	高校生の進路指導状況の変化、職業観・勤労観の環境について学習する。課題④(職業とは何か、職業人の生きがい)についてレポート作成する。			
6回	テーマ	高等学校の進路指導	講義 演習	【予習】進路指導の諸活動について調べておく。【復習】課題⑤のレポートを作成し、次回提出する。	30 30
	内容	高等学校の進路指導の変遷、教育課程上の位置づけについて学習する。課題⑤(進路指導の諸活動)についてレポートを作成する。			
7回	テーマ	高等学校におけるキャリア教育	講義 演習	【予習】高校段階のキャリア発達の特徴を調べておく。【復習】課題⑥のレポートを作成し、次回提出する。	30 30
	内容	高校段階におけるキャリア発達の特徴、高校期における目標等について学習する。課題⑥(高校段階におけるキャリア発達の特徴)についてレポートを作成する。			
8回	テーマ	前半のまとめ	講義 演習	【予習】前半の配布資料をよく読んで見直しておく。【復習】前半の講義内容の不確かな点を見直しておく。	30 30
	内容	前半の講義内容についてのまとめと中間試験を行う。			
9回	テーマ	高等学校の進路指導(1)	講義 演習	【予習】進路指導における教師の役割について調べておく。【復習】課題⑦のレポートを作成し、次回提出する。	30 30
	内容	進路指導部の主な活動内容、教師の役割等について学習する。課題⑦(教師の役割)についてレポートを作成する。			
10回	テーマ	高等学校の進路指導(2)	講義 演習	【予習】職業人の生きがいについて調べておく。【復習】課題⑧のレポートを作成し、次回提出する。	30 30
	内容	職業人の生きがい、働く意義について学習する。課題⑧(働く意義)についてレポートを作成する。			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	高等学校の進路指導(3)	講義 演習	【予習】公正な採用選考とは何かについて調べておく。【復習】課題⑨のレポートを作成し、次回提出する。	30 30
	内容	公正な採用選考とは何か、不適正な採用選考等について学習する。課題⑨(公正な採用選考)についてレポートを作成する。			
12回	テーマ	職業選択に必要なもの	講義 演習	【予習】自分の長所、適性を考えておく。【復習】課題⑩のレポートを作成し、次回提出する。	30 30
	内容	自己理解、自分の適正理解について学習する。課題⑩(自分の長所、適性)についてレポートを作成する。			
13回	テーマ	職場環境の変化	講義	【予習】男女共同参画社会について調べておく。【復習】ワークシート、配布資料をよく読み返す。	20 20
	内容	男女共同参画社会、賃金格差等について学習する。			
14回	テーマ	新しい職業指導の形態	講義	【予習】科目「産業社会と人間」について調べておく。【復習】ワークシート、配布資料をよく読み返す。	20 20
	内容	科目「産業社会と人間」の目標、内容について学習する。			
15回	テーマ	後半のまとめ 最終確認	講義 演習	【予習】後半の講義資料をよく読んでおくこと。【復習】中間考査で解らなかった点について確認しておく。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	40
	内容	後半の講義内容についてのまとめと中間試験を行う。総評、出席確認、「到達度ポートフォリオ」の作成。			

科目名	☆事前・事後指導（3機建宇情美デ）				開講学年	3	講義コード	2813001	区分	選択	
英文表記	Pre-Post Guidance				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	木村 勝美										
研究室	本館付属棟 311						オフィス アワー 昼休みの時間（本館付属棟311）				
メールアドレス	kimura77@ed.soyo-u.ac.jp										
キーワード	教育実習の意義 教育実習上の課題 教育実習の心構え										
授業概要	事前・事後指導は、将来教員を目指すに学生に対し、教育実習に必要な教科指導や生後指導等の既習内容のまとめを行い、円滑に教育実習が行える資質・能力を育成する科目である。教育実習は、大学での教職科目や専門教科等で学んだ知識・技能を学校現場で検証する機会であり、また、授業、学級(HR)活動等を通して、先輩教師、生徒達から多くのものを学び、教育への魅力を実感し、その後の大学生活を改善し、理想の教師へ向けて必死に努力する学生が増えるなど、教職を目指す学生に大きな影響を与えるものである。このような教育実習の意義を考慮し、事前指導においては、充実した教育実習を行えるよう学校教育活動や教科指導・生徒指導等のあり方についての講義・演習等を通して実践的指導力、人間関係形成・社会形成能力等を育成する。また、事後指導においては、実習で経験した課題解決に向けて計画的に取り組んでいける自己管理能力や課題対応力等を培う。							関連科目			
								1 基礎科目:教職に関する1年～2年までに履修した全科目、教科に関する科目(工業・情報・理科・芸術) 2 連携科目:教科教育法(工業・情報・理科・美術)、道徳教育指導論 3 発展科目:教育実習、教職実践演習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
h,g	①	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に係る自己課題を明確にし課題解決へ向けて取り組むことができる。									
d	②	指導過程・教材・発問・板書等を工夫し、教科・科目に係る模擬授業を適切に行うことができる。									
h	③	授業内容に関する課題に対して調査研究し、適切な文章で報告(レポート)することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	40	50	0	10	0	100		
教科書	事前・事後指導に関する自作教材										
参考書	中学校学習指導要領解説理科編・美術編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説工業編・情報編・理数編・美術編 文部科学省										

予備知識	1～3年まで学修した教職科目(教職概論、教育制度論、教育課程・特別活動論、教科教育法、道德教育指導論、生徒指導論等)及び専門科目に係る知識・技能
DPとの関連	事前・事後指導の授業において、教育者としての使命感や教育的愛情等の育成とともに、挨拶、言葉遣い、適切な服装等の社会人としてのマナーを身に付けることは、人間関係形成・社会形成能力の育成に繋がるものである。さらに教育実習上の自己課題を分析し、計画的に課題解決に取り組むことは、将来の課題対応力の育成に繋がるものである。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.レポート 授業内容に関する課題及び図書館の教育関連図書を活用した課題レポート 10点×4＝40点 2.成果発表(口頭・板書・実技等) ①模擬SHR発表 10点 ②事例研究発表 20点 ③模擬授業 20点 3 ポートフォリオ 10点 ・到達目標を達成できたかを評価する。

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション・教育実習の意義 事前・事後指導に係るシラバス及び履修上の注意について説明する。教育実習の意義や目的、教育実習の内容（講話・観察・実習）について学ぶ。	講義	【予習】学修教材2を読み込んでおく。【復習】教育実習の意義について復習しておく。	30 30
2回	テーマ 内容	教育実習校からの指摘事項や先輩の教育実習後の感想等から教育実習上のこれまでの課題を把握し課題への対応を検討する。	講義	【予習】学修教材3を読み込んでおく。【復習】教育実習上の課題と対応について復習しておく。	30 30
3回	テーマ 内容	教育実習へ向けての自己課題の把握 教育実習に向けての自己の課題（教科指導・生徒指導・学級経営等）を把握し、課題克服のための取り組みを検討する。	講義 演習	【予習】学修教材4を読み込んでおく。【復習】教育実習に係る自己の課題解決策をまとめ提出する。	30 40
4回	テーマ 内容	教育実習上の心構え 教育実習において心がける事柄、職務、学習指導、生徒指導、学級経営等の在り方について学ぶ。	講義	【予習】学修教材5を読み込んでおく。【復習】教育実習上の心構えについて復習しておく。	30 30
5回	テーマ 内容	教育実習上の留意事項 服装・礼儀・言葉遣い等の礼儀作法や報告・連絡・相談等の社会人としての基本的姿勢について学ぶ。	講義	【予習】学修教材6読み込んでおく。【復習】教育実習における留意点についてまとめ提出する。	30 60
6回	テーマ 内容	学級指導の在り方 SHR（朝の会・帰りの会）での学級指導の在り方（連絡・健康観察・出欠確認・諸連絡・教室管理・講話等）について学ぶ。	講義	【予習】SHRの具体的な在り方についてまとめておく。【復習】学級指導の在り方について復習しておく。	30 30
7回	テーマ 内容	学級指導の実際 班でSHR（朝の会・帰りの会）の在り方を検討し、グループワーク（模擬SHR）を行い、活動内容を検証する。	講義 演習	【予習】学修教材8を読み込んでおく。【復習】班で考えた模擬SHRをまとめレポートを提出する。	30 60
8回	テーマ 内容	生徒指導の意義と在り方 生徒指導の意義と及び生徒指導を充実させるための指導方法等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材9（問題行動事例）を読み込んでおく。【復習】生徒指導の意義と在り方について復習する。	30 30
9回	テーマ 内容	問題行動に係る事例研究 生徒の問題行動（いじめ、生徒間暴力、対教師暴力等）に関する事例研究から問題行動の実態及び対応について学ぶ。	講義 演習	【予習】学修教材10を読み込んでおく。【復習】問題行動事例・対応を教育関連図書で調査し、レポートを提出する。	30 60
10回	テーマ 内容	学級経営と学級経営案の作成 学級経営の在り方や学級経営案との関係、学級経営案の作成方法等について学ぶ。	講義 演習	【予習】既習の学習指導案作成方法について復習しておく。【復習】学級経営案を作成し提出する。	20 10 0

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ 内容	学習指導案の作成 教科教育法等で習得した知識・技能を活かし教科・科目の学習指導案及び教材の作成に取り組む。	講義 演習	【予習】模擬授業のための教材作成の準備をする。【復習】学習指導案を作成し提出する。	20 10 0
12回	テーマ 内容	模擬授業と授業研究① 作成した学習指導案と教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業用の教材を完成する。	30 10 0
13回	テーマ 内容	模擬授業と授業研究② 作成した学習指導案と教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業の反省をまとめ提出する。	30 90
14回	テーマ 内容	教育実習の反省1 教育実習における授業(教材研究、学習指導案作成、研究授業等)の課題を検討し、改善を図る。	講義 演習	【予習】教育実習の反省をまとめておく。【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめ提出する。ポートフォリオ評価(到達度レポート)をまとめる。	30 60
15回	テーマ 内容	教育実習の反省2 教育実習における生徒指導(生徒の関わり、掃除・給食・安全面の指導、学級経営等)やサービス(出欠状況、挨拶、言葉遣い、服装等)の課題を検討し、改善を図る。	講義 演習	【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめ提出する。ポートフォリオ(到達度レポート)の提出。	60

科目名	☆事前・事後指導（3ナ微生）				開講学年	3	講義コード	2813101	区分	選択	
英文表記	Pre-Post Guidance				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	木村 勝美										
研究室	本館付属棟 311						オフィス アワー 昼休みの時間（本館付属棟311）				
メールアドレス	kimura77@ed.soyo-u.ac.jp										
キーワード	教育実習の意義 教育実習上の課題 教育実習の心構え										
授業概要	事前・事後指導は、将来教員を目指すに学生に対し、教育実習に必要な教科指導や生徒指導等の既習内容のまとめを行い、円滑に教育実習が行える資質・能力を育成する科目である。教育実習は、大学での教職科目や専門教科等で学んだ知識・技能を学校現場で検証する機会であり、また、授業、学級(HR)活動等を通して、先輩教師、生徒達から多くのものを学び、教育への魅力を実感し、その後の大学生活を改善し、理想の教師へ向けて必死に努力する学生が増えるなど、教職を目指す学生に大きな影響を与えるものである。このような教育実習の意義を考慮し、事前指導においては、充実した教育実習を行えるよう学校教育活動や教科指導・生徒指導等のあり方についての講義・演習等を通して実践的指導力、人間関係形成・社会形成能力等を育成する。また、事後指導においては、実習で経験した課題解決に向けて計画的に取り組んでいける自己管理能力や課題対応力等を培う。							関連科目			
								1 基礎科目:教職に関する1年～2年までに履修した全科目、教科に関する科目(工業・情報・理科・芸術) 2 連携科目:教科教育法(工業・情報・理科・美術)、道徳教育指導論 3 発展科目:教育実習、教職実践演習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
h,g	①	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に係る自己課題を明確にし課題解決へ向けて取り組むことができる。									
d	②	指導過程・教材・発問・板書等を工夫し、教科・科目に係る模擬授業を適切に行うことができる。									
h	③	授業内容に関する課題に対して調査研究し、適切な文章で報告(レポート)することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	40	50	0	10	0	100		
教科書	事前・事後指導に関する自作教材										
参考書	中学校学習指導要領解説理科編・美術編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説工業編・情報編・理数編・美術編 文部科学省										

予備知識	1～3年まで学修した教職科目(教職概論、教育制度論、教育課程・特別活動論、教科教育法、道德教育指導論、生徒指導論等)及び専門科目に係る知識・技能
DPとの関連	事前・事後指導の授業において、教育者としての使命感や教育的愛情等の育成とともに、挨拶、言葉遣い、適切な服装等の社会人としてのマナーを身に付けることは、人間関係形成・社会形成能力の育成に繋がるものである。さらに教育実習上の自己課題を分析し、計画的に課題解決に取り組むことは、将来の課題対応力の育成に繋がるものである。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.レポート 授業内容に関する課題及び図書館の教育関連図書を活用した課題レポート10点×4=40点 2.成果発表(口頭・板書・実技等) ①模擬SHR発表 10点 ②事例研究発表 20点 ③模擬授業 20点 3 ポートフォリオ 10点 ・到達目標を達成できたかを評価する。

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション・教育実習の意義 事前・事後指導に係るシラバス及び履修上の注意について説明する。教育実習の意義や目的、教育実習の内容（講話・観察・実習）について学ぶ。	講義	【予習】学修教材2を読み込んでおく。【復習】教育実習の意義について復習しておく。	30 30
2回	テーマ 内容	教育実習校からの指摘事項や先輩の教育実習後の感想等から教育実習上のこれまでの課題を把握し課題への対応を検討する。	講義	【予習】学修教材3を読み込んでおく。【復習】教育実習上の課題と対応について復習しておく。	30 30
3回	テーマ 内容	教育実習へ向けての自己課題の把握 教育実習に向けての自己の課題（教科指導・生徒指導・学級経営等）を把握し、課題克服のための取り組みを検討する。	講義 演習	【予習】学修教材4を読み込んでおく。【復習】教育実習に係る自己の課題解決策をまとめ提出する。	30 40
4回	テーマ 内容	教育実習上の心構え 教育実習において心がける事柄、服務、学習指導、生徒指導、学級経営等の在り方について学ぶ。	講義	【予習】学修教材5を読み込んでおく。【復習】教育実習上の心構えについて復習しておく。	30 30
5回	テーマ 内容	教育実習上の留意事項 服装・礼儀・言葉遣い等の礼儀作法や報告・連絡・相談等の社会人としての基本的姿勢について学ぶ。	講義	【予習】学修教材6を読み込んでおく。【復習】教育実習における留意点についてまとめ提出する。	30 60
6回	テーマ 内容	学級指導の在り方 SHR（朝の会・帰りの会）での学級指導の在り方（連絡・健康観察・出欠確認・諸連絡・教室管理・講話等）について学ぶ。	講義	【予習】SHRの具体的な在り方についてまとめておく。【復習】学級指導の在り方について復習しておく。	30 30
7回	テーマ 内容	学級指導の実際 班でSHR（朝の会・帰りの会）の在り方を検討し、グループワーク（模擬SHR）を行い、活動内容を検証する。	講義 演習	【予習】学修教材8を読み込んでおく。【復習】班で考えた模擬SHRをまとめレポートを提出する。	30 60
8回	テーマ 内容	生徒指導の意義と在り方 生徒指導の意義と及び生徒指導を充実させるための指導方法等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材9（問題行動事例）を読み込んでおく。【復習】生徒指導の意義と在り方について復習する。	30 30
9回	テーマ 内容	問題行動に係る事例研究 生徒の問題行動（いじめ、生徒間暴力、対教師暴力等）に関する事例研究から問題行動の実態及び対応について学ぶ。	講義 演習	【予習】学修教材10を読み込んでおく。【復習】問題行動事例・対応を教育関連図書で調査し、レポートを提出する。	30 60
10回	テーマ 内容	学級経営と学級経営案の作成 学級経営の在り方や学級経営案との関係、学級経営案の作成方法等について学ぶ。	講義 演習	【予習】既習の学習指導案作成方法について復習しておく。【復習】学級経営案を作成し提出する。	20 10 0

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案の作成	講義 演習	【予習】模擬授業のための教材作成の準備をする。【復習】学習指導案を作成し提出する。	20 10 0
	内容	教科教育法等で習得した知識・技能を活かし教科・科目の学習指導案及び教材の作成に取り組む。			
12回	テーマ	模擬授業と授業研究①	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業用の教材を完成する。	30 10 0
	内容	作成した学習指導案と教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
13回	テーマ	模擬授業と授業研究②	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業の反省をまとめ提出する。	30 90
	内容	作成した学習指導案と教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
14回	テーマ	教育実習の反省1	講義 演習	【予習】教育実習の反省をまとめておく。【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめ提出する。ポートフォリオ評価(到達度レポート)をまとめる。	30 60
	内容	教育実習における授業(教材研究、学習指導案作成、研究授業等)の課題を検討し、改善を図る。			
15回	テーマ	教育実習の反省2	講義 演習	【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめ提出する。ポートフォリオ(到達度レポート)の提出。	60
	内容	教育実習における生徒指導(生徒の関わり、掃除・給食・安全面の指導、学級経営等)やサービス(出欠状況、挨拶、言葉遣い、服装等)の課題を検討し、改善を図る。			

科目名	☆事前・事後指導（4 機建宇情美デ）				開講学年	3	講義コード	2813201	区分	選択	
英文表記	Pre-Post Guidance				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	木村 勝美										
研究室	本館付属棟 3 1 1						オフィス アワー 昼休みの時間（本館付属棟311）				
メールアドレス	kimura77@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	教育実習の意義 教育実習上の課題 教育実習の心構え										
授業概要	事前・事後指導は、将来教員を目指すに学生に対し、教育実習に必要な教科指導や生後指導等の既習内容のまとめを行い、円滑に教育実習が行える資質・能力を育成する科目である。教育実習は、大学での教職科目や専門教科等で学んだ知識・技能を学校現場で検証する機会であり、また、授業、学級(HR)活動等を通して、先輩教師、生徒達から多くのものを学び、教育への魅力を実感し、その後の大学生活を改善し、理想の教師へ向けて必死に努力する学生が増えるなど、教職を目指す学生に大きな影響を与えるものである。このような教育実習の意義を考慮し、事前指導においては、充実した教育実習を行えるよう学校教育活動や教科指導・生徒指導等のあり方についての講義・演習等を通して実践的指導力、人間関係形成・社会形成能力等を育成する。また、事後指導においては、実習で経験した課題解決に向けて計画的に取り組んでいける自己管理能力や課題対応力等を培う。							関連科目			
								1 基礎科目:教職に関する1年～2年までに履修した全科目、教科に関する科目(工業・情報・理科・芸術) 2 連携科目:教科教育法(工業・情報・理科・美術)、道徳教育指導論 3 発展科目:教育実習、教職実践演習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
h,g	①	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に係る自己課題を明確にし課題解決へ向けて取り組むことができる。									
d	②	指導過程・教材・発問・板書等を工夫し、教科・科目に係る模擬授業を適切に行うことができる。									
h	③	授業内容に関する課題に対して調査研究し、適切な文章で報告(レポート)することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	40	50	0	10	0	100		
教科書	事前・事後指導に関する自作教材										
参考書	中学校学習指導要領解説理科編・美術編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説工業編・情報編・理数編・美術編 文部科学省										

予備知識	1～3年まで学修した教職科目(教職概論、教育制度論、教育課程・特別活動論、教科教育法、道德教育指導論、生徒指導論等)及び専門科目に係る知識・技能
DPとの関連	事前・事後指導の授業において、教育者としての使命感や教育的愛情等の育成とともに、挨拶、言葉遣い、適切な服装等の社会人としてのマナーを身に付けることは、人間関係形成・社会形成能力の育成に繋がるものである。さらに教育実習上の自己課題を分析し、計画的に課題解決に取り組むことは、将来の課題対応力の育成に繋がるものである。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.レポート 授業内容に関する課題及び図書館の教育関連図書を活用した課題レポート 10点×4＝40点 2.成果発表(口頭・板書・実技等) ①模擬SHR発表 10点 ②事例研究発表 20点 ③模擬授業 20点 3 ポートフォリオ 10点 ・到達目標を達成できたかを評価する。

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション・教育実習の意義 事前・事後指導に係るシラバス及び履修上の注意について説明する。教育実習の意義や目的、教育実習の内容（講話・観察・実習）について学ぶ。	講義	【予習】学修教材2を読み込んでおく。【復習】教育実習の意義について復習しておく。	30 30
2回	テーマ 内容	教育実習校からの指摘事項や先輩の教育実習後の感想等から教育実習上のこれまでの課題を把握し課題への対応を検討する。	講義	【予習】学修教材3を読み込んでおく。【復習】教育実習上の課題と対応について復習しておく。	30 30
3回	テーマ 内容	教育実習へ向けての自己課題の把握 教育実習に向けての自己の課題（教科指導・生徒指導・学級経営等）を把握し、課題克服のための取り組みを検討する。	講義 演習	【予習】学修教材4を読み込んでおく。【復習】教育実習に係る自己の課題解決策をまとめ提出する。	30 40
4回	テーマ 内容	教育実習上の心構え 教育実習において心がける事柄、職務、学習指導、生徒指導、学級経営等の在り方について学ぶ。	講義	【予習】学修教材5を読み込んでおく。【復習】教育実習上の心構えについて復習しておく。	30 30
5回	テーマ 内容	教育実習上の留意事項 服装・礼儀・言葉遣い等の礼儀作法や報告・連絡・相談等の社会人としての基本的姿勢について学ぶ。	講義	【予習】学修教材6を読み込んでおく。【復習】教育実習における留意点についてまとめ提出する。	30 60
6回	テーマ 内容	学級指導の在り方 SHR（朝の会・帰りの会）での学級指導の在り方（連絡・健康観察・出欠確認・諸連絡・教室管理・講話等）について学ぶ。	講義	【予習】SHRの具体的な在り方についてまとめておく。【復習】学級指導の在り方について復習しておく。	30 30
7回	テーマ 内容	学級指導の実際 班でSHR（朝の会・帰りの会）の在り方を検討し、グループワーク（模擬SHR）を行い、活動内容を検証する。	講義 演習	【予習】学修教材8を読み込んでおく。【復習】班で考えた模擬SHRをまとめレポートを提出する。	30 60
8回	テーマ 内容	生徒指導の意義と在り方 生徒指導の意義と及び生徒指導を充実させるための指導方法等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材9（問題行動事例）を読み込んでおく。【復習】生徒指導の意義と在り方について復習する。	30 30
9回	テーマ 内容	問題行動に係る事例研究 生徒の問題行動（いじめ、生徒間暴力、対教師暴力等）に関する事例研究から問題行動の実態及び対応について学ぶ。	講義 演習	【予習】学修教材10を読み込んでおく。【復習】問題行動事例・対応を教育関連図書で調査し、レポートを提出する。	30 60
10回	テーマ 内容	学級経営と学級経営案の作成 学級経営の在り方や学級経営案との関係、学級経営案の作成方法等について学ぶ。	講義 演習	【予習】既習の学習指導案作成方法について復習しておく。【復習】学級経営案を作成し提出する。	20 10 0

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ 内容	学習指導案の作成 教科教育法等で習得した知識・技能を活かし教科・科目の学習指導案及び教材の作成に取り組む。	講義 演習	【予習】模擬授業のための教材作成の準備をする。【復習】学習指導案を作成し提出する。	20 10 0
12回	テーマ 内容	模擬授業と授業研究① 作成した学習指導案と教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業用の教材を完成する。	30 10 0
13回	テーマ 内容	模擬授業と授業研究② 作成した学習指導案と教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業の反省をまとめ提出する。	30 90
14回	テーマ 内容	教育実習の反省1 教育実習における授業(教材研究、学習指導案作成、研究授業等)の課題を検討し、改善を図る。	講義 演習	【予習】教育実習の反省をまとめておく。【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめ提出する。ポートフォリオ評価(到達度レポート)をまとめる。	30 60
15回	テーマ 内容	教育実習の反省2 教育実習における生徒指導(生徒の関わり、掃除・給食・安全面の指導、学級経営等)や服務(出欠状況、挨拶、言葉遣い、服装等)の課題を検討し、改善を図る。	講義 演習	【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめ提出する。ポートフォリオ(到達度レポート)の提出。	60

科目名	☆事前・事後指導（4ナ微生）				開講学年	3	講義コード	2813301	区分	選択	
英文表記	Pre-Post Guidance				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	木村 勝美										
研究室	本館付属棟 311						オフィス アワー 昼休みの時間（本館付属棟311）				
メールアドレス	kimura77@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	教育実習の意義 教育実習上の課題 教育実習の心構え										
授業概要	事前・事後指導は、将来教員を目指すに学生に対し、教育実習に必要な教科指導や生後指導等の既習内容のまとめを行い、円滑に教育実習が行える資質・能力を育成する科目である。教育実習は、大学での教職科目や専門教科等で学んだ知識・技能を学校現場で検証する機会であり、また、授業、学級(HR)活動等を通して、先輩教師、生徒達から多くのものを学び、教育への魅力を実感し、その後の大学生活を改善し、理想の教師へ向けて必死に努力する学生が増えるなど、教職を目指す学生に大きな影響を与えるものである。このような教育実習の意義を考慮し、事前指導においては、充実した教育実習を行えるよう学校教育活動や教科指導・生徒指導等のあり方についての講義・演習等を通して実践的指導力、人間関係形成・社会形成能力等を育成する。また、事後指導においては、実習で経験した課題解決に向けて計画的に取り組んでいける自己管理能力や課題対応力等を培う。							関連科目			
								1 基礎科目:教職に関する1年～2年までに履修した全科目、教科に関する科目(工業・情報・理科・芸術) 2 連携科目:教科教育法(工業・情報・理科・美術)、道徳教育指導論 3 発展科目:教育実習、教職実践演習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
h,g	①	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に係る自己課題を明確にし課題解決へ向けて取り組むことができる。									
d	②	指導過程・教材・発問・板書等を工夫し、教科・科目に係る模擬授業を適切に行うことができる。									
h	③	授業内容に関する課題に対して調査研究し、適切な文章で報告(レポート)することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	40	50	0	10	0	100		
教科書	事前・事後指導に関する自作教材										
参考書	中学校学習指導要領解説理科編・美術編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説工業編・情報編・理数編・美術編 文部科学省										

予備知識	1～3年まで学修した教職科目(教職概論、教育制度論、教育課程・特別活動論、教科教育法、道徳教育指導論、生徒指導論等)及び専門科目に係る知識・技能
DPとの関連	事前・事後指導の授業において、教育者としての使命感や教育的愛情等の育成とともに、挨拶、言葉遣い、適切な服装等の社会人としてのマナーを身に付けることは、人間関係形成・社会形成能力の育成に繋がるものである。さらに教育実習上の自己課題を分析し、計画的に課題解決に取り組むことは、将来の課題対応力の育成に繋がるものである。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.レポート 授業内容に関する課題及び図書館の教育関連図書を活用した課題レポート10点×4=40点 2.成果発表(口頭・板書・実技等) ①模擬SHR発表 10点 ②事例研究発表 20点 ③模擬授業 20点 3 ポートフォリオ 10点 ・到達目標を達成できたかを評価する。

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション・教育実習の意義 事前・事後指導に係るシラバス及び履修上の注意について説明する。教育実習の意義や目的、教育実習の内容（講話・観察・実習）について学ぶ。	講義	【予習】学修教材2を読み込んでおく。【復習】教育実習の意義について復習しておく。	30 30
2回	テーマ 内容	教育実習校からの指摘事項や先輩の教育実習後の感想等から教育実習上のこれまでの課題を把握し課題への対応を検討する。	講義	【予習】学修教材3を読み込んでおく。【復習】教育実習上の課題と対応について復習しておく。	30 30
3回	テーマ 内容	教育実習へ向けての自己課題の把握 教育実習に向けての自己の課題（教科指導・生徒指導・学級経営等）を把握し、課題克服のための取り組みを検討する。	講義 演習	【予習】学修教材4を読み込んでおく。【復習】教育実習に係る自己の課題解決策をまとめ提出する。	30 40
4回	テーマ 内容	教育実習上の心構え 教育実習において心がける事柄、職務、学習指導、生徒指導、学級経営等の在り方について学ぶ。	講義	【予習】学修教材5を読み込んでおく。【復習】教育実習上の心構えについて復習しておく。	30 30
5回	テーマ 内容	教育実習上の留意事項 服装・礼儀・言葉遣い等の礼儀作法や報告・連絡・相談等の社会人としての基本的姿勢について学ぶ。	講義	【予習】学修教材6を読み込んでおく。【復習】教育実習における留意点についてまとめ提出する。	30 60
6回	テーマ 内容	学級指導の在り方 SHR（朝の会・帰りの会）での学級指導の在り方（連絡・健康観察・出欠確認・諸連絡・教室管理・講話等）について学ぶ。	講義	【予習】SHRの具体的な在り方についてまとめておく。【復習】学級指導の在り方について復習しておく。	30 30
7回	テーマ 内容	学級指導の実際 班でSHR（朝の会・帰りの会）の在り方を検討し、グループワーク（模擬SHR）を行い、活動内容を検証する。	講義 演習	【予習】学修教材8を読み込んでおく。【復習】班で考えた模擬SHRをまとめレポートを提出する。	30 60
8回	テーマ 内容	生徒指導の意義と在り方 生徒指導の意義と及び生徒指導を充実させるための指導方法等について学ぶ。	講義	【予習】学修教材9（問題行動事例）を読み込んでおく。【復習】生徒指導の意義と在り方について復習する。	30 30
9回	テーマ 内容	問題行動に係る事例研究 生徒の問題行動（いじめ、生徒間暴力、対教師暴力等）に関する事例研究から問題行動の実態及び対応について学ぶ。	講義 演習	【予習】学修教材10を読み込んでおく。【復習】問題行動事例・対応を教育関連図書で調査し、レポートを提出する。	30 60
10回	テーマ 内容	学級経営と学級経営案の作成 学級経営の在り方や学級経営案との関係、学級経営案の作成方法等について学ぶ。	講義 演習	【予習】既習の学習指導案作成方法について復習しておく。【復習】学級経営案を作成し提出する。	20 10 0

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ 内容	学習指導案の作成 教科教育法等で習得した知識・技能を活かし教科・科目の学習指導案及び教材の作成に取り組む。	講義 演習	【予習】模擬授業のための教材作成の準備をする。【復習】学習指導案を作成し提出する。	20 10 0
12回	テーマ 内容	模擬授業と授業研究① 作成した学習指導案と教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業用の教材を完成する。	30 10 0
13回	テーマ 内容	模擬授業と授業研究② 作成した学習指導案と教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業の反省をまとめ提出する。	30 90
14回	テーマ 内容	教育実習の反省1 教育実習における授業(教材研究、学習指導案作成、研究授業等)の課題を検討し、改善を図る。	講義 演習	【予習】教育実習の反省をまとめておく。【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめ提出する。ポートフォリオ評価(到達度レポート)をまとめる。	30 60
15回	テーマ 内容	教育実習の反省2 教育実習における生徒指導(生徒の関わり、掃除・給食・安全面の指導、学級経営等)やサービス(出欠状況、挨拶、言葉遣い、服装等)の課題を検討し、改善を図る。	講義 演習	【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめ提出する。ポートフォリオ(到達度レポート)の提出。	60

科目名	☆教職実践演習（4機建美デ）				開講学年	4	講義コード	2813801	区分	選択	
英文表記	Practical Training for Teaching Profession				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	山本 康詞 上妻 利博 園部 博範 木村 勝美 西村 陽一										
研究室	本館付属棟 320						オフィス アワー 昼休み（本館付属棟 320）				
メールアドレス	@										
キーワード	教育課題への対応 教職員としての基本的資質 学級経営の実践 子どもや保護者との信頼関係 キャリア教育										
授業概要	<p>教職実践演習は、大学4年間で学んだ教職に関する知識と教育実習等で得た教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の再確認を行い、不足している知識や技能等を補い、教員としてその職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質・能力の定着を図る科目である。授業では、教員になる上での自己の課題を認識させ、その解決に取り組む中で研究や修養の必要性を自覚させ、自己理解・自己管理能力を育成する。主な授業の形態として、講義、討論、ロールプレイング、事例研究、発表活動等を組み合わせ、教育現場を想定した実践的活動を行うとともに、学校訪問、現職教員による講話を取り入れ、課題対応能力、人間関係・社会形成能力、キャリアプランニング能力等を培う。</p>							関連科目			
								<p>基礎科目：教職に関する科目、教科に関する科目、文部科学省令で定める科目、教育実習等</p>			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
g	①	自己の教育課題を授業や自主的学修を通して解決することができる。									
d	②	学習指導の基本的事項(専門的知識・技能、指導方法、教材作成等)を確実に身に付け、適切な模擬授業を行うことができる。									
f,j	③	ディベートやグループディスカッション等に主体的に参加し、意欲的に意見交換・発表をすることができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	65	25	0	10	0	100		
教科書	教職実践演習に関する自作教材 外部講師作成資料										
参考書	教職実践演習 大阪教育出版 梨木昭平										

予備知識	<p>・大学の講義内容(教科教育法や事前・事後指導等)及び教育実習等で身に付けた学習指導力や生徒指導力等</p>
DPとの関連	<p>教職実践演習の授業を通して、教員として必要な資質・能力である「教師としての使命感・責任感」、「教育的愛情」、「社会性や対人関係力」等を身に付けることは、人間関係形成・社会形成能力の育成に関連するものである。また、授業や自主的学修を通して教育実習等で認識した自己課題解決へ向けての取り組みは課題対応力の育成に繋がるものである。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.レポート 授業内容に関するレポート及び図書館の教育関連図書に関する課題のレポート (1)全体学習 5点×5=25点 (2)オムニバス 8点×5=40点 2.成果発表(口頭・板書・実技等) (1)模擬授業 20点 (2)確認とまとめ 5点 3.ポートフォリオ 10点 ・到達目標を達成できたかを評価する。</p>

1. 将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2. 授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3. 授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4. 遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5. 授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6. レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	教職実践演習ガイドス(全体学習) 教職実践演習の趣旨・内容・到達目標及び履修上の注意について説明する。自己の教育課題を認識し、課題解決のための方策や計画を立案する。	講義 演習	【予習】教職の意義や職務内容について確認しておく。【復習】〈課題と目標シート〉に自己課題・達成目標・方策等を書き提出する。	20 50
2回	テーマ 内容	教職の意義や職務内容等(全体学習) 現職教員や教育委員会関係者から、講義や演習を通じて教師の使命感や責任感、職務内容等について学ぶ。	講義 演習	【予習】教育実習時におけるいじめ問題についてまとめておく。【復習】外部講師の講義・演習から学んだことをまとめて提出する。	20 50
3回	テーマ 内容	いじめ問題等の今日的な教育課題への対応(オムニバス) 学校現場の喫緊の教育課題である「いじめ問題」への対応の仕方についての知識や実践的指導力を事例研究等を通して学ぶ。	講義 演習	【予習】既習内容から教員の基本的資質を確認しておく。【復習】〈いじめ問題への対応〉をまとめて提出する。	20 50
4回	テーマ 内容	教職員としての基本的資質(オムニバス) 事例研究やワーキングジョブを通して社会性や人間関係能力を培う。	講義 演習	【予習】学校現場訪問の視点を考えておく。【復習】〈教職員の基本的資質〉をまとめて提出する。	20 50
5回	テーマ 内容	学校現場訪問事前学習(全体学習) 教科指導法や生徒指導の在り方、部活指導の在り方等の学校現場訪問の視点をグループで話し合う。	講義 演習	【予習】学校見学の視点を確認しておく。【復習】〈課外授業・部活動見学の視点〉をまとめて提出する。	30 30
6回	テーマ 内容	学校現場訪問・調査(全体学習) 学校現場を見学・調査して、班で設定した視点に基づき見学内容をまとめる。	講義 演習	【予習】既習内容から学級経営の在り方を確認しておく。【復習】〈課外授業・部活動見学〉の内容をまとめて提出する。	20 50
7回	テーマ 内容	学級経営の実践演習(オムニバス) 学級活動(LHR)年間指導計画を作成し、相互評価する。	講義 演習	【予習】特別支援教育についてまとめておく。【復習】〈学級活動年間指導計画〉を整理し提出する。	20 50
8回	テーマ 内容	特別支援教育の現状と対応(全体学習) 特別支援教育専門家による発達障害等についての講演及び事例研究により特別支援教育について学ぶ。	講義 演習	【予習】既習内容から子どもと保護者の信頼関係の構築方法を確認しておく。【復習】〈特別支援教育の現状と対応〉をまとめて提出する。	30 50
9回	テーマ 内容	子どもや保護者との信頼関係の構築及び交流(オムニバス) 子ども・保護者の気持ちの理解、子ども・保護者の話の受容的傾聴の在り方、子ども・保護者の気持ちに即した助言の在り方等について学ぶ。	講義 演習	【予習】既習内容からキャリア教育について確認しておく。【復習】〈受容的傾聴の在り方等〉についてまとめて提出する。	20 50
10回	テーマ 内容	学校教育の諸課題(オムニバス) キャリア教育の視点に立った学校教育の在り方の実態を参考に討議し、具体的取組の方向性を学ぶ。	講義 演習	【予習】教育実習で作成した学習指導案を準備しておく。【復習】〈キャリア教育の取組の方向性〉をまとめて提出する。	20 50

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案の作成(オムニバス)	講義 演習	【予習】教育実習で作成した学習教材を準備しておく。【復習】模擬授業に関する学習指導案を完成する。	20 70
	内容	関係教科・科目の学習指導案の教材作成、発問の仕方、板書の工夫、教育機器の活用等を班別に検討し、協働して作成する。			
12回	テーマ	興味・関心や思考力等を高める教材の作成(オムニバス)	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業に関する学習教材を完成する。	20 70
	内容	学習指導案に沿って生徒の興味・関心を深め、思考力・判断力・表現力等を育成するための教材を班別に作成する。			
13回	テーマ	模擬授業と授業研究(オムニバス)	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業を反省し次回の模擬授業の準備をする。	20 70
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
14回	テーマ	模擬授業と授業研究(オムニバス)	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業の反省をまとめレポートを提出する。	20 50
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
15回	テーマ	資質・能力定着の確認及びまとめ	講義 演習	【復習】課題と目標シートをまとめ提出する。到達度レポート(ポートフォリオ)の作成・提出	80
	内容	教職実践演習を通じて習得した教員に必要な専門性と基本的資質の定着状況を確認しまとめる。			

科目名	☆教職実践演習（4ナ情微）				開講学年	4	講義コード	2813901	区分	選択	
英文表記	Practical Training for Teaching Profession				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	上妻 利博 園部 博範 木村 勝美 山本 康詞 西村 陽一										
研究室	本館306						オフィス アワー 昼休み（本館306）				
メールアドレス	@										
キーワード	教育課題への対応 教職員としての基本的資質 学級経営の実践 子どもや保護者との信頼関係 キャリア教育										
授業概要	<p>教職実践演習は、大学4年間で学んだ教職に関する知識と教育実習等で得た教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の再確認を行い、不足している知識や技能等を補い、教員としてその職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質・能力の定着を図る科目である。授業では、教員になる上での自己の課題を認識させ、その解決に取り組む中で研究や修養の必要性を自覚させ、自己理解・自己管理能力を育成する。主な授業の形態として、講義、討論、ロールプレイング、事例研究、発表活動等を組み合わせ、教育現場を想定した実践的活動を行うとともに、学校訪問、現職教員による講話を取り入れ、課題対応能力、人間関係・社会形成能力、キャリアプランニング能力等を培う。</p>							関連科目			
								<p>基礎科目：教職に関する科目、教科に関する科目、文部科学省令で定める科目、教育実習等</p>			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
g	①	自己の教育課題を授業や自主的学修を通して解決することができる。									
d	②	学習指導の基本的事項(専門的知識・技能、指導方法、教材作成等)を確実に身に付け、適切な模擬授業を行うことができる。									
f,j	③	ディベートやグループディスカッション等に主体的に参加し、意欲的に意見交換・発表をすることができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	65	25	0	10	0	100		
教科書	教職実践演習に関する自作教材 外部講師作成資料										
参考書	教職実践演習 大阪教育出版 梨木昭平										

予備知識	<p>・大学の講義内容(教科教育法や事前・事後指導等)及び教育実習等で身に付けた学習指導力や生徒指導力等</p>
DPとの関連	<p>教職実践演習の授業を通して、教員として必要な資質・能力である「教師としての使命感・責任感」、「教育的愛情」、「社会性や対人関係力」等を身に付けることは、人間関係形成・社会形成能力の育成に関連するものである。また、授業や自主的学修を通して教育実習等で認識した自己課題解決へ向けての取り組みは課題対応力の育成に繋がるものである。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.レポート 授業内容に関するレポート及び図書館の教育関連図書に関する課題のレポート (1)全体学習 5点×5=25点 (2)オムニバス 8点×5=40点 2.成果発表(口頭・板書・実技等) (1)模擬授業 20点 (2)確認とまとめ 5点 3.ポートフォリオ 10点 ・到達目標を達成できたかを評価する。</p>

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 内容	教職実践演習ガイドス(全体学習) 教職実践演習の趣旨・内容・到達目標及び履修上の注意について説明する。自己の教育課題を認識し、課題解決のための方策や計画を立案する。	講義 演習	【予習】教職の意義や職務内容について確認しておく。【復習】〈課題と目標シート〉に自己課題・達成目標・方策等を書き提出する。	20 50
2回	テーマ 内容	教職の意義や職務内容等(全体学習) 現職教員や教育委員会関係者から、講義や演習を通じて教師の使命感や責任感、職務内容等について学ぶ。	講義 演習	【予習】教育実習時におけるいじめ問題についてまとめておく。【復習】外部講師の講義・演習から学んだことをまとめて提出する。	20 50
3回	テーマ 内容	いじめ問題等の今日的な教育課題への対応(オムニバス) 学校現場の喫緊の教育課題である「いじめ問題」への対応の仕方についての知識や実践的指導力を事例研究等を通して学ぶ。	講義 演習	【予習】既習内容から教員の基本的資質を確認しておく。【復習】〈いじめ問題への対応〉をまとめて提出する。	20 50
4回	テーマ 内容	教職員としての基本的資質(オムニバス) 事例研究やワーキングジョブを通して社会性や人間関係能力を培う。	講義 演習	【予習】学校現場訪問の視点を考えておく。【復習】〈教職員の基本的資質〉をまとめて提出する。	20 50
5回	テーマ 内容	学校現場訪問事前学習(全体学習) 教科指導法や生徒指導の在り方、部活指導の在り方等の学校現場訪問の視点をグループで話し合う。	講義 演習	【予習】学校見学の視点を確認しておく。【復習】〈課外授業・部活動見学の視点〉をまとめて提出する。	30 30
6回	テーマ 内容	学校現場訪問・調査(全体学習) 学校現場を見学・調査して、班で設定した視点に基づき見学内容をまとめる。	講義 演習	【予習】既習内容から学級経営の在り方を確認しておく。【復習】〈課外授業・部活動見学〉の内容をまとめて提出する。	20 50
7回	テーマ 内容	学級経営の実践演習(オムニバス) 学級活動(LHR)年間指導計画を作成し、相互評価する。	講義 演習	【予習】特別支援教育についてまとめておく。【復習】〈学級活動年間指導計画〉を整理し提出する。	20 50
8回	テーマ 内容	特別支援教育の現状と対応(全体学習) 特別支援教育専門家による発達障害等についての講演及び事例研究により特別支援教育について学ぶ。	講義 演習	【予習】既習内容から子どもと保護者の信頼関係の構築方法を確認しておく。【復習】特別支援教育の現状と対応をまとめて提出する。	30 50
9回	テーマ 内容	子どもや保護者との信頼関係の構築及び交流(オムニバス) 子ども・保護者の気持ちの理解、子ども・保護者の話の受容的傾聴の在り方、子ども・保護者の気持ちに即した助言の在り方等について学ぶ。	講義 演習	【予習】既習内容からキャリア教育について確認しておく。【復習】〈受容的傾聴の在り方〉等についてまとめて提出する。	20 50
10回	テーマ 内容	学校教育の諸課題(オムニバス) キャリア教育の視点に立った学校教育の在り方の実態を参考に討議し、具体的取組の方向性を学ぶ。	講義 演習	【予習】教育実習で作成した学習指導案を準備しておく。【復習】〈キャリア教育の取組の方向性〉をまとめて提出する。	20 50

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案の作成(オムニバス)	講義 演習	【予習】教育実習で作成した学習教材を準備しておく。【復習】模擬授業に関する学習指導案を完成する。	20 70
	内容	関係教科・科目の学習指導案の教材作成、発問の仕方、板書の工夫、教育機器の活用等を班別に検討し、協働して作成する。			
12回	テーマ	興味・関心や思考力等を高める教材の作成(オムニバス)	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業に関する学習教材を完成する。	20 70
	内容	学習指導案に沿って生徒の興味・関心を深め、思考力・判断力・表現力等を育成するための教材を班別に作成する。			
13回	テーマ	模擬授業と授業研究(オムニバス)	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業を反省し次回の模擬授業の準備をする。	20 70
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
14回	テーマ	模擬授業と授業研究(オムニバス)	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業の反省をまとめレポートを提出する。	20 50
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
15回	テーマ	資質・能力定着の確認及びまとめ	講義 演習	【復習】課題と目標シートをまとめ提出する。到達度レポート(ポートフォリオ)の作成・提出	80
	内容	教職実践演習を通じて習得した教員に必要な専門性と基本的資質の定着状況を確認しまとめる。			

科目名	☆教職実践演習（4生）				開講学年	4	講義コード	2814001	区分	選択	
英文表記	Practical Training for Teaching Profession				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	木村 勝美 上妻 利博 園部 博範 山本 康詞 西村 陽一										
研究室	本館付属棟 3 1 1						オフィス アワー 昼休み（本館付属棟 3 1 1）				
メールアドレス	@										
キーワード	教育課題への対応 教職員としての基本的資質 学級経営の実践 子どもや保護者との信頼関係 キャリア教育										
授業概要	<p>教職実践演習は、大学4年間で学んだ教職に関する知識と教育実習等で得た教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の再確認を行い、不足している知識や技能等を補い、教員としてその職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質・能力の定着を図る科目である。授業では、教員になる上での自己の課題を認識させ、その解決に取り組む中で研究や修養の必要性を自覚させ、自己理解・自己管理能力を育成する。主な授業の形態として、講義、討論、ロールプレイング、事例研究、発表活動等を組み合わせ、教育現場を想定した実践的活動を行うとともに、学校訪問、現職教員による講話を取り入れ、課題対応能力、人間関係・社会形成能力、キャリアプランニング能力等を培う。</p>							関連科目			
								基礎科目：教職に関する科目、教科に関する科目、文部科学省令で定める科目、教育実習等			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
g	①	自己の教育課題を授業や自主的学修を通して解決することができる。									
d	②	学習指導の基本的事項（専門的知識・技能、指導方法、教材作成等）を確実に身に付け、適切な模擬授業を行うことができる。									
f,j	③	ディベートやグループディスカッション等に主体的に参加し、意欲的に意見交換・発表をすることができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	65	25	0	10	0	100		
教科書	教職実践演習に関する自作教材 外部講師作成資料										
参考書	教職実践演習 大阪教育出版 梨木昭平										

予備知識	<p>・大学の講義内容(教科教育法や事前・事後指導等)及び教育実習等で身に付けた学習指導力や生徒指導力等</p>
DPとの関連	<p>教職実践演習の授業を通して、教員として必要な資質・能力である「教師としての使命感・責任感」、「教育的愛情」、「社会性や対人関係力」等を身に付けることは、人間関係形成・社会形成能力の育成に関連するものである。また、授業や自主的学修を通して教育実習等で認識した自己課題解決へ向けての取り組みは課題対応力の育成に繋がるものである。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.レポート 授業内容に関するレポート及び図書館の教育関連図書に関する課題のレポート (1)全体学習 5点×5=25点 (2)オムニバス 8点×5=40点 2.成果発表(口頭・板書・実技等) (1)模擬授業 20点 (2)確認とまとめ 5点 3.ポートフォリオ 10点 ・到達目標を達成できたかを評価する。</p>

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 内容	教職実践演習ガイドス(全体学習) 教職実践演習の趣旨・内容・到達目標及び履修上の注意について説明する。自己の教育課題を認識し、課題解決のための方策や計画を立案する。	講義 演習	【予習】教職の意義や職務内容について確認しておく。【復習】〈課題と目標シート〉に自己課題・達成目標・方策等を書き提出する。	20 50
2回	テーマ 内容	教職の意義や職務内容等(全体学習) 現職教員や教育委員会関係者から、講義や演習を通じて教師の使命感や責任感、職務内容等について学ぶ。	講義 演習	【予習】教育実習時におけるいじめ問題についてまとめておく。【復習】外部講師の講義・演習から学んだことをまとめて提出する。	20 50
3回	テーマ 内容	いじめ問題等の今日的な教育課題への対応(オムニバス) 学校現場の喫緊の教育課題である「いじめ問題」への対応の仕方についての知識や実践的指導力を事例研究等を通して学ぶ。	講義 演習	【予習】既習内容から教員の基本的資質を確認しておく。【復習】〈いじめ問題への対応〉をまとめて提出する。	20 50
4回	テーマ 内容	教職員としての基本的資質(オムニバス) 事例研究やワーキングジョブを通して社会性や人間関係能力を培う。	講義 演習	【予習】学校現場訪問の視点を考えておく。【復習】〈教職員の基本的資質〉をまとめて提出する。	20 50
5回	テーマ 内容	学校現場訪問事前学習(全体学習) 教科指導法や生徒指導の在り方、部活指導の在り方等の学校現場訪問の視点をグループで話し合う。	講義 演習	【予習】学校見学の視点を確認しておく。【復習】〈課外授業・部活動見学の視点〉をまとめて提出する。	30 30
6回	テーマ 内容	学校現場訪問・調査(全体学習) 学校現場を見学・調査して、班で設定した視点に基づき見学内容をまとめる。	講義 演習	【予習】既習内容から学級経営の在り方を確認しておく。【復習】〈課外授業・部活動見学〉の内容をまとめて提出する。	20 50
7回	テーマ 内容	学級経営の実践演習(オムニバス) 学級活動(LHR)年間指導計画を作成し、相互評価する。	講義 演習	【予習】特別支援教育についてまとめておく。【復習】〈学級活動年間指導計画〉を整理し提出する。	20 50
8回	テーマ 内容	特別支援教育の現状と対応(全体学習) 特別支援教育専門家による発達障害等についての講演及び事例研究により特別支援教育について学ぶ。	講義 演習	【予習】既習内容から子どもと保護者の信頼関係の構築方法を確認しておく。【復習】特別支援教育の現状と対応をまとめて提出する。	30 50
9回	テーマ 内容	子どもや保護者との信頼関係の構築及び交流(オムニバス) 子ども・保護者の気持ちの理解、子ども・保護者の話の受容的傾聴の在り方、子ども・保護者の気持ちに即した助言の在り方等について学ぶ。	講義 演習	【予習】既習内容からキャリア教育について確認しておく。【復習】〈受容的傾聴の在り方〉等についてまとめて提出する。	20 50
10回	テーマ 内容	学校教育の諸課題(オムニバス) キャリア教育の視点に立った学校教育の在り方の実態を参考に討議し、具体的取組の方向性を学ぶ。	講義 演習	【予習】教育実習で作成した学習指導案を準備しておく。【復習】〈キャリア教育の取組の方向性〉をまとめて提出する。	20 50

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案の作成(オムニバス)	講義 演習	【予習】教育実習で作成した学習教材を準備しておく。【復習】模擬授業に関する学習指導案を完成する。	20 70
	内容	関係教科・科目の学習指導案の教材作成、発問の仕方、板書の工夫、教育機器の活用等を班別に検討し、協働して作成する。			
12回	テーマ	興味・関心や思考力等を高める教材の作成(オムニバス)	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業に関する学習教材を完成する。	20 70
	内容	学習指導案に沿って生徒の興味・関心を深め、思考力・判断力・表現力等を育成するための教材を班別に作成する。			
13回	テーマ	模擬授業と授業研究(オムニバス)	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業を反省し次回の模擬授業の準備をする。	20 70
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
14回	テーマ	模擬授業と授業研究(オムニバス)	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業の反省をまとめレポートを提出する。	20 50
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
15回	テーマ	資質・能力定着の確認及びまとめ	講義 演習	【復習】課題と目標シートをまとめ提出する。到達度レポート(ポートフォリオ)の作成・提出	80
	内容	教職実践演習を通じて習得した教員に必要な専門性と基本的資質の定着状況を確認しまとめる。			